

第20回 **NHK**

全国短歌俳句大会

NHK Zenkoku Tanka Haiku taikai

入選作品集

ジュニアの部

Junior



もくじ

ごあいさつ	1
NHK全国短歌大会ジュニアの部	3
NHK全国俳句大会ジュニアの部	47
選考について	98
学校の取り組み	99
参加校名・団体一覧	102

「NHK全国短歌・俳句大会」ジュニアの部は、NHK学園が平成元年から開催してきた大会を前身とします。平成十一年からはNHKも主催者に加わり、二十回目を迎えました。

今回も多くの作品をご投稿いただき、誠にありがとうございました。全国から寄せられた作品は、幼児、小・中学生あわせて短歌は一八、〇二九首、俳句は三九、三六一句を数えました。

毎日の暮らしの中での小さな気づきや感動を詠んだ作品、大切な友達や家族をジュニア世代ならではの視線で瑞々しく表現した作品、世界でいま起こっている事象を詠みこんだスケールの大きな作品など、それぞれ自分の言葉で表現した作品をお寄せいただきました。

全国の小学校、中学校では、短歌・俳句を詠む機会を増やす取り組みが増えています。熱意をもって子どもたちの感性を大切に育もうと努める先生方や、保護者のみなさまに、心から敬意を表します。

NHKとNHK学園では、新しい時代を生きるジュニア世代のみなさんが伝統的な短詩型文芸に取り組むことで、日本語の持つ美しさや、「五・七・五」、「五・七・五・七・七」という定型のリズムをしっかりと受け継ぎ、新たな文化を創造していくことを心から願っています。

NHKでは、Eテレで毎月第四日曜に放送している「短歌de胸キュン」「俳句さく咲く！」など、若い世代の方々に短歌・俳句を通じて日本語の魅力に触れていただける番組をお届けしています。これからもNHKのさまざまな放送番組を活用し、短歌・俳句に親しんでいただければ幸いです。

最後に、大会の開催にご尽力、ご支援を賜りました全国の学校関係者や保護者のみなさま、選者のみなさま、各団体のみなさまに厚く御礼申し上げます。

平成三十一年一月吉日

N H K 会 長 上 田 良 一

N H K 学 園 理 事 長 浜 田 泰 人

第20回NHK全国短歌大会

ジュニアの部

もくじ

ジュニア大賞	4
学校大賞・学校優秀賞・特別賞	5
●幼児・小学生の部	7
選者のことば 小島 なお	9
特選・秀作	10
入選	16
●中学生の部	27
選者のことば 松村 正直	29
特選・秀作	30
入選	36

ジュニア大賞

幼児・小学生の部

モンゴルでうまにのったよなつやすみどりのやまがとおくにみえた

神奈川県 横須賀学院小学校 1年

渡邊 洵

いきとめてソラスズメダイ見つけた日すこしつめたいはつしまのうみ

静岡県 静岡大学教育学部附属浜松小学校 2年

鈴木 悠日

なつまつりスモモあめやのおじいさんあかいてををしてことしもきてる

神奈川県 カリタス小学校 5年

菊池 彩希

ジュニア大賞

中学生の部

威勢のいい唐丹虎舞さくら祭り虎の頭が大きく揺れる

岩手県 釜石市立唐丹中学校 2年

上野 翔明

おさまらぬ雨音父の仕事場の道具置場がすねまでつかる

山口県 岩国市立玖珂中学校 2年

中村 恵都

宿題の最後のページに残されたスイカの種のうすあかい跡

東京都 海城中学校 3年

釜口 悠太

学校大賞



宮崎県

日向市立坪谷小学校

広島県

三次市立布野中学校

特別賞



福岡県

麻生学園小学校

兵庫県

兵庫県立神戸聴覚特別支援学校

鹿児島県

始良市立重富中学校

学校優秀賞



広島県

ぎんがの郷小学校

岐阜県

郡上市立大和西小学校

富山県

南砺市立井口中学校

東京都

東京学芸大学附属国際中等教育学校

・ジュニア大賞は学年順の掲載です。

短歌

幼児・小学生の部

特選・秀作は学年順都道府県別の掲載です



● 小島 なお
こじま なお
昭和六十一年東京都生れ。
「コスモス」同人。

言い切れなかった分は

● ● ● ●

小島 なお

説明できない良さ、というのは魅力的な歌が持っている特徴のひとつだと思います。

九合目息をするのがえらいとき石にだきつき石とねる

山登りで疲れてきた時、どうして石にだきついたのか。火照った身体に石の冷たさが心地よかったのかな、と考えてみます。けれど、「石とねる」と言われると急に普通じゃない世界に飛ばされてしまう。あがった息を石が吸ってくれるような、古代の感覚が呼び起こされてくるのです。

こうした作者のちよつと変わったオリジナルなルールや論理を見せられると、一体この作者はどんな心の持ち主なんだろうとぐんぐん引き込まれてしまいます。

せきらんうんひかつてなつてうづくまる

びようすうかぞえきよりたしかめる

ピカツとして、しばらくしたら雷が落ちた。思わずうづくまるほど、凄い音だったのでしよう。しかし一方で、学校で習った音の速度×時間の公式を計算している冷静な自分もいるということ。

自分の頭の中を他の人にわかってもらうのは大変です。ましてや三十一音の短歌で、というのとはほとんど無理でしょう。だから言いきれなかった分はいさぎよく諦めて、読んでもくれる人のためにとっておきます。

サボテンとアボカドだけがよく育つ平成最後の夏休みかな

「平成最後の夏」のフレーズはいまや大喜利状態ですが、ここでは「サボテンとアボカド」の厳しい時代を生き抜く力のありそうなユニークな組み合わせが、聞き飽きたはずのフレーズを新しくしています。平成最後の夏を作者はどう感じているのか。それは読者がいろいろに想像して良いことです。あるいは、ずっと未来のサボテンとアボカドだけが生き残った終末的楽園を想像しても。短歌のおもしろさは作る人と読む人がいて何倍にも膨らむのです。

特選

小島なお選



あさがおのかれてくようすなつやすみおわりかんじてこころさみしい

埼玉県 加須市立鴻荃小学校 1年 関口 凜咲

夏休みが始まった頃にはまだ蔓を伸ばしていた朝顔も、八月後半になるとだんだん萎れてくる。「かれてくようす」を日々観察する作者には、朝顔が夏休みの残り日数のバロメーターのように感じられていたのかもしれない。カ行の音がきれいに聞こえてくる一首。

モンゴルでうまにのったよなつやすみみどりのやまがとおくにみえた

神奈川県 横須賀学院小学校 1年 渡邊 洵

大草原と馬と山。たったそれだけの雄大な景色が一首いっばいに広がっている。馬の背の高さから見る世界はどんなだったのだろう。「みどりのやまがとおくにみえた」。素朴で素直な下句は、モンゴルの大地に開放されてあそぶ作者の身体から発せられた言葉だ。

いきとめてソラスズメダイ見つけた日すこしつめたいはつしまのうみ

静岡県 静岡大学教育学部附属浜松小学校 2年 鈴木 悠日

「ソラスズメダイ」は名前の通り、体表が空の色をしている魚。水の中ではずっと鮮やかな青色が目飛び込んだきたのだろう。「いきとめて」や「すこしつめたい」といった表現からは、全身で経験した出会いのよろこび、発見のよろこびが伝わってくる。

上みれば夜空に花火いっばいだかえりにであうとおくのりん

宮崎県 宮崎大学教育学部附属小学校 3年 佐藤 里菜

頭上に次々ひらく迫力ある花火もいけれど、帰り道に思いがけなく見えた小さな一輪の花火に作者の心は惹かれた。遠くの空に静かにあがった花火は、過ぎてゆく夏、今日という日、今この瞬間のきらめきの象徴となつて、夜の奥に消えていったのだ。

配られた紙で指切り血が出てる母さん指を四人がかこむ

岡山県 倉敷市立乙島小学校 4年 千田 優芽

怪我をした母さん指、すなわち人差し指を残し四本の指が取り囲む。親指が父さん、中指が兄さん、薬指が姉さん、小指が赤ちゃんで四人の家族である。呼び名を変えただけに、そこに架空の家族の一場面がありありと浮かびあがる……。てのひらの上のドラマ。

先生はそうじ時間にごみもってため息ついたつかれているの

佐賀県 白石町立北明小学校 4年 原 心華

先生が生徒のことを見ているのと同じくらい生徒も先生のことを見ている。たぶん誰に対してもなく、何気なくついた溜め息だったのではないか。先生が先生であることにちょっとだけ疲れた瞬間をよく捉えている。「ごみもって」がとてもリアル。

なつまつりスモモあめやのおじいさんあかいてをすることしもきてる

神奈川県 カリタス小学校 5年 菊池 彩希

お祭りの特別な時間を彩る赤いつやつやのスモモ餡。「ことしも」という言葉には、去年も（もしかしたら一昨年も）「おじいさん」の手を見ていた作者の眼差しが感じられる。酢に染まったその「あかいて」は今年もまた夏祭りの日がやってきたしるしなのだ。

森の中きれいな水がぼくたちの遊ぶ姿を黙視している

東京都 にしみたか学園三鷹市立井口小学校 6年 三上 周太

「きれいな水」は泉か、水たまりか。ふかぶかと静かな森の中、誰も見ていないはずなのに見えな（なにか）の視線を、水を通じて感じている「ぼく」。「黙視」という硬質な言葉のひびきには自然の持つ豊かな、それでいてすこしこわいような謎がひそんでいる。

秀作

小島なお選



できないよかごとんぼをいれるのはごめんねかえるさよならかえる

千葉県 佐倉市立小竹小学校 1年 久保木 友

かあさんとせんたくたたみしていたらずぼんのなかにあおむしいたよ

広島県 庄原市立比和小学校 1年 崎間 心音

夏による赤くかがやく光ありせんこう花火とちかづくかせい

岐阜県 郡上市立大和西小学校 2年 堀 夏彩

カラフルなおたまじゃくしの大ぐんだんスーパーボールはびゅんびゅん泳ぐ

京都府 ノートルダム学院小学校 2年 神長 龍飛

母の日に花のおんせんにきているよおばあさんとお母さんとひいおばあさんとわたし

青森県 平川市立平賀東小学校 3年 佐藤 穂空

ピカッパーとうち上げ花火広がっていくとき草が風におうよ

青森県 平川市立平賀東小学校 3年 竹村 慶斗

春色のマカロニサラダ箸通す小さきものの地下のトンネル

埼玉県 加須市立騎西小学校 3年 坂庭 大喜

太ようの子どもみたいなこのスイカ大きな口でかぶりつく

埼玉県 西武学園文理小学校 3年 橋本 風沙

ふうりん夏風ふいて鳴っている頭の中に海が広がる

東京都 八王子市立鹿島小学校 3年 木下 樹

雨の日に台風がきててい電だあかりをつけてたん生日みたい

岐阜県 郡上市立那留小学校 3年 前畑 有加

こりやすごい今年はいないおじいちゃん花火とともにおもいでうかぶ

静岡県 静岡大学教育学部附属浜松小学校 3年 長倉こと葉

はいチーズ写真をとったらさくらの木花が落ちてね顔がかくれた

広島県 ぎんがの郷小学校 3年 関本 壮汰

くらやみにかがやく星空流れ星ホタルの光ぼくの金バッチ

千葉県 船橋市立法典西小学校 4年 板垣 結心

きもだめしうしろにぞっとなんだろうしんしんとした森林だった

京都府 ノートルダム学院小学校 4年 中司莉々夏

まっかにね家がそまるよそのあとはどどん夜にすいこまれてく

広島県 ぎんがの郷小学校 4年 林原 夏希

夏空にレモンかざして目にしみたあおしろきいろ涼風ふいた

福岡県 麻生学園小学校 4年 池田 羽月

おばあちゃん七十五歳のたん生日ハリネズミみたいなケーキ食べてる

佐賀県 白石町立北明小学校 4年 島ノ江明菜

今週は楽しいうれしい三連休とび上がったらひまわりになる

青森県 三沢市立木崎野小学校 5年 柴田 愛未

山口でパジャマのまままで花火した心に残る夏の思い出

神奈川県 カリタス小学校 5年 田苗 智葉

歯のために三十回もかむのかよ時間がないぞ急げ給食

神奈川県 相模原市立共和小学校 5年 久光 倅

暑い日に二階から自転車見ていたら日に照らされてまぶしい車輪

新潟県 巻サミト教室 5年 早川 友彩

十和田湖の高速ボート台風でかおにつきさすだんがんの雨

静岡県 静岡大学教育学部附属浜松小学校 5年 本田 權

早くしていつもの母の口ぐせが夏休みでも続いているよ

佐賀県 鳥栖市立弥生が丘小学校 5年 川崎 太陽

あつすぎてもろこしうりにひともなくやけたにおいとおじさんひとり

埼玉県 さいたま市立田島小学校 6年 長道 風雅

川の中魚のたまり場石の山見わたす限り川の青空

神奈川県 カリタス小学校 6年 伊藤 美晴

迎え盆おばあちゃんがオニヤンマ姿を変えて旋回するよ

神奈川県 カリタス小学校 6年 大空 和叶

友達と遊んでるとき大好きなばあちゃんが来てみんなはだまる

岡山県 倉敷市立乙島小学校 6年 朴木 優衣

ポスターの中からさしだすジュースへと手をだしかけて我にかえるよ

広島県 ぎんがの郷小学校 6年 中井 亜海

風ふいてぼくのぼうし飛んでゆくまるで鳥の仲間のように

広島県 ぎんがの郷小学校 6年 宮前 怜央

春の海北の方にはシャチがいるそのおくふかくマッコウクジラ

高知県 土佐市立高岡第一小学校 6年 前田 光希

もう秋だはっぱが赤くなってきて新こうしゃのかべかがやいてる
大そうじ力いっぱいゆかをふく今日の空のようにきれいに

ヒュルヒュルと高く上がっていく花火夜空に開くあみのようだな

青い海魚が群れて泳いでる家族みんな夏にいるんだ

ききょうのかわいいいっぽみは紙風船空気をいれて月までとばそ

おぼん玉何に使用おうお母さんぼくのお金をかしてあげるよ

しゅわつとコンクリートが喉ならすおふるあがりのパパみたいだな

持ってきた暑中見まいの葉書をね友だちのあせビー玉みたい

つゆの日のポツポツとふる雨を見て自分の心雲に近づく

雪の日に何こもつくる雪だるま犬は雪たべおやはこたつに

あおいうみしろいおおなみやつてきてにげるいもうとおいかけるぼく

犬をかい妹出来たと思つたらいつもかまれるぼくが弟

たんぽぽのわたげに思い集まってみんなの思いゆらゆらとぶよ

スライダーあと3せんちたりなくてらいねんこそはのれるといいな

のりたいうちゅうにいけるエレベーターいけるといいなうちゅうのせかい

せきこんだセミのなき声おもしろいわたしはいえでピアノのれんしゅう

水やるとひまわりさんがおじぎしてわたしにあいさつかたじけない

母は見る色とりどりのもみじより青青とした足もとの苔

ISS西の夜空に手をふつた私も乗りたい宇宙そらのステーション

しづき上げ気持ちも泳ぐバタフライタッチでせまるあのしゅん間

3年	青森	新田	璃羽
4年	青森	芋田玲緒捺	
4年	青森	櫛引	稟椰
6年	青森	安藤	萌百
3年	岩手	乳井	櫻子
2年	宮城	佐藤	永幸
3年	宮城	風間	淳郎
3年	宮城	富樫	剛紀
6年	福島	野村	実祐
2年	茨城	土子	叶愛
3年	茨城	実川	光誠
3年	茨城	西尾	真
3年	茨城	師田	寧々
1年	群馬	矢島	咲吾
2年	群馬	小泉	宥翔
2年	群馬	高山	莉歩
2年	群馬	田村	優好
4年	群馬	大江	志歩
4年	群馬	グレイス愛マシエル	
4年	群馬	佐藤	百花

おじいちゃんフリマさがしにでかけるがおなじような家にあふれる

秋の空すぐ日がしずむなぜだろう考えてる間に時間は進む

エサがないふわふわ求めなでる手にいかるアルパカつばはきかける

しんがつきにもつがいっぱいどうしようらんどせるさんおうえんしてね

おじいちゃんトラクターでガタガタとやさいをうえるじゅんぴができた

夏休みまい日日記たいへんだきのうのことはおぼえていない

じいちゃんのはたけのすいかおいしいなたべなたべなとまたたべすぎた

まえうしろみぎひだりへとせいえんをうけていっぱつスイカがわれた

ばちばちとそろばんはじくほくたちにまけずにせみも大合唱だ

ばあちゃんママではないけどへそのおがつながっていた気がするんだよ

ひっこしでダンボールにはほくのものつめてるそとでなくせみのこえ

見上げれば空一面に花火かなとなりの町の活気伝わる

期待するサッカーボールけり心地年に一度のうれしいほくの日

日光の湖の風感じては学校をふと思り返すよ

夏休み祭りばやしでにぎやかにスーパースポーツはずんで飛んだ

おじいちゃんけむりにのって会いに来た今年もぼくは大きくなったよ

おうちではいつもねているおとうさんおしごといくとすばやいうごき

たいふうといっしょにはしるこうそくどうろまどにぶつかるあめのたま

青い空こんなにあついはずなのに見てるとなぜかすずしそう

負けないぞやめればすむよかあさんがゆずれないから負けたくないよ

4年 群馬 茂木 維吹

5年 群馬 笹木 凌弥

5年 群馬 敷中 優衣

1年 埼玉 羽柴 実莉

2年 埼玉 来須 柑菜

2年 埼玉 高津 保乃

2年 埼玉 平田 涼太

3年 埼玉 尾崎 珠悠

3年 埼玉 中川 佳亮

3年 埼玉 濱野茉奈実

3年 埼玉 福本悠太郎

5年 埼玉 樋口 啓都

5年 埼玉 藤田 茉兎

6年 埼玉 柏木 愛真

6年 埼玉 高橋 壮空

6年 埼玉 渡邊 嘉斗

1年 千葉 岡本 真優

1年 千葉 高橋 凜

2年 千葉 前川 達夢

3年 千葉 久保木心優

友達と水鉄砲の打ち合いでおたがいぬれて満足し合う

なら公園かわいいしかはいるけれど見てるところはあしもとばかり

夕日さん子どもの帰りを見まもって後ろふりむきお礼を言うよ

おばあちゃんスイカ食べた「あまいこれ」みんなで食べるともつとあまい

大昔大きい生きものいたんだよ生き物たちは形をのこして

昨日まで全部覚えていたのにな漢字のテスト空らん六個

ひいばあそうしきあとのしずけさがやけにこわくてふとんくるまる

バツはねあしのつよさではねるんだ大きいものは羽でとぶんだ

すいかはね一くち食べるととまらないつめたいあじが心にのこる

夏になり小川で遊ぶ声がするみんなの心流れていくよ

水泳で50メートル泳いだらすごくうれしくすごくくるしい

雨が残る、印象に深く。雨は廻ってこのからだにもいま、なっている。

しおひがりすなの中にははまぐりがはまぐり初めて光りあじわう

炭酸水シュワシュワあわがはじけてくガラスごしに見る澄んだ青空

落ちてくるかれ葉と共に南へと飛ぶ鳥の羽風に吹かれて

雪景色つめたいダイヤふりつもるマフラーまいて遊びに行こう

新学期周りの世界が変わってる頭が一つとびぬけている

夏明けて日記を読んで落ち着く日思い出残りのラムネの玉だ

きれいだなどっしり雪が積もる山おけしようにして春へでかける

運動会赤くて小さい太陽が子どもの上を転がっていく

4年	千葉	谷口 直翔
4年	千葉	中村 龍
4年	千葉	三井 茉奈
5年	千葉	相場 隼介
5年	千葉	北原 刻吏
6年	千葉	河村のどか
6年	千葉	山内 龍青
2年	東京	両角 柊摩
3年	東京	小野田 晶
3年	東京	矢後菜々美
4年	東京	村上 暖佳
5年	東京	植崎 穂花
5年	東京	海老澤凜生
6年	東京	大上 涼花
6年	東京	小林 彩乃
6年	東京	佐藤ひろ
6年	東京	船木 飛瑚
6年	東京	程島 大地
6年	東京	山本 百音
6年	東京	吉岡 美緒

入 選

太陽の強い日ざしで日焼けして丸くふくれた朱色のトマト

水色とだいだいの絵の具まじり合う夏の日ぐれのパレットの中

海水浴ザザーザザーと行き来する大きな海は迷子の子なの

かき氷富士山なのにちぢんでくにも食べるよシャリシャリシャリと

夕ぐれに祖父母がすわるえんがわのふうりんの音に聞き入るすがた

夏の空ざらざらとしたひまわりがぼかりと一つうかんで消えた

後ろには秋のおとずれつれてくる夏空かけるトンボの家族

死に神がせみのたましい回収し夏の終わりは給料アップ

弟やわがままばかり泣くばかり何をしててもかわいいばかり

耳すまし夜のさんぽに流れてるせみとこおろぎおとあわせ中

霜柱重たい土を支えてて春が近づき役目を終える

こだわるねぼくの先祖は武士だよねしつこい弟父は沈黙

朝方に家屋のおくにてわらゆれてひとり旅立つつばくろのひな

マンションのエレベーターですれちがう暑いですねのその後無言

入道雲口をぽっかり空見ると食べられそうで鳥はだが立つ

新学期夜空を見てもなにもない見せてくれない銀河鉄道

サボテンとアボカドだけがよく育つ平成最後の夏休みかな

テントのなかみんなカラスにおこされたおねえちゃんだけまだねているよ

一年生初めて弟風呂洗いできたとすぐによばれる

こしかけにすわって待ってるご先祖様盆ちょうちんでむかえに行くよ

5年 神奈川 赤塚 美咲

5年 神奈川 大島 凜

5年 神奈川 齊藤 智花

5年 神奈川 菅野 朱莉

5年 神奈川 遠矢 光彩

5年 神奈川 長谷部ひまり

5年 神奈川 山本 慶奈

6年 神奈川 小木曾千咲

6年 神奈川 浅井 祐那

6年 神奈川 安部 果音

6年 神奈川 板倉 諒治

6年 神奈川 大熊 芹奈

6年 神奈川 大澤 孝虎

6年 神奈川 杉山 愛実

6年 神奈川 橋本 茉和

6年 神奈川 松村 佳奈

6年 神奈川 渡邊日真里

1年 新潟 阿部 凜音

5年 新潟 赤川 高士

5年 新潟 石川 桃子

ダンゴむしいつもひかげであるいてるさわるとまるく小さくなるよ
ほんとかなかない花火きれいだなつづくといいなへいわな花火

宿題の音読聞いてもらったよばあばはぜったい花まるくれる

狂言の「雷」見たよおくびょうでちゅうしゃがこわいのほくとおなじだ

もう春だ七尾港まで魚つり巨大な魚父とつり上げる

すずめたち水田の米ねらってる金のプールにとびこんでいく

雪つもりとても寒い遊びたい雪で作ったこたつに入る

雪だるま冬が過ぎると消えるけど心の中に溶けこんでいる

ぶーんぶん私の周り飛ぶハエはサンマのにおいみつけたみたい

いせエビを食べるときだけ親せきがこの味しかとかみしめと言う

たいふうはつよいかぜふくがたたとたんはがれるたんぽにおちる

きりぎりすよるもないてるうるさいよいつねるのかなふしぎにおもう

水泳だけのびががんばりなみにのりなみはざぶんと早かったんだ

あつい日に家族で食べたすのものはわたしが作ったじまんの一つ

はか石にセミのぬけがらくつついて南無あみだ仏と言うかのように

次々とそうめんながれる休みなく食べても食べても終わらないんだ

弥生土器三千年も土の中やっとでてきてぼくの手の上

法隆寺大宝蔵院仏様顔ちがうけど全部やさしい

ドンとなりみんなの顔を照らしてる上がった花火目に残ってる

ざらざらとさくらのはなびらまう4がついちねんせいになりまする

2年	富山	西田 優太
2年	富山	本波すみれ
3年	石川	山本健之朗
3年	石川	山本康之朗
4年	石川	鵜家 拓斗
5年	長野	新井 大誠
6年	長野	高橋 迦葉
6年	長野	神田 煌希
6年	長野	小林 紗佳
6年	長野	込山 巧望
1年	岐阜	竹下 楓人
2年	岐阜	旗 大翔
3年	岐阜	雉野 主人
3年	岐阜	小島かなえ
4年	岐阜	井上 万緒
5年	岐阜	桑田 理史
6年	岐阜	白田光生人
6年	岐阜	笠野 真生
6年	岐阜	森 咲葵
1年	静岡	川嶋 咲奈

あいたいとねがつてみたらゆめのなかきよりゆうたちにおいかけられた

いもうとがげんきになってよかったよかぞくですごしあわせななつ

かわいいなあひるとともにあるきたいかわいいおしりおしりふりふり

さようならさいごにあそぶなつのにわせんこうはなびさみしくおちる

おとうとがあるきだしたよなつやすみわたしいつもおにごっこする

おひさまにちかづくほどにとおくなるあつさジリジリセミの鳴きこえ

みずたまりどこからきたのあじさいもうつつておどるたのしいなあめ

ひらいたらかさのあなからほしぞらがすこし見えたよとってもきれい

ビデオ見て初めて知った祖父の声話してみたい夢でもいいから

つばめさんすだちのころはなつなののんびりしててあきになったよ

ビオトープおたまじゃくしにてあしはえしっぱがのこつてもうすぐカエル

友だちと目を見開いて空の中色まざりあう打ちあげ花火

夏はまだわたすもんかと大空を通せんぼする入道雲

春の海一人ぼつんと立っているつりしてもなく一人ぼつんと

目のまえで大きなほこを見とどけてなにくわぬ顔でせみたちがなく

オリオン座見えない時はむし暑くね返りをうちすずしささがす

九合目息をするのがえらいとき石にだきつき石とねる

すいかわり空振り三振ぼくアウト砂浜の砂袋につめて

メダカたちエサのために集まってエサをやってもなおも集まる

雲がなく太陽だけが空にあり空を見ると二人だけのよう

1年 静岡 佐伯 和皇

1年 静岡 鈴木 緋里

1年 静岡 芹澤 景伍

1年 静岡 山口美莉依

1年 静岡 山口 桃奈

3年 静岡 杉山 慶多

1年 愛知 渡辺 六花

2年 愛知 武藤 功明

5年 滋賀 山本 陵平

2年 京都 安高 心春

2年 京都 中西 柚希

3年 京都 小西 紗愛

3年 京都 山本 希未

4年 京都 川村 颯真

4年 京都 酒井 智悠

4年 京都 城山 寛倅

4年 京都 新谷 泰生

4年 京都 山崎 碧人

6年 京都 中瀬 翼図

6年 京都 中村 元飛

台風で小さな木ほど倒れずに大きな木ほど傷つき倒れ

秋がくる夏のおわりにコオロギがおしえてくれる情報がかり

日本海荒れる大波境浜探すひすいは浜のどこかに

パパちゃんとかけっこしたらあかとんぼあかいろめがねでついてきちゃった

夏休みのお昼ごはんはしゃけむすび自分でむすびパパにもあげる

たのしいなでんぐりがえりぶりっじもてれびみるのもさかさます

そらみたらひこうきぐもがのびているしろいあしあとおいかけたい

ふとんからニョキッと二本出るあしは猛暑の夜に冷却中

夏休みおたまじゃくしの足はえたなんかすごいななんか愛しい

せきらうんひかってなつてうずくまるびようすうかぞえきよりたしかめる

ねえきいてこのきのどこかせみいるよむしとりあみをさがしてきてよ

みずかきがあつたらいいなひらおよぎとつくんしたよかえるになれた

ホホホホ毎日まいにちうぐいすがはげましてくる登校前に

赤い星何年ぶりに大接近ながめてみるよ星取県から

打ち水は何度やってもききめなしまいた先から道路がかわく

えん側の虫かごの中リンリンと音楽会に僕を呼ぶんだ

らんちゅうのメスがしんだよオス一びきえさのときしかうごかなくなった

おぼんの日おじいちゃん家のかべだから水ふうせんをいっぱいなげた

友だちとおにごっこしようと言ったけどじゃんけんまけておにばかりだな

公園でドッジボールの勝負したおれのかけ声セミのなき声

6年	京 都	藤野 清高
6年	京 都	桃城 美有
6年	京 都	安井 慎人
5歳	京 都	新谷 和花
3年	大 阪	三浦 楓巳
1年	兵 庫	水嶋 鈴菜
3年	兵 庫	國島みのり
5年	兵 庫	野澤 美祐
5年	兵 庫	藤涛 英介
5年	兵 庫	山口 創士
1年	奈 良	豊川 結唯
2年	奈 良	林 杏梨
3年	奈 良	茨木隆之介
4年	鳥 取	浦川 蘭世
4年	鳥 取	坂本萌ノ香
4年	鳥 取	村上 翔真
2年	岡 山	滝澤 樹規
3年	岡 山	平井はやと
3年	岡 山	村松 良織
4年	岡 山 郡	優大

お父さんぼくにむかって「がんばる」とだきしめた後手じゅつに行った

甲子園朝早くからホームランみんなさけんでセミのような声

大空に細くて曲がった白い雲しわまであつてぞうみたいだな

学校から帰ると弟泣いている子ねこが死んだわたしも泣いた

母さんがわざわざ見に来た発表会一回まちがえビデオは見ない

ぼくの犬ゲーム機かんでしたらとぼけた目をしてじっと見ている

たのしみはしずかなところで草原を走るようなゲームをする時

なんかひますることないなと上を見るぼーっとしてたらもうひとり私

友達の町が無くなった助けてね僕の応援みんなに届け

梅雨なのにびようしつでみたお月さまお母さんみたいにやさしいな

みぞのへび今にもぼくにとびかかるような気がして走ってにげた

かわいいなホソイトトンボとんでるよちいさいんだなスーパーの前

青空の下の木のかげセミランド町にひびいてきえていく声

さくらじまいつもみている写真の絵おばあちゃんのことこいしいなあ

虫めがねのぞいてみたらちがう場所くきは木のみきチョウはひこうき

つぎつぎとちいいかとったようれしいなたべるときにはあしから食べる

自転車に乗って行きたい遠い国ぼくの知らない風の王国

さい害でいとこにわたすはずだった給水ボトル家にわすれる

うみに行くはじめてくらげみつけたよあぶらのようにぶきみにうかぶ

なつのよるおばあちゃんの台所きゅうりのつけ物つまみぐい

4年	岡山	鈴木勝平太
4年	岡山	友国 翔太
4年	岡山	三浦ひまり
5年	岡山	太田 結月
5年	岡山	道広 一史
5年	岡山	宮川 壱
6年	岡山	奥山 悠聖
6年	岡山	中村 花音
6年	岡山	吉田 理人
1年	広島	徳永 美月
2年	広島	坂 琥太
3年	広島	マクラレン 麗音
3年	広島	秋濟 仁哉
3年	広島	坂口 碧
3年	広島	佐藤 結子
4年	広島	板谷 真紘
4年	広島	田中 青葉
4年	広島	橋本 謙
4年	広島	平田 敦暉
4年	広島	門田 聡介

火おこしのけむりに涙流れたよ次こそゴーグルもつていこうか
休んだらテストがどんどんたまってた今でもずっと災害にくむ

洪水の波がどんどん押し寄せて大太鼓の様波音轟く

大雨で近くの川があふれ出てつめたい水にコイ泳いでる

台風で魚や虫が流されたいつこの川にもどるだろうか

ふたあけてこげた黒ずみにおいだしうなぎのうまみ口でとけだす

気付いたら時間がすぎて水の中あげくのはてに手がおとしより

うめゼリーまるたにのせて待ちぼうけひらりひらりとオオムラサキが

広場の草兄と二人でかつてみて全てあつめてふとんを作る

夏の日にはのかに赤い夕ぐれをぼくは見ていたきれいな夕日

とびこみでキラキラひかる水面に指の先からすいこまれてく

寒くなりマフラーいつも命づな手ぶくろ合わせ冬の神器だ

なべの中大にぎわいのおでんのぐパパのめがねが真っ白になった

金魚すくい十秒間でやぶれちゃうさらに百円もう百円と

マスカット木にぶら下がりさるみたいきれいな色でおいしそうだな

金魚はね一ぴきとればまんぞくだ夏の思い出金魚ばちへと

ガタンゴトンおもたいせなかのランドセルバランスくずれてすりをつかむ

ばいきんぐふわふわたまごぽんとじゃむかぞくみんなのほてるのはん

絵につきは思いでいっぱいありすぎてどれにしようかまようげつまつ

そうめんがおなべの中で前まわり後まわりでたいそうしてる

4年	広島	門田 保子
5年	広島	北村 昊花
5年	広島	牧平 湊
5年	広島	宮地舞衣子
5年	広島	山中 悠風
6年	広島	今田航太郎
6年	広島	内田 圭祐
6年	広島	藤岡 透子
6年	広島	山口 花菜
4年	愛媛	柚山 篤志
5年	愛媛	野間 拓海
6年	高知	櫻木 晴人
6年	高知	藤田 歩
6年	高知	村岡 希音
6年	高知	山崎 夢乃
6年	高知	吉村伽瑠都
1年	福岡	内山 祐衣
1年	福岡	小山 佳純
2年	福岡	たぐま えいすけ
4年	福岡	村嶋 侑生

夜の雨まつすぐに落ちる雨つぶはライトに照らされ木々の葉を打つ

夜の空一人で歩く音楽と邪魔をされない秘密の時間

合宿の球けり後はまくら投げセミのおうえん夜まで続く

ひろったよかいのなかからたこのあしするりとにげてうみがまっくろ

なつのよるこわいはなしをみたくてもゆびのすきまでなにもみえない

おにの山もじゃもじゃ頭のみどりおにひかげいっばいたんけんしたい

登校中つばめの大群よってくるぼくに行くなといってるみたい

かくれんぼいいちゃんのへやかくててばあちゃんおどかし息とまりそう

スーパ-のおいしい肉を手にとって値段をみると置いていっちゃう

おじいちゃんごみのシュートにちょうせんだ入らない時母ごみ入れる

夏休み家族でつくるすなのしる時間も波もとまればいいな

野球部に入りたいのに入れないボールをもって空に投げたい

かき氷屋台の前でなやんでる頭の中はおなかいっばい

おばあちゃんそだてたすいかとばすたねどこまでとぶのにじのむこうへ

おこってるはちわれトマト甘いけどそのお口から何か言われそう

のぞきこむ鏡に映る口の中早く出てきて大人の証

筆箱は文ぼう具の家たくさんの文ぼう具たちが遊んでいるよ

なつのそらせみがみんなにいてるげんきいっばいぼくとどうきゅう

あおばずくひるまにでてくるふくろうだこちらをぎろぎろのぞいていたよ

おはようとボクがおきるのまっているきょうもさいたよボクのあさがお

6年 福岡 梶原 圭吾

6年 福岡 鎌滝 侑華

6年 福岡 松下 周叶

1年 佐賀 中原 慧人

1年 佐賀 松本 葵唯

3年 佐賀 森 春樹

4年 佐賀 稲富 康太

4年 佐賀 小川 主紘

4年 佐賀 香月 暖生

4年 佐賀 香月 梨花

4年 佐賀 馬場 月乃

4年 佐賀 山口 睦希

5年 佐賀 木原 颯

5年 佐賀 大畑詩奈乃

6年 大分 渡邊 若葉

6年 大分 梶原 佳子

6年 大分 御手洗彩絵

1年 宮崎 馬原 陸仁

1年 宮崎 山床 拓真

2年 宮崎 赤木 克陽

妹はなき虫だけどつよいんだ字は書けないけどぼくよりつよい

打ち上げる夏の代表大花火たいこみたいでぼくたちおどる

ばあちゃんに話しかけてはいないのに「何ですか」の幸せな時

夏のはやくこいこいヤママユよ水銀灯がたおれる前に

ゆうきだしをおをつけたらおどろいたやどんのうみでおさかなばれえど

四年間一度も休まずかいきんしょうかけほし米のひみつの力

はつもうでおみくじなんてと思いつつだいきちでるとすごいれしい

まだなのかこうふんしてるおとうがおおかみみたいにまちぶせしてる

捨てられた軍艦島に行きましたフェリーから見た「サヨナラハシマ」

2年 宮崎 中武 亮太

5年 宮崎 柏田 倅汰

5年 宮崎 黒木陽世里

5年 宮崎 廿日出真由子

1年 鹿児島 岩水 結香

4年 鹿児島 船津 睦輝

6年 沖縄 嘉手刈花乃

6年 沖縄 河野 楓磨

6年 アメリカ ノーサルマリー花子

短歌

中学生の部

特選・秀作は学年順都道府県別の掲載です

自分なりの言葉の組み合わせを・・・

松村 正直

中学生の歌を読みながら、自分が中学生だった頃を懐かしく思い出しました。短歌にはその時々場面や気持ちをありありと再現する力があります。自分の作った歌を後で読み返すと、アルバムを見るようにその時のことが甦ってくるでしょう。しかも、写真には心の中は写りませんが、短歌は気持ちも残すことができます。

短歌を詠むうえで大事なことが二つあります。一つは五・七・五・七・七の三十一音という定型を守ることです。短歌には難しい決まりごとは何もありませんが、この定型だけは唯一のルールとなっています。「万葉集」以来、実に千数百年にわたって、この音数律は受け継がれてきました。時代や社会が変わっても、この定型だけは変わらずに続いています。それはなぜでしょうか。定型に収めることで言葉が飛躍的に大きな力を発揮することとを、私たちが経験的に知っているからです。五・七・五・七・七の形になった言葉は、日常の言葉とは違ったものへと変化するのです。

もう一つ大事なことは、ありきたりな言葉、決まり文句はできるだけ避けるということです。「足が棒になる」「首を長くして待つ」などの慣用句や、「元気いっぱい」「未来を信じて」といったよく使われる言い回しは、短歌においてはあまり役に立ちません。それは誰もが使う言葉だからです。誰もが使う言葉で歌を詠むとみんな似たような歌になってしまい、その人の個性や個性が表れません。野球選手が自分に合ったバットやグローブを丁寧に手入れして使うように、自分なりの言葉の組み合わせを探しましょう。

短歌は大きな事件を詠むことも、日常の小さなできごとを詠むこともできます。そして、いつでもどこでも気軽に作れます。中学生の皆さん、ぜひこれからも短歌を作り続けてください。



● 松村 正直
まつむらまさなお
昭和四十五年東京都生まれ。
「塔」編集長。

特選

松村正直 選



暑い日に水分補給たっぷり魚のようにしたたるわたし

青森県 三沢市立堀口中学校 1年 佐藤穂乃佳

昨年の夏の猛暑が甦ってくる一首です。運動や部活をしている場面でしょうか。熱中症にならないように水分補給をするのですが、飲んだそばから汗になって流れ出てしまうのです。「魚のように」が独特ですね。汗びつしよりの身体感覚がよく表れています。

威勢のいい唐丹虎舞さくら祭り虎の頭が大きく揺れる

岩手県 釜石市立唐丹中学校 2年 上野 翔明

「唐丹虎舞さくら祭り」に迫力があります。桜の淡いピンクと虎の黄色の色彩が見えてきますね。釜石市の地名である「唐丹」が印象的で、獅子舞ならぬ「虎舞」との組み合わせに、唐獅子のイメージも浮かびます。ダイナミックな虎舞の動きが彷彿とする歌です。

炎天に挑むが如く草を刈る父の背中に風ひとつ無く

福島県 いわき市立玉川中学校 2年 村上綺愛羅

暑い盛りに庭や畑の草を刈っている父。「挑むが如く」が良いですね。猛然と伸びてくる草に一人で果敢に立ち向かう様子です。結句「風ひとつ無く」も、黙々と作業を続ける父の姿が感じられる表現です。それを作者は頼もしく見ているのでしょう。

円覚寺の雨は緑に染まりつつ山門に僕にしんと降る

神奈川県 海老名市立海西中学校 2年 渡辺 光紀

鎌倉の名刹円覚寺を訪れた歌ですが、「雨は緑に染まりつつ」が美しいですね。春から夏にかけての、木々の緑が鮮やかな季節でしょう。「山門に」に続けて「僕に」を持ってきたのが巧みで、巨大な山門のそばに作者が立つ立体的な構図が見えてきます。

すきとおるシュワシュワラムネたぐさんの小さな泡がびんを旅する

愛知県 長久手市立北中学校 2年 伊藤 真葵
透明な瓶に入ったラムネを飲む時の爽快感が伝わってくる歌です。下句が作者ならではの表現ですね。炭酸の無数の泡が動くのを「旅する」と捉えたのです。それによって瓶の中が広大な海や空のように感じられ、開放的な楽しさに満ちた歌になりました。

足見ると日焼けという名のくつしたがいつまでたつてもぬげないまま

愛知県 安城市立東山中学校 2年 富田侑良羽
日焼けして黒くなった肌ではなく、日焼けしていない部分を詠んだ着眼点が良かったです。足全体は日焼けしているのに、靴下に覆われていた部分だけがくつきり白く残っているのでしょうか。当然、本物の靴下のように脱ぐこともできないのです。

おさまらぬ雨音父の仕事場の道具置場がすねまでつかる

山口県 岩国市立玖珂中学校 2年 中村 恵都
昨年七月の西日本豪雨を詠んだ歌で、まだ雨が止まずに降り続けている場面です。描写が非常に具体的で、作者の感じた不安や恐れがひしひしと伝わってきました。結句は建物が脛の高さまで水に浸かっている状況で、差し迫った危険を感じます。

宿題の最後のページに残されたスイカの種のうすあかい跡

東京都 海城中学校 3年 釜口 悠太
夏休みの宿題の冊子に付いた「うすあかい跡」が具体的で、ありありと目に浮かびます。おそらく西瓜を食べながら宿題をやった日があったのでしょう。その時には気付かなかった跡を見つけて、終ってしまった夏休みを懐かしく思い出しているのです。

秀作

松村正直 選



祖母の家氣づけばドアが開いているおぼん中には祖父帰省する

岩手県 盛岡市立洪民中学校 1年 室野 瑛心

口数が一つ一つと減っていく吹奏楽部の大会前日

埼玉県 さいたま市立宮原中学校 1年 川村 怜子

金色のきれいな砂がまいあがる水にもぐると夜空みたいだ

埼玉県 鶴ヶ島市立藤中学校 1年 佐野 遥香

岩しずく鍾乳洞の腹の中深く静かに息をすいこむ

愛知県 東海学園東海中学校 1年 戸崎 源太

またおいで手を振る祖母とひぐらしの声がかさなる見えなくなっても

北海道 札幌市立明園中学校 2年 戸水 遥愛

炎天の燃えそうな砂ふみしめて弾むうきわにとまるウミネコ

青森県 五所川原市立五所川原第一中学校 2年 小野 桜

ユニフォーム袖を通した瞬間に泥にまみれる覚悟も着てる

青森県 弘前市立新和中学校 2年 工藤 有寿

青ペンでにじんだ箇所が海になるもうすぐ夏だと気分が上がる

茨城県 水戸市立第四中学校 2年 辻村由梨乃

高岡にひとりで暮らすばあちゃんを見守っている神様トンボ

東京都 葛飾区立金町中学校 2年 辻岡あるす

ムカデ達体育館を駆けめぐる四色の花の応援うけて

東京都 東京学芸大学附属国際中等教育学校 2年 古澤 直樹

蛍光ペン細いペン先紙に当て滲んだインクで描く蛍かな

東京都 武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校 2年 上野 璃日

せみとりのさおの届かぬ高さみてあきらめし子に父が手を貸す

東京都 富士見丘中学校 2年 浅井 飛鳥

夏祭りお化けやしきでこわいのはおわったあとの友達の顔

新潟県 新潟市立小新中学校 2年 斎藤 維斗

波際のイルカの浮き輪そのままに太陽見てるあなたと私

新潟県 新潟市立小新中学校 2年 渡部 一斗

梅雨の日の池の近くの紫陽花の若葉の下でねる雨蛙

静岡県 静岡市立清水興津中学校 2年 飯田 琳香

足を入れ水の温度を確かめるプールじゃなくて温泉みたい

愛媛県 伊方町立伊方中学校 2年 篠澤 莉緒

フレットはペットショップのケージにて双子みたいに仲良くあそぶ

高知県 高知市立大津中学校 2年 吉本 桃杏

私の声広がり響く武當館あいつに負けない声出しだけは

長崎県 平戸市立生月中学校 2年 坂口 智加

かいきん賞自分にとって嬉しいが相手にとって関係しないこと

鹿児島県 鹿児島市立坂元中学校 2年 鎌田 裕太

真夜中の闇にぬれいる木々たちの小さな声が森にあふれる

青森県 三沢市立堀口中学校 3年 小林 万葉

夏休み崖から飛び込む海の日にやませを浴びてさびつく自転車

岩手県 洋野町立宿戸中学校 3年 高谷 佳希

首すじに風うけなびく短髪の切りたての毛先いまだなじまず

埼玉県 朝霞市立朝霞第二中学校 3年 田中有理沙

音楽を聴くイヤフォンのすきまから田植えの前の青がえるの声

神奈川県 関東学院中学校 3年 鍛冶響太郎

わたあめがじわりと溶けるその瞬間なんだか君に逢いたくなつて

新潟県 佐渡市立南佐渡中学校 3年 長尾百々花

帰省した姉はどこか大人びて時計のように遠退いていく

新潟県 佐渡市立南佐渡中学校 3年 北島日奈向

警戒し何度も匂いを嗅ぎに来る久々に会う従兄弟の猫が

岐阜県 郡上市立大和中学校 3年 角田 達望

あしびきの山のすそのに沈みゆく夕日に染まる祖父の禿頭

佐賀県 佐賀県立武雄青陵中学校 3年 吉住 晴太

登下校川を渡ると思い出す島の祖父母の魚釣る姿

鹿児島県 始良市立重富中学校 3年 平井 啓悟

右左一緒につつくかき氷くすぐったさが口に広がる

鹿児島県 始良市立重富中学校 3年 取附 里奈

釣り糸を垂らせど釣れぬ日曜日^{そら}宙のトンビも海へは降りず

鹿児島県 鹿児島市立鴨池中学校 3年 出羽 空

朝つゆにふれて花さく君の顔この時間こそなごりおしくて

パプリカやりんごのような季節散る白に着がえて冬の到来

空からのふりくる白い結晶に二つならんでのびる足あと

冷えた手に吐く息かけてあたためるふと手に落ちる白い宝石

グランドを千五百メートル走りぬけ真夏の太陽を追いこしてゆく

家の自分と学校の自分は大きいがどちらが本当のわたしなのだろう

海にいき暑さしのぐため泳いだらわかめいっぱい足元にある

二重跳び草にあたらぬように跳べ強風がきて軌道が消える

雪国に冬がくるたびおとろえる私の父と父のシヨベルカー

焼けただれし瞬間何を思ったか八月六日の朝がまたくる

時鳥木立ちの枝をやどり木に緑の陰にかくれ飛び行く

面を打ち小手を打ちつつ胴を打つ三年間はそんな毎日

友達と一緒に走ると決めたのに友達一人びゅんびゅんといく

真夜中にみんなでいくぞきもだめしやっぱりすぐに幽霊が出た

最近の暑さに負けたうちの犬扇風機の前ゆずってくれない

うすぐらい夕ぐれの見上げればなくなりそうなおきな光

にぎやかに迎えてくれる美術室部活がなくても戻りたくなる

会うたびに友との距離は縮まるが日に日に見えてく彼の性格

ブランコで夕日を見つつ目を閉じたこのまま飛んで帰れるかな

いはばしる片岸川の上流でヤマメ釣るなり夏の幕開け

1年 北海道 坂下 結

1年 北海道 三上 敦弘

2年 北海道 横山 大翔

3年 北海道 宮崎 桃佳

1年 青森 須藤 翼

2年 青森 織笠 妃捺

2年 青森 齋藤 李

3年 青森 小野寺輝斗

3年 青森 葛西 一心

3年 青森 中村 咲

3年 青森 成田 奈波

3年 青森 森田 緯

1年 岩手 中坪 幸

1年 岩手 船越 撞真

2年 岩手 伊藤 愛花

2年 岩手 後川 蒼空

2年 岩手 内舘 梨紗

2年 岩手 及川 赳

2年 岩手 金野 愛里

2年 岩手 中嶋 駿太

様々な色がきれいに弧を描く紙の飛行機飛ぶ美術室

母親の自慢の野菜いとおしい僕の仕事は箱の組み立て

夏休みパーカッションの演奏で喜んでくれた患者さんたち

なんとなく覚えておきたい気持ちして本のしおりをページに残す

雨蛙窓にはりつき楽しげにドロップのような雨浴びている

あきあかね季節が山を下りゆき西の海へと消える夕暮れ

日日少しみんなの顔を見ることが自然と僕は教室にいた

成績表謎の重みを背負いつつ影と辿りし夏めく坂道

指揮台で動き始めたタクト見て心の思いを音へと変える

盆休み兄の帰省で盛り上がりうれしさ抑えて静かに帰る

ほこらしいたった二日の誘導板喧騒とともに忘れさられる

校庭のスパイクの跡見ているとそれだけ走った僕らの証

せみの音が弱くなりゆく夏の日に激しい音を求める私

痛そうだ画鋏が刺さるその壁はひたすら黙ってそこにいるだけ

僕のことチビだといってバカにするでかいやつらは心がチビだ

雨の日の家の屋根下たわむれるすずめの声が辺りに響く

きびきびと夏が始まりだらだらと夏が終わったそんな八月

三人で歩いていたらおそわれる尻尾を振った大型犬に

夏祭り浴衣の波に包まれて静まることない僕の心よ

トウシューズ使って買って買って繰り返し靴と一緒に飛んでくお金

2年	岩手	劉 藍曦
2年	岩手	和田 滉聖
3年	岩手	荒屋 来夢
3年	岩手	中津 瞳
3年	宮城	斎藤 咲希
2年	秋田	伊藤 且樹
2年	福島	大塩 仁夢
2年	福島	加藤 結
2年	福島	上遠野涼音
2年	福島	高木 大空
2年	福島	寺内 未来
2年	福島	本田 周大
3年	福島	黒木 理都
2年	茨城	落合 愛瑠
2年	茨城	柏原 悠也
2年	茨城	萩野谷 茜
2年	栃木	塩島 風
2年	栃木	廣田 壮吾
3年	栃木	蓬田 晴也
2年	群馬	梅田 苺香

先輩に引退しないでほしいから日本一を目指して歌う

夕方に空見上げるとウロコ雲かすかに香るさんまの匂い

五の玉を人指し指で弾いたら指先と玉の演奏開始

シャー芯をだしては入れての繰り返しここから進まぬあと四ページ

飛行機の進み行く音響いたら七十年前の終戦の夏

三千二百八十五回地球が回ってもそばにいた大好きな友がどこかへゆく

太陽と季節を吸って紅色に染まるトマトと私の頬と

プリントに小さくのった僕だって見つけてくれる母の優しさ

亡き祖父の想いを継いで響かせる祭り夜空に囃子の太鼓

山々が活気に満ちる木の芽ぶき明るく鳴くは雀の子かな

上がっては下がって上がるこの坂は我らが名物専松坂です

四時間目光に当たる水面が輝き出して呼び寄せてくる

肝だめし祖父につかまり目を閉じて何一つ見ずゴールした私

朝起きてふとベランダをのぞいたらきれいにさいた妹の花

よく見つめゆつくり履いて歩き出し喜び感じたあの日のローファー

八月の日差し届かぬ展示室三千年の夢見るミイラ

部活後に疲れて空を見上げればスプリングラーの水に虹出る

レモンの木朝露光る葉の影に羽を広げたアゲハチョウの子

入学式慣れない制服袖とおし父と並んで結ぶネクタイ

セミたちの鳴き声競う選こう会この声当選あの声落選

1年	埼玉	実松 舞桜
1年	埼玉	土田 詩
3年	埼玉	井上 諒平
3年	埼玉	香西 慎人
3年	埼玉	菅井 輝
3年	埼玉	中山來美奈
3年	埼玉	西田 美桜
3年	埼玉	藤巻 太郎
3年	埼玉	古澤 瑞基
2年	千葉	小林 奈菜
2年	千葉	白井 巴菜
1年	東京	内田 陽日
1年	東京	奥野 遥香
1年	東京	亀本 優羽
1年	東京	川嶋 里佳
1年	東京	鈴木 一生
1年	東京	津下 明星
1年	東京	坂東 士門
1年	東京	福島 里菜
1年	東京	八所 真皇

弟の朝顔ながめ思い出す六年前のまぶしいあさひ

様々な企業が提供花火大会分かってしまう企業の財力

消灯の時間が過ぎても皆話す本音を言うともう眠りたい

体育祭クラスでTシャツ作ったがそれだけ着ても一つになれない

羽黒山疲れが吹き飛ぶ力餅本殿目指しあと千段かな

照らされた机の上の世界地図ティモールに浮く消しカスの島

夏休み肌がオセロで何回もひっくり返し一人で笑う

夕涼みひざには君が尾っぽ振る愛しいけれど汗が引かない

可笑しいな東と西で違うのか流しそうめんそうめん流し

夏休みきれいに光るせんこう花火それくらい美しい祖父母の笑顔

一心に草食む馬と夏の海金色に染まる都井の夕方

ノートのねページ目だけ字がきれい続けたいけど難しすぎる

古き良き長谷から望む空と海青の融合美しくあり

かまぼこをお皿の上にならべるとピンクに染まった夕日の波に

あせだくの弟が見せたかごの中大量の虫とうれしき笑顔

自転車で少し遠くの図書館へ知らない道を冒険気分

子どもらが裸足で駆ける祖母の家そっと見守る庭のひまわり

街路樹や毎日必ず横過ぎる黒い頭と動く鉄たち

何人もこれを手に取り楽しんだ嫌いではない古本の匂い

けんかしてあやまりもせず仲なおり家族の仲ってそんなもんかな

1年 東京 山元 理駆

2年 東京 秋元 貫志

2年 東京 伊崎 理彩

2年 東京 大井 乃菜

2年 東京 大村 弘輝

2年 東京 小笠原悠太

2年 東京 落合 美空

2年 東京 落合 桃子

2年 東京 金尾 理奈

2年 東京 河井 雄太

2年 東京 川上 耀

2年 東京 菊池 美優

2年 東京 木村 一翔

2年 東京 呉 世安

2年 東京 郷原 理子

2年 東京 小林 遼聖

2年 東京 佐伯 美結

2年 東京 杉山 眺基

2年 東京 長坂 愛莉

2年 東京 野口 釉香

バス停のドアが開いてたバスに乗る誰もいないし車掌もない
荒川の大きな空に小さな手伸ばし感じる川風の音

赤青と夕暮れ空のパレットで昼夜が混ざりからすが歌う

居残りで遅くなったらいつもととは違う時間の空の赤色

学校中に一日音色鳴り響く吹奏楽の夏が始まる

水面にうつる花火をのぞき見て真っ赤なこいがおどろきはねる

かじかんだ拳を握り歩く坂春は近いと言い聞かせつつ

七夕はもうすぎたけどささの葉は願いまとってまだゆれている

「釣れない」とぼやく親父のすぐ後ろぬめりと光る岩魚の背中

XとYがゆらめく机には消しカスの山飛行機の音

夕焼けに背中を押され帰る道トンボが一匹右手にとまる

憲法を守る憲法ほしくなり8月6日平和を祈る

扇風機の羽の一つにあるシール動き続けるるるる、夜

残したいものは花火を見たことじゃなくてとなりに君がいたこと

見上げれば夜空に浮かぶアルタイル私の明日も翼広がる

藍色に染まる夜空の下歩く見えぬ花火の音を聞きつつ

陽が昇る駐輪場に出てみればカーブミラーにからむアサガオ

水かさが増して暴れる夏の川周り巻きこみ我が道を行く

太陽の熱さためこむトラックに足をふみ入れ自己ベスト目指す

浅草で雷門が見にくいとしよばいとおこる佐伯君の顔

2年	東京	萩原 慎平
2年	東京	朴 世実
2年	東京	原田 瑞希
2年	東京	深谷 玄太
2年	東京	松岡さくら
2年	東京	松沢 心花
2年	東京	宮下 遥
2年	東京	渡邊 優海
3年	東京	安徳慶太郎
3年	東京	総田 遊真
3年	東京	佐藤 水芳
3年	東京	篠 沙夕奈
3年	東京	高橋 慧
3年	東京	テベスクリステイン
3年	東京	中村 漣
3年	東京	廣常 亮
3年	東京	松尾 尚輝
3年	東京	山本 橋介
3年	東京	山本 凌雅
2年	神奈川	吾孫子亮大

もんじゃ焼き他の四人が食べている私は意味もなくヘラをもつ
帰宅して気付く鞆の炭火臭皆で作った焼きそば思う

幼き日住みし街角銀杏の樹再び歩む齒科医訪ねて

友達とかわした手紙見てみるとならんだ文字からなつかしい声

帰り道僕だけ一人座れずに棒立ちになる四十分間

六人で並んで見上げたスカイツリー青空の下で言葉をかわす

たこ焼きを買ってもどると誰もいないひとりぼっちの悲しい七夕

見えるかな七月七日ささの葉をまどに近づけ空をながめる

頭無き仏見つめる塔の先今は昔のここはアユタヤ

大漁だイカだサメだとみなさわぐはやく帰れと思う鳥たち

汗だらけ部活練習気付いたら背中に浮き出る日本列島

風鈴の音色が好きで買ったのにエアコンばかりで音が聞こえず

時を越え同じ夜空を共に舞う優しく光るゲンジとヘイケ

えんぴつにじわりじわりと汗にじむ結果はあとからついてくるもの

「にいちちゃん」と誘われ神輿初担ぎ痛む右肩夏の夕暮れ

木のように何も思わずただ人をなぐさめられるものになりたい

初めての楽しさあふれる総踊りを踊って笑って最高だっちゃ

蝸牛空が泣くのを見上げては慰めようと空へつの出す

水筒を垂直にして飲んだ夏風通る道涼しみながら

真夜中に君と私が出会う時銀河の橋がきれいにかかる

2年 神奈川 石田 結良

2年 神奈川 伊藤 優花

2年 神奈川 岩垣 侑利

2年 神奈川 大島みなみ

2年 神奈川 岡部 景達

2年 神奈川 田村 遥

2年 神奈川 中鉢 悠太

2年 神奈川 仲辻 萌黄

2年 神奈川 増子 仁哉

2年 神奈川 宮崎 陸

3年 神奈川 青木 結香

3年 神奈川 石井 里奈

3年 神奈川 中川 結翔

3年 神奈川 松浦 海里

3年 神奈川 宮城 哲也

3年 神奈川 森 裕太郎

1年 新潟 安藤 睦実

2年 新潟 猪股 柚美

2年 新潟 酒井 志和

2年 新潟 広瀬 天音

冬の朝楽器触る手冷たくて手と手合わせて白い息吐く

網戸から僕の部屋に聞こえてくる日没過ぎの子供達の声

シャーペンをかチリと押して出すやる気スイッチ切り替えうまくいくかな

夏空や雪積もりたる立山の何にも負けずそびえ立ちたる

暑いのに勉強しろと言う人は人に言うだけ自分はしない

月明かり輝く中に猫二匹しずかに間合詰めてゆく夜

千体の仏の顔を眺めては祖父母の顔を思い出したり

龍安寺広がる石庭まっ白だ何度数えても見えない一つ

信号が青になる前信号が全て赤くなる瞬間が好き

城探し険しい道を登りつめ肌で感じる郡上の歴史

今生の別れが来る表情^{かお}をして迷子が「ママ」と叫び駆けゆく

夕暮れに窓開け放つ教室で私のチューバ真っ赤に染まる

暑過ぎて外に出るのも嫌な午後のならねこ達はどこにいるのかな

閉め切った窓を開ければ秋の風枝に残った脱け殻ひとつ

家出したネコは家族の努力知らずセミをくわえて夏を楽しむ

夏の山豹の模様の蝶が舞い追う我の目もまた豹の様

浜松の澄んだ青空その中に基地より一羽大鷲飛び立つ

能楽堂はんにゃの面の口元が恐ろしすぎてひるんでしまう

元気良い声がしたのは少し前今ではきれいな声がきこえる

ゴムくわえ長い髪結ぶプール後の小さい足跡大きい足跡

2年 新潟 皆川 陽

3年 新潟 佐々木 悠

2年 富山 篠崎さくら

2年 富山 橋馬 康平

2年 富山 山崎 史恩

3年 富山 光地 綾雅

2年 福井 藤田 柊弥

2年 福井 堀内 沙弥

2年 長野 藤森 寛生

3年 岐阜 遠藤 颯太

1年 静岡 大野 慧士

2年 静岡 小澤 結

2年 静岡 竹田 虎白

1年 愛知 加藤 晴己

1年 愛知 榊原 大知

1年 愛知 仲尾 応

1年 愛知 中崎 雄心

1年 愛知 矢内 拓帆

2年 愛知 石居 亜唯

2年 愛知 小川 夏凜

入 選

図書館の本の砦もあと一つ辞書の類を全て読みきる

2年 岡山 前田 蓮

苦しみは夏の日差しの急すぎる学校前の長い階段

黄金に輝くめんとからみあう油の沼は極上の味

手間をかけ一つ一つ丁寧に子どものように育つ稲たち

赤の絵の具白のポロシャツにのっている壁画制作集中切れて

授業中絶えず聞こえるきいきいは新種の鳥の首振り扇風機

太陽しか見れないひまわり夜にはね花火になって月を見てるの

亡き猫の体に土をかけてゆく声をかけれど雨音のみで

四月には何でもリセットする春が中学校の下駄箱に来る

見上げると鳥泳ぐ海と白い波そこに架かった七色の橋

たねとばしおいしいあとのおたのしみまたつぎのなつにあえると信じて

玄関も道もひざまで水がきて今年一番の恐怖感じた

黄金糖というあめ一つ口に入れなめている時いつも無意識

避難指示テロップ流れるニュース見てどこに行くのか考えている

母帰る車の音に気が付いて猫のミーコが一目散だ

飼猫にやる気を全て吸いとられ夏の課題はまるで終わらず

楽しみと不安のまじる運動会ムカデになりきりゴールを目指す

ミンミンといろんなところから聞こえるな麦わらぼうしかぶって思う

ふと気づく雨のにおいにかさを見る新しいかさ少しほえむ

梅雨入りし天然パーマに悩まされる今日は私の誕生日でもある

「きょうなら」黒板消しの三色の粉をはたいて置きなおす友

2年	岡山	守本 稚子
2年	広島	栗栖 大翔
2年	広島	古田 ゆな
2年	広島	森川明日香
2年	広島	米光 ゆい
3年	広島	井筒 優香
3年	広島	福岡 鮎香
3年	広島	宮重 寛樹
3年	広島	森脇 大地
2年	山口	大本 碧大
2年	山口	重政 月渚
2年	山口	田中 修真
2年	山口	益満 萌
1年	徳島	長地 孝明
2年	徳島	大浦 愛結
2年	愛媛	植田 紘太
2年	愛媛	白方 心琴
3年	愛媛	佐々山優希
3年	愛媛	福本 陽花
2年	高知	吉村 優人

珍しくニュース見てると思ったら見てるニュースは台風情報
盆踊り子供減りゆく町内でひびく元気な老人太鼓

実をちぎるしずくの散って梅かおる大きなビンと氷砂糖と

夏休みグラウンドの上で横になる静かな中で聞こえる呼吸

夕焼けと月と同時に出てるときほんとの自分どっちなのかな

脱げなくつきり残るプール後小麦の肌に白色水着

カマキリが網戸を見上げ手足かけボルダリングに初挑戦

宇治抹茶頂上流れる練乳の見た目は冬の富士山かな

色鉛筆先つぶれるほど使っても広がる世界に終わりはこない

通学路この前までのあじさいはまた来年ねと静かに枯れた

わからない上から見るは一面のぼうずの頭柔道場

浦上に真っ赤にもえた天主堂被爆に負けず今ぞびえ立つ

クーラーがきいた部屋で聞こえるは練習不足の弟の笛

毎日のバスの中から君探す手が出て声が出ない夕暮れ

太陽とぴかぴか光る白靴は話しかけてる「走り出そう」と

ヒマワリが回り一面さいているかれても続くヒマワリの命

帰り道日陰で母を待つ子猫見て僕を待つ家族を思う

大きな虹トンネルぬけると向き違う美しい色そのままにして

玄関でちょこんと座るぼくの猫帰りを待つのかえさを待つのか

あこがれの先輩見習い頑張った次は私があこがれの先輩

3年 高知 川村 瑞穂

1年 福岡 大庭 佳子

2年 福岡 上野 瑞月

2年 福岡 高野 康成

2年 福岡 林 大力

2年 福岡 原田 愛生

2年 福岡 渡辺 凜

3年 福岡 西山 りん

3年 佐賀 江口 大介

2年 長崎 川渕愛夢奈

2年 長崎 中村龍ノ輔

2年 長崎 東 海人

2年 長崎 藤井 美桜

3年 宮崎 河野莉里歌

1年 鹿児島 大熊 栞

1年 鹿児島 瀬戸山翔哉

1年 鹿児島 水溜 星友

1年 鹿児島 道添 叶望

2年 鹿児島 岩下重太郎

2年 鹿児島 高崎愛優香

見上げればあかねみずいろむらさきが風に流れて一人たたずむ
 しんしんとふりつもる雪ながめつつ君と一緒につけるあしあと
 北風で激しく降るのは松の葉で季節はずれの五月雨のよう
 トラックの眠る倉庫にひなの声ひさし掠めてつばめ飛び来る
 夏の窓入りたそうに虫が来るカブトムシなら入れてあげるよ
 落とし穴しかけた友の悪い顔今年の夏もにぎやかだった
 この道をせんねんまゑに歩いてたひとも見たかも知れない夕日
 外に出ろシャーシン拾っただけなのに外に出されるかばった友と
 鏡見てみにくく見えた細い目も母を思えば好きになれるさ

2年	2年	2年	3年	3年	3年	2年	2年	2年
沖繩	沖繩	沖繩	鹿児島	鹿児島	鹿児島	鹿児島	鹿児島	鹿児島
宮里	比嘉	新里	濱田	野島	檜本	松崎	中原	竹井
幸汰	竜希	裕真	征人	大海	来夢	慶太	卓哉	瑠香

第20回NHK全国俳句大会

ジュニアの部

もくじ

ジュニア大賞	48
学校大賞・学校優秀賞・特別賞	49
●幼児・小学生の部	51
選者のことば 神野 紗希	53
特選・秀作	54
入選	58
●中学生の部	75
選者のことば 木暮 陶句郎	77
特選・秀作	78
入選	82

ジュニア大賞

◆◆◆ 幼児・小学生の部 ◆◆◆

とけかけのゆきだるまさんねむたそう

京都府京都市鶴山保育所

5歳

恒藤 灯里

あゆたべておなかのなかにこけはえた

東京都文京区立明化小学校

2年

新井 翔大

父ちゃんのいびきはチューバ秋の昼

千葉県市川市立行徳小学校

6年

河村のどか

ジュニア大賞

◆◆◆ 中学生の部 ◆◆◆

夏休みトランプがひかりだす

埼玉県鶴ヶ島市立藤中学校

1年

秋山 花那

夕立や後悔ばかりあふれだす

北海道網走市立第三中学校

3年

花田 涼

イヤホン外す夏が押し寄せて来る

富山県富山市立奥田中学校

3年

伊藤 楓香

学校大賞

特別賞

広島県

東広島市立三ツ城小学校

広島県

東広島市立寺西小学校

新潟県

佐渡市立南佐渡中学校

東京都

杉並区立西宮中学校

新潟県

巻サミト教室

学校優秀賞

福井県

池田町立池田小学校

千葉県

我孫子市立新木小学校

鹿児島県

長島町立長島中学校

大阪府

東大阪市立石切中学校

・ジュニア大賞は学年順の掲載です。

俳句

幼児・小学生の部

特選・秀作は学年順都道府県別の掲載です

選者のことば

世界のあたらしい顔を見つけない

◆◆◆◆◆
神野 紗希

俳句は、五七五のリズムにのせ、季語の力をかりて作る、世界でいちばん短い詩です。では、なぜ季語を入れるのでしょうか？ それは、季語をとおして、「いま、ここ」で生きている私を、十七音にいきいきとつしとるためです。

はかまいりとかげのたまごひかてる

あゆたべておなかのなかにこけはえた

お盆の季語「墓参り」を机の上で知っただけでは「とかげのたまご」の光は見つけれません。あゆを自分で食べてみなければ、おなかのなかに苔がはえたような感覚は生まれません。この句には、作者ならではの感覚がおどっています。暑い太陽の下をおまいりした作者の「いま、ここ」、ぱくりと鮎にかぶりついた作者の「いま、ここ」が伝わります。

そして、体験した季語を俳句に詠むことで、季語もあたらしい命をふきこまれ、よみがえります。ほら、ふだんとはちがうお友だちの表情を見ついたり、本音を教えてもらったりすると、より仲良くなれたみたいでうれしいですよ。それとおなじ。季語が見せていなかった表情を探してあげること、季語はよろこびます。墓参りもあゆも、歳時記のなかにお行儀よく座っているより、句の中にとびこんだほうが、ずっといきいきしていますね。

千グラム生まれ母の背こえた夏

私たちがこの世界に生まれた意味はわかりません。でも、この世界にいま生きていて、季節を感じていることは、まざりもない事実です。見て、ふれて、かいで、食べて、聞いて。からだで知った季節は、私たちと世界とを、ふかくやさしくつないでくれます。世界とつながること、私がここにいるということを、まなむきにみとめることができます。

窓ぎわの人限定の花ふぶき

春のある日、教室の窓から、風とともに桜の花びらがとびこんできました。そのしゅんかん、きつと作者は、いろんなことをわすれて「わあ！」と感動したでしょう。この句にも、いま、ここで生きている私がぐうぜん出会った、世界のあたらしい顔が、あざやかにうつしとられています。さあ、十七音のことばをたずさえて、世界のあたらしい顔を見つけないきましょう。世界もきつと、発見されるのを待っています。



◆ 神野 紗希
こうの さき
昭和五十八年愛媛県生れ。

◆ 特選

神野紗希選

とけかけのゆきだるまさんねむたそう

京都府京都市鶴山保育所 5歳 恒藤 灯里

はかまいりとかけのたまごひかつてる

広島県安田学園 安田小学校 1年 秋本 展秀

あゆたべておなかのなかにこけはえた

東京都文京区立明化小学校 2年 新井 翔大

たけのこの横に生えてるつくしです

東京都江戸川区立西一之江小学校 5年 加部 叶恵

とけかけて目鼻がたれてきた雪だるまの表情を「ねむたそう」ととらえました。もうすぐ役目を終える眠気は、切なくかがやきます。

墓Ⅱ死と、これから生まれるたまごⅡ生が、一つの風景に共存します。生死がともにあるのがこの世界。光は、いのちそのものです。

あゆは、川魚ならではの味と香りがします。たいらげた後味を、おなかに苔が生えたみたいだと、ずばり感覚的にいいあてました。

たけのこも立派だけど、となりの私（つくし）の存在も忘れないですね。見逃さない作者のやさしさ。みんなせいっぱい生きる命です。

いもうとがねるサングラスつけてねる

愛媛県今治市立桜井小学校 5年 渡邊 優理

鵜戸の宮岩にぶつかる海の声

福岡県筑紫野市立筑紫東小学校 5年 白水 陸翔

まどぎわの人限定の花ふぶき

秋田県八峰町立峰浜小学校 6年 阿部 朱音

千グラム生まれ母の背こえた夏

千葉県成田市立本城小学校 6年 石田 智哉

父ちゃんのいびきはチューバ秋の昼

千葉県市川市立行徳小学校 6年 河村のどか

三途の川でいい泳がせて酷暑

東京都葛飾区立こすげ小学校 6年 金子つぐみ

おちゃめな妹、サングラスがよほど気に入ったのでしょう。大人なサングラスとお昼寝の子どもらしさのギャップが楽しい一句です。

宮崎県の鵜戸神宮は、山幸彦と海神の娘の伝説があります。岩にくだける波の音を、海の声と大きくとらえ、雄大な光景を広げました。

窓から花ふぶきが散りこむのを「まどぎわの人限定」と表して特別感を出しました。春からとびきりのプレゼントをもらったみたい。

生まれたときに千グラムしかなかった私。具体的な数字が、スタートの大変さと、そのあとの成長のうれしさを、ものがたります。

チューバはいちばん音の低い金管楽器です。ポウポウびびくチューバにたとえられた父のいびきは、低くて大きくて存在感ばつぐん。

つきぬけた発想におどろき！あの世とこの世の間に流れる三途の川でもいいから、泳いで涼みたい……死にそうなほど暑いのかも。

◆ 秀作 神野紗希選

ママのかみなでるとおててにはるのかぜ

山形県白鷹会 よつばこども園 6歳 岡崎 倫久

ほたるはねおしりがひかるあるたいる

青森県十和田市立高清水小学校 1年 柿野ひまり

ぼたんみてわたしみたいとははがいう

福島県会津若松市立一箕小学校 1年 長谷川明莉

れんげそうさらさら音がきこえるよ

埼玉県加須市立花崎北小学校 2年 竹内 柚貴

おぼえてるビーチサンダルぬいだばしょ

千葉県我孫子市立新木小学校 2年 後藤 僚

しかの子と赤いとりいをながめたい

静岡県静岡大学教育学部附属浜松小学校 2年 加美 聡果

しんごうの色にまけない夏やさしい

広島県安田学園 安田小学校 2年 大島 泰斗

くうこうでなみだぼろつとあきのかぜ

広島県鶴学園 なぎさ公園小学校 2年 宮本 夕鈴

風りんをぼっと見つめる子ジカたち

広島県広島三育学院小学校 2年 森本 柚花

水族館大きなエイが顔の前

東京都葛飾区立こすげ小学校 3年 松田 志紀

下むいたひまわり部屋に入りたいな

京都府ノートルダム学院小学校 3年 大木 美空

朝やけのそ母の笑顔とたまごやき

埼玉県所沢市立北秋津小学校 4年 宗像 志織

はいになりかとりせんこうまだかおる

千葉県我孫子市立新木小学校 4年 飯田 開己

ひのしたでみるよもぎのけきらつきら

東京都檜原村立檜原学園檜原小学校 4年 嶋田 美優

夏休みもう終わりとねっころぶ

新潟県巻サミト教室 4年 堀内 架那

へびうさぎみかんの皮で動物園

愛知県西尾市立西野町小学校 4年 大野りんご

夕やけに星を見たがる弟と

奈良県帝塚山小学校 4年 小林 篤志

スリーベース打って夏風ふいてきた

佐賀県白石町立北明小学校 4年 酒井 優光

風鈴やふすまのおくの祖母の部屋

福島県会津若松市立一箕小学校 5年 山口 礼愛

ひまわりが正しい方を向いている

福島県須賀川市立阿武隈小学校 5年 斎藤 滉大

梅雨がくるメダカはたまご産むだろう

埼玉県上尾市立鴨川小学校 5年 樋口 湊

ウドの花線香花火に似ているよ

東京都トキワ松学園小学校 5年 本田真生羽

うどん県麦茶の容器にいりこだし

神奈川県カリタス小学校 5年 茂中 咲希

山ばとの鳴き声ひびく夏の月

福井県池田町立池田小学校 5年 岡野 蒼

ゆかた着てみんなで歩く交差点

埼玉県加須市立高柳小学校 6年 大木 美琴

潮風を受けたもみじは磯臭い

東京都にしみたか学園三鷹市立井口小学校 6年 竹井 文紀

金魚ばちはねた水には雲一つ

東京都町田市立三輪小学校 6年 金子 晏士

おどり場でアイス一滴アリなめる

富山県高岡市立東五位小学校 6年 成瀬 創音

サンマ焼く母の背中 of 怒りかな

長野県長野市立南部小学校 6年 岸 快耀

春一番校庭ぐるり見回り中

広島県尾道市立吉和小学校 6年 島谷 タタ

風のようにせい風鈴ゆらめく音きらめく

長崎県中村グループ 6年 川本野乃葉

幸せがはじけるようにしゃぼん玉

沖縄県那覇市立城南小学校 6年 栗田 桐子

入選 北海道

ひまわりのちやいろのたねがたまらない
 ひこうき雲チャックみたいながでる
 森の中セミがざわざわうわさして
 もみじの葉緑と赤が大ゲンカ
 せみたちのだれかがだれかよんでいる

たけのこはひとりぼっちでぴんとたつ
 ぼんの月ごせんぞさまがのぞくまど
 山のぼりみんなの家が見えている
 日やけた分だけ泳ぎうまくなる
 水やれば一気のみするハウセンカ
 空わってはいま一発大花火
 よさこいのかけごえでとぶつばめたち
 大すきな花火見上げてカバの口
 カタツムリでんばうけとるつを出す
 うぐいすが鳴き山頂の空ひらけ
 万緑が外で遊べとよんでいる
 カタツムリ葉っぱにあいさつして進む
 しりごみをプールで克服するくんれん

青森県

はこの中あかちゃんねこの声がする
 桜達みんなの笑顔を見守って
 雪つもり今年こそ城たてたいな
 田植えしてドロに入るとつめたいな
 雪とけて急なしゃ面にふきのとう
 お祭りでサイフ空っぽ立ちつくす
 キャンプの夜大人たちだけ肉を食う

めくってもめくってもまだだたけのかわ
 パパママとたべたよカレーなつのなぜ
 ありのうちどこかにあるよねみつるぞ
 こいのぼりどじょうみたいにおよいでる
 キャンプファイヤーひのとりとんできえていった
 はるなのにまだおきないのかえるさん

岩手県

風ふいて月にてらされさくらちる

五十嵐龍一
 大宮 柚希
 高橋 天翔
 富樫 侑来

宮城県

秋になるナニナニナニ何しよう

長谷部愛奈
 衣袋 莉茉

秋田県

いきかえるにはさいこうのかきごおり

小貫 航

入 選

あさがおにみずをあげたらにじがでた	1年	小柳津咲笑
あさがおが見えるへやはひみつきち	2年	星 花那乃
二学きのせいふくちよっとかたきつい	2年	眞下 悠仁
かなちよろがしゆるしゆるはっぱとおりみち	2年	吉田 悠翔
北風がふくのすきまを通りぬく	3年	神田 雪羽
麦たちが風のねいろでさそわれる	3年	吉開 美紘
深緑絵の具みたいな夏の山	4年	天野 敬心
とかげさんわすれ物だよそのしっぽ	4年	石井 子竜
山の音虫の声がつまってる	4年	大矢 優空
夕焼けは何回見ても落ちつくな	4年	鹿子田有希
ふりかえる夕日がせ中をおしてくる	4年	田村 奏
ひまわりは朝つゆあつめかがやくよ	4年	満田 栞音
夕立が海のむこうへきえてゆく	5年	伊藤 智貴
じいさんに手ほどきうけて鮎を釣る	5年	遠藤 翔太
金魚ばち私を見つめる魚たち	5年	遠藤みゆう
涼風がみんなをすつととおりぬく	5年	大和田遥翔
かにさされ同じ所を三回も	5年	永井 董
ふん水に向かって走る子どもかな	5年	成田結希乃
まっかつかわたしのほっぺとすいかの実	5年	ホランドンイ
通学路ヒマワリの下スキップで	5年	山ノ井壮也
夏休み木がいぬに見え目をこする	5年	渡邊 陽心
大川の石を動かしカジカとり	6年	赤井 芽檜
店の中赤く輝く初がつお	6年	沖田 悠隼
あさがおのつるがのびゆくあの空へ	6年	鈴木 優那

夜の川 螢袋が光る 今 6年 渡辺 功夢

茨城県

かぶとむしきみもやっぱりあついのか	4歳	石川 聖也
むしさんもはなびをやりにあつまるよ	4歳	大山 栞那
ながれぼしそんないそいでどこいくの	4歳	酒寄 翔太
ぼくがもつせんこうはなびすぐおちる	5歳	小太刀碧音
あれみてよくもがにつこりママみたい	5歳	酒井 海翔
ママのてはさわると元気になるんだ	5歳	藤田 凌功
すいかわりさいごにありのごちそうだ	6歳	飯島 沙希
ちきゅうぎをくるくるまわしひとりたび	6歳	猪野結衣那
いーのくちはがぬけたとこまどみたい	6歳	鯉渕 眞子
あみとかごもってでかけるなつのもり	1年	山本 隆摩
ありの道ゴールはぼくの食べのこし	2年	飯嶋 翔大
おきなわの夜の花火は海の上	3年	松丸 遼平
なつやすみ日やけできないバレリーナ	4年	緑川 明衣
まどわくに入りきらない花火かな	5年	沼田 愛子
カブトムシ樹液争い絶え間なく	6年	大野 優仁

群馬県

いかほのゆいしだんのぼりせみのこえ	1年	石川琵琶子
夏休みはじめて魚つかめたよ	2年	新木 琉斗
よるはなびけむりもくもくきえてゆく	2年	小島 隼弥
ぼくのねつそとのきおんにまけちゃった	2年	清水 奏音

耳ふさぎ目は花火おう弟よ	4年	新井 美結	春かぜがやさしくふいてあくびする	2年	高橋 哲
水筒がすぐに空っぽ猛暑日で	4年	佐藤 百花	今年のね台風の道変化球	2年	原田 将希
つばめの子本屋のまどから何見てる	5年	黒澤 結	のぼりぼうはるの空みてあとすこし	2年	綿引 悠流
菌がぬけたきゅうりが手伝う僕の成長	5年	吉田蓮太郎	魚つりせなかとおる夏の風	3年	采澤 惟玖

埼玉県

かきごおりあおいべろだしおぼけだぞ	1年	東 理菜子	雨の中かみなり様と魚つり	3年	奥 香穂
えんぴつがかつてにとんでなつあらし	1年	大木 秀都	わつしよいと大きくひびく夏まつり	3年	倉田 樹
かみのけがぼさぼさしてるあおあらし	1年	小川 優	うち水にいつそうかがやく小石かな	3年	竹内 董
たなばただねがいはいきめたあまのがわ	1年	カンアラスマン	だつぴ中トカゲのかわがひげみたい	3年	根本 季依
山がたのオクラはそとまでねばねばだ	1年	河野 里奈	トランポリン飛ばば春風ついてくる	3年	細井 彩帆
あさがおがくるくるしてるすべりだい	1年	坂本 圭	ふうりんやしずかな声で話してる	3年	松澤 美咲
あつийよるかさかさうごくかぶとむし	1年	関口 凜咲	ながれ星そらをとんどるとりのよう	3年	茂木 颯太
ゆうがたにありのぎょうれつすにかえる	1年	花井 綜志	オクラはねきつてもきつてもお星さま	3年	山田凌太郎
あおあらしのうとぴらぴらうごいてる	1年	福島 颯葉	シャンプーあせかきすぎてあわ立たず	4年	飯村 ゆう
つくしはねいつつも虫のスカイツリー	2年	有路 悠生	せみたちのおうえんうけてヒット打つ	4年	植野 颯友
くさむらでバッタのおやこワルツする	2年	石橋さくら	もん白ちよう太陽めがけて飛んでゆく	4年	大澤ゆづか
ころもがえ小さな私さようなら	2年	江利川 滯	気付いたらゆかでねている熱帯夜	4年	大島 悠翔
うんどう会ピストルの音でダッシュした	2年	大澤あづな	手をのばす田舎の夜空三角形	4年	岡崎 春奈
わた毛がねたねのお手がみとどけてる	2年	小川 愛桃	日なたはね冬は味方で夏はてき	4年	岡本 珠希
なつがきてママはせんたくいそがしい	2年	笠井 那桜	しゃぼん玉大きい人によつてくる	4年	木村 一聖
かきごおり体をひやすすぐれもの	2年	川合 俐久	せみのこえみどりのかさでかくれんぼ	4年	小峰 大空
さくらんぼありがついてたあるいてた	2年	佐々木悠人	青々と緑あふれる夏の山	4年	実松 諒太
ふじの花むらさき色のシャンデリア	2年	実川 慶	ぶんぶんとはちがとぶ音楽だ	4年	篠田 侑奈

千葉県

入	選	みずがみずおいかけてくるいわしみず	4歳	江原 俊大	やまのなかミミズくねくねおどっている	6歳	桑原 葵子
入	選	いちごがりハートのかたちおいしいな	4歳	齊藤 紬	おとうさんねえかたぐるまうちゅうまで	1年	大木 寛仁
入	選	カブトムシひとりぐらしはかわいそう	5歳	山本 陽斗	ゆかたきるあるきかたまでおねえさん	1年	合田風々音
					おとうとはじめてあるくなつやすみ	1年	坂田莉衣菜
					なつまつりきんぎよがきてから一ねんだ	1年	杉本 夏実
					ぴいまんのたねをたべたらあまかった	1年	増田 陽幸
					サン格拉斯お兄ちゃんにはにあわない	2年	秋元 桜
					ぼうしはねまぶしくないしかわいいし	2年	佐藤 紬
					アゲハチョウたいそうせん手金メダル	2年	須賀 陽哉
					アルバムにはれたらいいなセミのこえ	2年	谷 蒼依
					りくじょうぶせみのなき声きこえるね	2年	宮川 織衣
					田んぼ道風のおいと水の音	3年	牛久 優真
					なつやすみくものうえとびやまがたへ	3年	金子咲陽菜
					レジぶくろセミぬけがらを集めたよ	3年	島田 千熙
					たきを見てついついねむくてねてしまふ	3年	鈴木 夏実
					トンボとねきょう走してもかてません	3年	竹内 優人
					ほんおどりははのゆかたをきたわたし	3年	長嶺 紗和
					えんぴつをなくしてなくよ雪の日に	3年	中村心々実
					かみなりがわたしのしゃ真とつてるよ	3年	星 菜月
					せみのこえうるさいけれどまねしちゃう	3年	水谷凜々子
					サン格拉斯せいかいのいろがかわったよ	4年	齋藤世紫留
					いもけんぴひっくり返した夏の夜	4年	高橋 茉莉
					せみたちのおんがくかいがはじまるよ	4年	滝口 蓮月
					友達に初めて送った暑中見舞い	4年	谷口 直翔

アマガエル落ち葉の下に家がある	4年	長井 大弥	みんなみんなこえをヒントにおにごっこ	3歳	高崎 菜那
プールあと水着が体にへばりつく	4年	中村 美優	あおいそらぼくとふじさんせいくらべ	4歳	高橋 悠誠
太鼓の音しぜんとみんなが早歩き	4年	宮崎 新	おふとんのおやまにぼーんきもちいい	4歳	中村莞智佳
草むしりぼくは地球のおそうじ屋	4年	室伏 魁斗	ひまわりをみるとちからがわいてくる	5歳	秋山 武蔵
日焼けして双子になったかげとぼく	5年	安達 佳音	たまごやきぼくのれしびでままがやく	5歳	前田 真輝
夏休みたいくつそうなお母さん	5年	笠原 仁花	はなびさんわたしのことがみえるかな	6歳	三浦 堇
あついなかせみのこえだけきこえるよ	5年	小茂田茉莉	水てっぽうママのせなかにストライク	1年	川崎 思季
駅前のミストが光で雪のよう	5年	今野 翼	すいかわりみぎみぎひだりどっちかな	1年	黒田 朋希
桜の木ピンクの雨をふらせてる	5年	酒井 美南	あじさいやみずをあげるときらきらと	1年	坂 澄玲
つめ切りが面倒になる夏休み	5年	田島 心結	なつやすみでんしゃののりかたおぼえたよ	1年	阪本 萌
炭さん水いろんな音が聞こえるよ	5年	福永 心那	せみのあなちかくにきたないものがある	1年	竹内 柚希
夏まつりしたいこの音がむなさわぎ	5年	武藤 瑞己	ひまわりがおつかれさまといってるよ	1年	東 幹也
プールのあとよりみちしてねむくなる	6年	秋元 康誠	ぼくのはがぼろっとぬけたなつのあさ	1年	比留間勇光
天空に心伸びたる五月晴れ	6年	油谷 優太	おかあさんうみへこっそりいきました	1年	もちつきあかり
はなびの火ぼつとりおちるしずくかな	6年	上野 寿莉	マスクットヒスイみたいにきれいだよ	2年	清本 翔雲
何回も再生したい夏休み	6年	海老澤釉月	あかとんぼさんぼしてたらあいにくきた	2年	佐々木愛結
ミニトマト鏡のように光ってる	6年	王子 瑠菜	なつの川大きい石でジャンプした	2年	田村 治輝
太陽に落書きされた日焼けあと	6年	坂本 悠樹	なつやすみテントウムシがしのびこむ	2年	濱中ひまり
公園のブランコに雪がすわってる	6年	ジエロワラッセ	およげない母もがんばりおよげたよ	2年	渡辺 ゆう
水の中ふわりと泳ぐ金魚かな	6年	田中美駆音	りょこう中一人ぼっちのかぶとむし	3年	磯田 紋太
夏の空雲と青空 五対五	6年	羽田 直希	かぶと虫はなしてあげたよ大空に	3年	内田 雄稀
東京都 がんばってくもにまけるなおつきさま	3歳	坂本 瑛美	キャンプ行きあまくておいしい父カレー	3年	大平 雪雅
			すいかわり赤と緑の火山だな	3年	川野 愛央
			つかまえたバッタ十匹きにがしたよ	3年	川村 美月

たから船かみ様つれてどこへ行く	3年	君島 純	パパがいて思い出一つ暑いのも	4年	半田 莉子
サイダーのようににはじける夏休み	3年	桐山 悠磨	ろてんぶろ空いっぱいの夏のほし	4年	尾藤 優愛
夕やけはわたしをまたずさって行く	3年	金城凜沙子	せんぷうきさいみんなじゅつで目が回る	4年	水田 匡
かたつむりあめのひぼくはうたうんだ	3年	坂本 来未	アマガエルあみ戸のまん中休けい所	4年	森岡 のの
風がふき桜とみきがすもうとる	3年	櫻井 美希	親ねこによりそう子ねここたつかな	4年	柳沢まどか
お祭りだ射的十発大当たり	3年	篠原 涼太	雨あがり虹のふもととはどこだろう	4年	山川慶太郎
水たまり電車うつるよつゆ入りだ	3年	し水たける	かみなりと自分の心大決戦	4年	横尾りいさ
海がんの岩をどけたらカニの家	3年	関口 航	夏休みおばあちゃんをだきしめる	4年	渡邊 慶純
鍾乳洞ひんやり夏の大ぼうけん	3年	長柄まど花	帰り道しげみを通して風かおる	5年	相川 海知
海がめとならんで泳ぐ夏の海	3年	中尾 朱里	なんごくであせかきサントしごとちゅう	5年	相川 絆
アジアゾウじつと見つめる夏休み	3年	山口 隼汰	かき氷食べたたら舌のころもがえ	5年	池田 尊
妹と弟プール一人の時間	4年	秋山 葉奈	キャンプ場朝から心は快晴です	5年	磯野 陽菜
蝶の子ひらひらどこへ旅にでる	4年	荒川 夢瑠	夏心つかみとるのは恋心	5年	市川 瞬
柿の花風にふかれてすすくと	4年	宇佐見紅乙	冬が来たほうきになったもみじの木	5年	茨木 啓佑
入道雲真っ黒雲と合戦だ	4年	梅原 陸	早起きでラジオ体そう夢の中	5年	大橋 亜美
台風の間合間にこそこそ海の家	4年	大内航太郎	祭りの日祖母ときざんだつえの音	5年	岡田 玲佳
弟の初めてつかむカブトムシ	4年	小澤 春輝	初桜にこにこするよみんなにも	5年	笠野 友花
日やけしてかがみをみたらチョコバナナ	4年	小俣 桃花	さびしいよそう言ったのは夕立だ	5年	菊田 優衣
夜になりせんこう花火星みたい	4年	鎌尾 紗羽	梅雨になり灰色の雲にや笑	5年	木村 純聖
春風といっしょに来るよ一年生	4年	後藤さくら	ともだちともみじをひろいベトナムで	5年	ズシネズニド
夕焼けはだんだんこげてくパンみたい	4年	坂井 寛徳	かき氷インスタしてたら水になる	5年	後藤 結衣
アブラゼミ人生少し楽しもう	4年	田邊 庵	夏のすな貝がらくし思い出に	5年	小山 日和
かぶと虫木の上飛んでパトロール	4年	谷口 佑機	サイダーのとうめいな火花はじけてく	5年	佐古 怜
昼ごはんうりをほおばるりすみたい	4年	長谷川瑛怜	走る時入道雲が追ってくる	5年	佐々木花南

熱帯夜メダカはとてもすすしそう	5年	谷口 令	祖父に会うたたみのおい夏休み	6年	本村 意識
夏空にゆうゆう走る羊の群れが	5年	中澤 利美	ポタポタと泣いてるのかなこのアイス	6年	柳田 瑞季
木についた努力の証せみのから	5年	中西 香緒	公園の空一面に桜まう	6年	山城百合奈
雨の音小さな小さなオルゴール	5年	松村 咲希	手まり花よくよくはすむ雨の中	6年	山本 采和
山梨で入道雲が信玄に	5年	吉越 真愛	夏が来たそう思ったらさっていた	6年	吉成 璃恩
入道雲早くこいよとボールける	6年	青木海依斗	原爆のにぎればきえる黒い影	6年	李 蒔温
春の予感生あたたかい風が吹く	6年	秋元 真優	神奈川県 きのしたでひろったせみをきのしたに 海水よく大なみ小なみわたしのる ままとみたプラネタリウムなつのほし 花火見た帰りの電車どんとこむ ペンギンが夏のひざしでたおれそう 三れんぞくじゃんけん負けた夏の雨 いざまいるきれいな海にドッポンだ 梅色の花火の音がにぎやかに おぼんの日言いたいことはただいまだ げんかんは屋外サウナの入り口だ 暑すぎてお湯になってるプールかな セミが鳴きついに今年も夏がきた そうめんが竹のトンネル流れ出す スイカたね中にいるのにやけちゃった 猛暑日だ汗をかきかきコップくん 浴衣着て慣れないゲタで顔おかし		
機関車を通ったのかな入道雲	6年	荒木 悠良			
向日葵は昼でも夜でも太陽だ	6年	石田弦乃介			
桜の木花が散ったらくまし	6年	岩野 直人			
連休はアイスのようにきえて行く	6年	内野 宏彰			
雪舟さん私が受けつぐ墨の夏	6年	小方 結衣			
夏の陽に白くかがやく百合の花	6年	北尾 奏子			
箱庭の中でつくった夏の海	6年	提箸姫南乃			
ベランダでうみかぜあたりあさごはん	6年	篠原 颯太			
夏の海だれかがこぼした青インク	6年	杉田 珠江			
かき氷見つけたらすぐ買いにいく	6年	高井 輝莉			
そこどきな入道雲のおとおりだ	6年	田島 壱拳			
うちわ持ち新しい風がふいてくる	6年	中野蒼和子			
日焼けしてゆかにねてたらふまれたよ	6年	庭野 姫里			
浴衣着ていすにこしかけあの子待つ	6年	平尾 絃太			
祖母の庭なまあたにかいミニトマト	6年	平野 香			
水筒の水奏でる夏の音	6年	星川 遥奈			
肝試し暗やみに見た白い影	6年	三好 梨紗			

新茶のみ一足先に初夏の風	6年	今井 玲那
墓参りトンボが示すみちの地図	6年	岩男 真拓
水泳に追われる毎日鬼コーチ	6年	岩城 心美
炎天下走ってかけこむ家の中	6年	上原 璃奈
すぐ終わるわたがしのような夏休み	6年	小川 夏葵
金魚すくいゆかたのすがびっちゃびちゃ	6年	神田 麻綺
わたあめを夜空にかざす雲のよう	6年	雁部 華名
あせまみれ人間たちがくたくただ	6年	小林 拓幹
ひまわりの首が曲がると新学期	6年	島田まりか
啄木鳥の空を突き刺す幹の音	6年	鈴木 智尋
木々の中耳をすませばせみの声	6年	西ヶ谷一輝
夏の日にプールに行くとき真っ黒だ	6年	長谷川加奈
甘酒が身体にしみる伊勢の道	6年	秦 安珠
水を吐き釣ろうとするとにげるイカ	6年	松川 隼翔
ヘルメットわってしまったすいかわり	6年	松本 杏菜
手火花が思い出とともに散ってゆく	6年	百崎 陽
一日がほんのいっしゅん夏休み	6年	山田 遥
見上げてる黄金のじゅうたん向日葵かな	6年	山本 野乃
鳥とせみそろって一緒に歌ってる	6年	渡辺 蒼水

新潟県

かくれんぼかくれたところにくものす	2年	横田 和也
カブトムシはしっていたら見つけたよ	3年	沖野 結
そろばんでなつのあつさをはじいたよ	3年	長井 優太

赤い花ねこのせなかについていた	4年	鶴巻 汐葵
畑からとったすいかにかぶりつく	5年	小田 太陽
手ぶくろの忘れさられたもう片方	5年	清野 哲史
また来年線香花火といとこたち	5年	小山 華怜
日がしずみ流れるプール一人じめ	5年	早川 友彩

富山県		
わらいごえせみにまけないぼくのいえ	2年	川上 大耀
せみのこえみんなくのだれよぶの	2年	高松 小夏
ねえちゃんはペンをくわえる夏ドリル	4年	奥村 涼平
スイカ食べ弟の口に赤いひげ	4年	中橋 康介
枝豆つかんだらポーンと飛んでった	4年	本定 永吏
ぶどう食べ手と手ぶつかりとりあいだ	4年	吉田紗亜椰
キス二ひきヒイラギ十ぴきつれました	5年	矢田 蒼空
夏の朝ラジオ片手にいつてきます	6年	畔川 佳帆
日焼け止めぶ厚くぬってまい子さん	6年	吉岡 成
稲妻が空を引きさく線を描く	6年	吉田 啓人

石川県		
ばったさんジャンプがじょうずきんメダル	4歳	泊 和宏
ひとつぶのぶどうはおばりわらいあう	1年	亀井 瑠梨
ひこうきのガタツとゆれてなつのそら	2年	吉本 妃花
あつすぎる地球もきつと熱中しよう	4年	若部 芽衣
弟のまばたきもせず蟬の羽化	5年	泊 星歌

選 スイカ割り地面叩いて皆笑う 6年 角口 博菜
入 稲刈りのにおい楽しむ残暑かな 6年 清水 樹平

福井県

おおぞらにほしのあつまりたからばこ 1年 植松 真理
おとうとはかぶとかぶつてうれしそう 1年 はやしかれん
あさがおにみずやりしたよおかあさん 1年 まついれみ
じどうかんつばめのひながかおだした 1年 みぞぐちゆうき
くるくるとこたつのなかでねむるねこ 1年 吉田 梨花
ぼくとねこずっとおひるねしていたい 2年 こんやかなた
お店でねサンガラスかけ大わらい 3年 木下 る花
かめよりもあるくのおそいかたつむり 3年 森 かりな
こいのぼりいつもいっしょの三兄弟 3年 森田 まほ
クリスマスげんかんのかぎ開けといて 4年 木村 愛斗
さくらの木みればみるほどちつていく 4年 田中璃緒菜
夏の海日の出がきれいねがいこと 4年 向井 智輝
つばめ来い毎年毎年ねがってる 4年 吉田 真風
清流を鮎がかけっこ命がけ 5年 田中 睦生
夏蜜柑汗かく真っ赤な弟似 5年 辻 彩葉
水でつぼうみんな持ったら戦争だ 5年 山口 範登
流れ星願いを積んで運び出せ 6年 堤 慎之輔
太陽のスポットライトバラ主役 6年 鳥居 和夏
夏みかん食べた手のひらこうすいに 6年 福田 彩乃

山梨県

ふじ山のおなかまわりはくものなみ 1年 清水 太智
スズムシの声聞きたくてテレビけす 2年 曾根琥太郎
おちてきたはっぱを犬がおいかける 2年 滝沢 龍平
くりひろい頭に注意気をつけろ 3年 河西詞衣汰

長野県

さくらはね心をかえる花のみだ 3年 松田 日向
夏休み計画通りいかないな 6年 竹内 衣咲
あざやかなもみじの池になみだかな 6年 山岸 暖和

岐阜県

かぶとむしさわったせなかつるつるだ 1年 笠井 雄斗
おてつだいおうえんだんはせみのこえ 1年 近松 照仁
ちよこあじのあいすたべたらひげはえた 1年 野中 萌衣
ばあちゃんのなつのはたけはみせみたい 1年 山口 敬大
かぶとむしちいさいけれどつよいんだ 2年 鈴木 蒼太
すいかはぼうでたたかれてかわいそう 2年 水野 莉月
夏休みわたし小さなおかあさん 2年 山口 柚月
ひまわりははなびら黄色でライオンだ 2年 渡邊 里咲
おぼれるぞ早くうきわをもつてきて 3年 岩田瑚々音
あまがえるすきまがすきでうごかない 3年 川口 賢太
あさがおはまるいかたちでラッパふく 3年 中村 潮音
雨あがり虹のアーチで仲直り 3年 服部 咲奈

せみの声がっしょうしてる百点だ

4年

石井 想来

てつぼうでぐるっとかいてんなつの雲

4年

熊崎 来翔

たきの水元氣いっぱい落ちてゆく

4年

藤井 佑成

姉ちゃん白波男村芝居

5年

安藤 凜

村芝居終わると酒を飲む大人

5年

坪井 千翔

委員会あせかきながら司会する

6年

遠藤 惟吹

ママシがね馬にふまれてぺっちゃんこ

6年

菅野 葵

夏の川魚が泳ぐ影光る

6年

鳥澤 仁

田植えでねヒルがニヨロニヨロ動けない

6年

牧野 瞳希

秋の日にまつ赤にそまる山を見る

6年

松井 実和

まつすぐに植えられないよ田植えだよ

6年

丸山 愛心

くるくると巻いておひねり村芝居

6年

丸山 若葉

静岡県

にじのはしゆうだちからのおくりもの

2年

清水 彩那

どろぼうかよるにガサガサかぶとむし

2年

村上 詩織

カブトムシよるのはやしはごちそうだ

3年

杉山 慶多

水泳部焼けた背中がくん章だ

5年

南部 琴

愛知県

サンガラスくろいせかいでひとやすみ

3年

杉田陽菜乃

雪だるまきらいなことはひなたぼこ

6年

太田 愛唯

桜さき春のゆうびん送りもの

6年

平松 裕天

滋賀県

帰宅してせんぷうきの前走り出す

5年

三嶋 子桃

カレンダー夏の終わりとにらめっこ

6年

馬場 美桜

京都府

おはなさんおてんきあめにうれしそう

5歳

新谷 和花

おもそうなひまわりひとつにわのすみ

2年

神長 龍飛

ぞうりはくまつりばやしにさそわれて

2年

西川まなみ

飛ばしっこスイカの種も思い出も

3年

山本 希未

夏みかんすっぱい匂いの太陽だ

4年

浅野 直樹

ふうりんが風におされて泣いている

4年

梅田 拓真

日がおちてかわずかわらず泣いている

4年

酒井 智悠

お祭りでお会ったカメとすごす夏

4年

福井雅紀乃

アブラゼミ夏をつくった作曲家

4年

細谷 涼斗

動物園真夏の雀は象の下

4年

吉岡 成晃

日がしずみ網戸にひつつくカエルたち

6年

古川 果林

大阪府

べらんだにせみのぬけがらとんできた

1年

佐藤 美雨

温暖化地球もプールに入りたい

6年

上野 朔

だんごむしおちばのしたでふゆじたく

6年

水谷 百花

兵庫県

家じゅうがせみのぬけがらおとうとめ

2年

野田 紗菜

夏の夜夢の中でも夢をみた 4年 熊本 結衣
電線にせみのぬけがらつなわたり 4年 小堀 優奈
先生のすごいが聞けた山笑う 5年 藤涛 英介
もみじ落ち真つ赤にそまった通学路 5年 細見 梨恋
新緑や風のうわさにゆれる木々 6年 松田 和佳

奈良県

たきびするかがやくほしがわらつて 1年 角井 志匡
サンドレスママのを着たらマーメイド 3年 富川 結衣
水たまり跳んで終わりの夏休み 5年 谷口 穂佳
夏ポタル光って照らす夜の町 6年 西岡 正隆
天の川黄泉の国から見ていてね 6年 山形 紗永

和歌山県

ほおずきの小さなちようちん畑道 6年 吉良 佳子
蟬しぐれ木造校舎にこだまする 6年 吉良 和子
欄干に長月の朝赤とんぼ 6年 杉谷音十羽
寺のよこくさにかくれる夏の蝶 6年 中川 広空

鳥取県

ブルーベリーねらう野鳥とにらめっこ 4年 坂本萌ノ香
ファイナールは花火のふん水手をのぼす 4年 山本 真央

岡山県

できるかなにがてなプールかおつけを 2年 二宮 結衣

広島県

ろくさいではじめてもてたはなびだよ 1年 荒谷うらら
かたつむりわたしとふくがいろおなじ 1年 石井 惺雫
みずあそびおにわにかかるにじふたつ 1年 石橋 直依
のんだらねんきがでたよわきみずで 1年 市原 優大
かぞくでばたばたすずしいうちわかぜ 1年 垣本結心花
ゆかたきてなかくふたりてをつなぐ 1年 木村 瑠希
はれのひはソーダのうみにはいろうよ 1年 三宅 朔
なつやすみいぬとすずんだダムのそば 1年 森若 隼人
はいチーズひまわりばたけがおだけ 2年 井林 晟
カプトムシのっしのっしといばつて 2年 大木飛呂彦
ささげたいふうりんのおとひさいちに 2年 大和田沙希
スーパールでおかしあきらめすいか買う 2年 奥 優花
なつやすみあめがふつたら花がさく 2年 片岡あおい
夏休み給食だけでも食べさせて 2年 片山 和
トンネルのむこうもやっぱりあつかった 2年 澤原 芽以
ひまわりがくるとまわりバレーリーナ 2年 たかつみち花
そらまめはみどりのおうちからきたよ 2年 竹谷 海音
しろいせみとりたいたけれどがまんした 2年 茶谷 灯
すいそうに金ぎよがいけないなつ休み 2年 とよたけと
カプト虫ケースとび出しはなしがい 2年 成田 慈遊

入 選

せんぷうきちゃんとおつちを見ておくれ	2年	費 潤 赫	スイカ食べ手からひじまでべつちよべちよ	3年	半井 音羽
およいだらいつもとちがうなみのおと	2年	ふなもりん花	母よりも早起きしてる夏休み	3年	長谷川心葉
おんせんであせもよこれもさっぱりだ	2年	丸永 岬生	川遊びカニがすきまにかくれてる	3年	伴 隆介
うきわから波が強くておっこちた	3年	有村 春乃	水泳で目ひょうたつせいこぶしあげ	3年	半田 瑞貴
思い出は写真ではない水ぎあと	3年	池田陽那乃	海風が背中を押すや、波しぶき	3年	平嶋かえで
夏のセミ日がさがほしいとないて	3年	石田 悠堅	春風が遊ぶ所をよこぎるよ	3年	福本 奈美
ひまわりはかなしい時も上をむく	3年	宇野 花梨	さくらんぼ二人三きやく走り出せ	3年	松岡虎之介
せみたちが木のマンションで歌ってる	3年	江坂 隼珀	すいかわりこの一発で真つ二つ	3年	宗岡 勇記
夏の川にじがきれいにうつってる	3年	大杉 恋望	夏だからきつとあしたもはれるよね	3年	免田 葉那
バラの花畑が一面もえて	3年	岡村 優大	しあい後にみんなと食べるかきごおり	3年	山中 優人
かぶとむしみーみーないてとぶのかな	3年	角谷 一郎	あせをかき土砂を運んだぼくの夏	3年	山本 侍弦
こうえんのべんちにあつたせみのから	3年	斉藤 愛斗	ひと休み耳をすませてせみの声	4年	石丸 隼斗
かぶと虫クヌギのじゅえきなめてるよ	3年	酒井 隼	そうめんも流せば2倍うまくなる	4年	小笠原新奈
夏まつりポップコーンがはねて	3年	佐々木 凜	災害に負けないいいねが青々と	4年	岡谷圭伊斗
夏の海ザブンザブンとないて	3年	清水 和	ハワイでもにほん語とおす祖母つよし	4年	尾関 夏彩
もみじちり地面まつかで木は茶色	3年	清水迫拓真	つらい時せ中をおした夏の風	4年	柊 鴎 優菜
くらやみのせんこう花火ほつとした	3年	菅信 梨琴	すいかわりたくさんわって地球わる	4年	佐藤蒼一郎
エアコンがひ鳴をあげていきをはく	3年	高岡 夕愛	あさがおがつる長すぎてまいごなる	4年	杉岡 慎平
指にたこ丸けしゴムに秋の風	3年	高橋 希実	逆走だへそを曲げたよ台風さん	4年	滝口悠芽子
夏休みすきなえいがを見にい	3年	田嶋 翼	たんぼぼのわたげが風でおひっこし	4年	時田 健佑
花火はねしずかな空へのおくり物	3年	津之下理久	びしよぬれだふん水くぐりおにごっこ	4年	中尾 勇輝
かみなりが夜ごろごろとねごと	3年	鉤流 永太	汗をふき盤上にらむ祖父とぼく	4年	檜木野 拓
たんぼぼの空にまいゆく天使かな	3年	寺尾 潮里	すいすいと夏のスケート水馬よ	4年	松本 惇志
うち水で人と犬とがすすむ庭	3年	土井 悠哩	入道雲夕日とかさなり恋してる	4年	三好 佳奈

えん天下畑の野さいぜんめつだ ほりたてのじゃがいも使ってコロッケだ	4年	村上 結菜
金魚草泳ぎたそうにしっぽふる	4年	山根 拓真
赤とんぼ風に逆らい飛んでゆく	5年	吉田 弥生
暑い暑い夕がた空がむらさきだ	5年	足立 茉那
すず虫の鳴き声ひびく空高く	5年	井田 智晴
桜散り元気に走る小学生	5年	伊藤 美遥
くりの花火火みたいにさきほこる	5年	金川 達哉
たんぽぽが白くなったら空の旅	5年	川下 乙希
落ちないで線香花火ふるえる手	5年	小西 結愛
妹が夏対さくでちょんまげだ	5年	小松圭二朗
おんどけい今年の夏はこわれそう	5年	酒井 康介
るす中にふたをおし開けカブト虫	5年	武井 百花
あみどがね虫の図かんになっていた	5年	立花 偉央
灯ろうに平和をいのる川のそば	5年	長澤 未来
暑いからみんなの顔がミニトマト	5年	ナ ビ ル
うきよ絵となつのゆうやけそつくりだ	5年	灰原 萌香
台風に振り回される予定表	5年	松尾 佳直
つゆがきたキラリと光る水たまり	5年	山崎 茉奈
そこみろよお前の体にかがいます	6年	渡邊 通世
青い星おちてたまって虹を待つ	6年	菅田 大麒
食べ終えたスイカのあとは宝船	6年	金本 侑征
ふうりんの音がすみずみすみわたる	6年	釘本 佳奈
百合の花つぼみの中に希望あり	6年	河内 晴人
	6年	後藤菜々美

冷房のきいた和室にたおれこむ	6年	信野 叶多
かたつむり世界一周たのしみだ	6年	濱口 凱斗
太陽の真下で遊ぶプールの子	6年	平賀 結菜
雨がふり田んぼの中は音楽室	6年	藤井 萌音
夏の川岩からとびおり水しぶき	6年	山野木慶太
春一番勝手にぶらんこ動き出す	6年	山本 来輝

山口県

夏の海みえる魚が笑ってる	6年	西谷 太貴
木のまわりちるはなびらはつぎのため	6年	脇本 稜大

徳島県

あわおどりことしのなつはげたがる	1年	富田 輝
太陽でばくも道路も日焼けする	5年	賀永 璃王
巣の中で飛ぶぞ飛ぶぞとつばめの子	6年	福田 絢斗

愛媛県

こうしえんぼくのでばんは十年後	2年	池内 昊斗
夏休み兄ちゃんだからはききあきた	3年	加藤 大晴
ばんかの海とんぼのかげも泳いでる	3年	木村 比積
夏休みたたんでできるたまごやき	3年	谷川 希美
まいったと首をかしげる夏野菜	3年	増田 菜歩
すいかわり最後の一人ぼくの番	4年	越智 春太
打ち水のうなぎのかたち消えていく	4年	帆足章一郎

入 選

入	秋の風道案内をたのまれる	5年	安岡 妃那
選	秋の風漢字ノートをめくつちゃう	5年	安岡 愛喜
	教室のまどからこっそりすきま風	5年	嶋田 琳乙
	春が来てみんなの心ふつわふわ	5年	池田 彩花
	うんどう会風もリレーで走ってる	4年	濱口 志茉
	白い息まほうつかいになったよう	4年	西森 楓
	秋になりわたしのかげをつくりだす	4年	戸梶 沙南
	新学期ゴーヤが大きく育つてた	4年	國澤 知代
	こたつへと犬もはいっておおさわぎ	4年	北村 日愛
	雪の地面ふんだらキュツと音がした	4年	川澤 希弥
	雨がふり元気に育つひまわりだ	4年	大野 心楓
	せつぶんはきまつていつもパパがおに	4年	井上 葵生
	川遊び高いところらとびこんだ	3年	鍋島 龍舞
	秋かぜといっしょに本を読んでいる	3年	中川 心暖
	春かぜに花がわいわいしゃべってる	3年	高橋 結菜
	ちようちよがねとばされそうなかぜがふく	2年	野田 冴綺
	はるがきてしあわせになるかぜがふく	2年	西森 美心
	さかなつりチヌが10ぴきいろちがう	2年	田中 楓真
	はるになりくうきすつたら大すきに	2年	伊東勘三郎
	高知県		
	そおつとね子ガメをのせて夏の海	5年	青野 早希
	過ぎさればみんななつかし夏の空	6年	望月 百奈
	ソーダ水生徒の増える祖母の家	6年	渡邊 花音
	福岡県		
	北風がぼくといっしょに走ってる	6年	伊藤 巧
	いもうとが七五三では美女になる	6年	田所 遼大
	カマキリが小さい目してにらんでる	6年	藤田 夕弥
	やきいもをいそいで口にちちちち	6年	村岡 希音
	ブランコをこいで明日へと飛んでいく	6年	森澤 周大
	福岡県		
	うみのなかさかないっぱいかこまれた	1年	伊東 実咲
	かぶとむしつのをもちあげなげとばす	1年	後藤 權
	あさがおのはなびらかじるありんこだ	1年	はたもと めい
	せみのうたかぜにながれてどこまでも	2年	辻 優果
	たいりようだキラキラ光るあじのむれ	3年	岡本 陽廉
	台風がぼくのおうちにやってきた	4年	松永 雄斗
	ひまわりの黄色い海にみとれちゃう	4年	南野 心花
	雪だるままつ白だけど手はまつ赤	5年	田中 友那
	夏休み深く緑がおいしげる	5年	山口 武琉
	夏の空 夜空に光る星達よ	6年	天野 聖矢
	夏の星「あっ」という間にかけぬける	6年	荒木 結子
	木の影が僕を追っていく影遊び	6年	鎌滝 侑華
	赤トンボまだなつだよとおしえたい	6年	手島 和花
	まるで夜お空をおおう積乱雲	6年	森 惺舞
	佐賀県		
	パプリカはわたしのすきないろです	2年	川崎 優佳

よるのうみさかないっぱいおよいでる 3年 増田 陽介
夏の空 花火の色はまんげ鏡 5年 川尻 航貴
セミの声 一匹一匹ちがう音 5年 後藤 理心
せみの声 短かいけれど命だよ 5年 久留 理愛

長崎県

やねよりもたかくとんだよくろあげは 5歳 吉木はやて
ゆりのはなはなびら6まいすきないろ 6歳 小宮しづく
おとうとのたんじょうびのひえあこんきた 6歳 山口ゆうのすけ
あまがえるあめがぼつぼつけるけろけ 1年 佐藤 愛叶
あめやんだにじをさがしにでかけよう 1年 松岡 更紗
水あそび水とぴちやぴちやおしゃべりす 2年 佐藤 璃衣紗
ひまわりがいっぱいさいいていい天気 2年 なかまあずは
なつやすみざしきわらしがいましたよ 3年 丸田 征ノ助
風の音しずかに聞こえる夏ざしき 4年 ボーラリオナ
ふうりんがなるとどうじに目を覚ます 5年 坂口明日香
夏の雲よこ雲いっぱいバーコード 5年 田中 夢乃
ユニフォーム汗飛びちらしゴール決め 6年 田平 聖華
立ち幅跳びニメートルごえ夏の空 6年 林 俐空
冬の夜雪がぼつぽつふってきた 6年 深井 大雅
音だけで花火の夜を感じてる 6年 本村 優汰
サラララの風にふかれてハンモック 6年 山口 季実

熊本県

コオロギを五ひきあつめておすもうだ 1年 浅井 宣行
ダンゴ虫足はいっぱいでもおそい 2年 森 れい
子どもの日つまさきだちのせいくらべ 3年 池部いろは
友だちといっしょに探すカブト虫 5年 濱本 珠羽
わかれの日あの子わすれた夏帽子 6年 前川 陽汰
青みかん甘酸っぱさが恋のよう 6年 渡邊 莉音

大分県

あじさいや一つ一つが主人公 6年 小田 政道
天の川 願いの数だけ星ふえる 6年 古谷恵莉香
ゆらゆらとかんげいしてる菜の花が 6年 松下 楓

宮崎県

入学式ロボットみたいになっちゃった 2年 赤木 克陽
夏のアイスおしゃべりしてるとけちゃうぞ 2年 中武 亮太
妹がスイカをたべる目が光る 2年 廣村 咲名
夏休み子守りのじいちゃん高いびき 4年 渡邊 和
猛暑日にぬけがら三つ家の壁 6年 有川 典諒
かみなりにおびえる私とかえるくん 6年 伊東 万葉
大声でミンミンさけぶおつかれ様 6年 稲田 百華
若鮎がしぶきをあげて光散る 6年 山田 瑛登

鹿児島県

たいようがしずんで月がでてきたよ 3年 平 結愛

手にうちわチリンと風りん夢の中 5年 大保 優衣

夏祭り舟こぎレース一位だよ 6年 藤 明生

鳥たちが目覚まし時計ヒュルルル 6年 峯 和奏

沖縄県

春空に紙ふぶきまうさいこの日 3年 山城 成騎

いれいの日平和を願いウートー 4年 横田 翼

かたつむりいっしょに歩くじゃり道だ 5年 橋 うめ

エイサーは人のたましい生かしてる 5年 山内 律輝

バトンパスなつからあきにつないでく 6年 與那覇 絢音

俳句

中学生の部

特選・秀作は学年順都道府県別の掲載です

選者のことば

俳句という宝探し

◆◆◆◆◆
木暮 陶句郎



◆ 木暮 陶句郎
こぐれとうくろう
昭和三十六年群馬県生まれ。
「ひろろ火」主宰、「ホトトギス」同人。

わたしが俳句を始めたのは二八歳のときです。それから三〇年。もっと早く俳句をやっていたればよかったとつくづく思います。みなさんの中には、わたしより十五年も早く俳句に出会えた人もいますね。そして自分の意思で俳句をつくりNHK全国俳句大会に投句されました。これは本当に素晴らしいことです。

中学生のみずみずしい感性でつくる俳句を選んでいて、わたしも少なからず刺激を受けました。そして青春のページを俳句に託してしつかりと切り取っている秀句に感銘を受けたのです。自分の中学生時代と照らし合わせて一句一句うなずきながら楽しく選句をさせていただきました。その中で、よい句というのは不思議と目に飛び込んでくるのです。その句をもう一度ていねいに味わうように読むと十七音から色彩豊かな情景や作者のさまざまな思いが立ちあがってきます。

もう少し詳しく言うと、わたしの心を強くとらえたのは次のような俳句でした。五七五のリズムをとおして青春まった中の自分を見つめている作品、四季のうつろいへのまなざしがこまやかに感じられた作品、季語（季節）がきらめきを放って作者の思いを代弁していた作品など本当に素敵でした。

俳句はつくればつくるほどにその奥深さに気づかされるものです。今回、入選・入賞をはたしたみなさんはもちろん、惜しくも入選をしなかったけれど自分の納得のいく俳句を投句したみなさん。さらに俳句の世界に大きく一歩踏み入れてみてください。そこには日本文化のおおもとをなす宝物がたくさんかくれています。これを機に俳句という宝探しの旅にでてみませんか？そして俳句とともに大いに青春を謳歌してください。

◆ 特選 木暮陶句郎選

夏休みトランペットがひかりだす

埼玉県鶴ヶ島市立藤中学校 1年 秋山 花那

夏浅し椅子の背中にカーディガン

東京都杉並区立西宮中学校 2年 菱垣あゆみベルリア

透明な炎でゆがむアスファルト

東京都葛飾区立金町中学校 2年 大牛 愛子

反抗期入り始めのハンモック

静岡県静岡市立賤機中学校 2年 渡邊 優心

プラスバンドの花形、トランペット。その楽器をまかされたのだ。作者は期待に応えるため夏休みを利用して十分に練習しようと思った。すると目の前のトランペットがきらきらと輝きだした。

少し汗ばむような季節がやってきた。羽織っていたカーディガンを脱いで椅子の背もたれに掛けた作者である。淡い色合いのカーディガンが窓からの薫風にそよぐ光景はまさに初夏のひとこま。

季題は「陽炎」と解したい。アスファルトから立ち上る空気がゆがむ様子を興味深く見つめて詠んだ作品である。ものをしっかりと見て自分の言葉でつむいだ五七五。「透明な炎」に発見がある。

始まったばかりの反抗期の様子をハンモックという季題を通して見事に描き出した。ハンモックに身をあずけて親の言うことをひたすら無視する主人公の冷めた態度が見えてくる作品。

エレクトーン指がはばたく夏の蝶

愛知県安城市立東山中学校 2年 宇佐見夏菜

夕立や後悔ばかりあふれだす

北海道網走市立第三中学校 3年 花田 涼

イヤホン外す夏が押し寄せて来る

富山県富山市立奥田中学校 3年 伊藤 楓香

くつの裏けずれていった夏のはて

岐阜県多治見市立南姫中学校 3年 松永 悠碁

夏終るビニールプールの裏返り

愛媛県今治市立北郷中学校 3年 真鍋 姫花

木漏れ日に上る階段夏浅し

福岡県福岡県立嘉穂高等学校附属中学校 3年 堀 美遥

私も小学生の時エレクトーンを習ったことがあるがわずか一ヶ月で挫折。以来楽器には苦手意識がある。掲句は逆にまるで夏蝶が舞うようにエレクトーンを弾きこなしている。うらやましい限り。

青春にはさまざまな失敗が付きもの。夕立の音以外は何も聞こえない部屋で、過去の失敗を悔いる作者だが夕立が上がればそんな後悔も洗い流されている。切替の早いのも青春なのだ。

口をついて出てきた言葉がそのまま俳句になった。五七五のリズムを破りつつ力強い表現で迫ってくる夏を受け止めた秀句。イヤホンを外した瞬間の両耳が捉えたビーチの賑わいや波の音である。

夏休みをとともに過ごした一足の運動靴。あちこちへ出かけて楽しい思い出をつくった。ふと見ると靴底がずいぶんすり減っている。夏の間中、作者の足を守ってくれた心強い相棒である。

学校のプールにも通ったが、日々の暑さをしのぐため家のビニールプールに水を張った。夏休みも終わりに近づきビニールプールの水を抜くと軽々と風に裏返った。十七音に込めた夏を惜しむ気持。

自然に囲まれた神域へと続く石段を上る作者の全身に、若葉からの木漏れ日が降り注いでいる。少し汗ばんだ額を撫でてゆく心地良い風。夏の始まりを予感しつつ一段ごとの歩みに見えてくる未来。

◆ 秀作 木暮陶句郎選

浴衣着て帯と想いが結ばれる

神奈川県川崎市立野川中学校 1年 二井 愛葉

ぱつと咲く朝顔見たら始まる日

愛知県名古屋市長鳴海中学校 1年 大内 暖翔

夕焼の光で伸びる私の背

愛媛県砥部町立砥部中学校 1年 井関 南

夏休み白いページで一カ月

福岡県福岡教育大学附属小倉中学校 1年 今池 璃奈

すいれんの影を横切る魚たち

鹿児島県始良市立重富中学校 1年 新垣 百音

透きとおるクラゲに共感するわたし

岩手県岩手町立川口中学校 2年 斉藤 ユナ

ビー玉のころころと敗戦日

埼玉県川越市立福原中学校 2年 新井 悠斗

夏の空きらきら光る眼鏡かな

埼玉県川越市立福原中学校 2年 庄田 彩希

レジ前で姉妹でわりかんカーネーション

東京都杉並区立西宮中学校 2年 野口 釉香

泳ぎたい空を見つめる金魚たち

東京都杉並区立西宮中学校 2年 真境名イスラエル

かき氷あつという間に水たまり

東京都国立市立国立第一中学校 2年 西田 桃

星の川そこは君への滑走路

新潟県新潟市立白南中学校 2年 高野 鈴夏

おしやれより涼しさ重視服選び

高知県土佐塾中学校 2年 内田 梓月

秋桜や少女は風の中に居る

岩手県洋野町立宿戸中学校 3年 畑中 美鈴

パチパチと盆が去り行く炎かな

岩手県久慈市立山形中学校 3年 工藤 聖穰

んぼんぼと弟が言うさくらんぼ

福島県須賀川市立第三中学校 3年 鈴木 眞優

落ち込んで下向いてたら見えぬ月

福島県須賀川市立第三中学校 3年 大賀 凜

円陣を照らす太陽夏来たる

埼玉県桶川市立桶川東中学校 3年 水野 あんみ

自転車で風を切りゆく夏の坂

千葉県茂原市立富士見中学校 3年 香川 留璃

英単語十個忘れてソーダ水

東京都海城中学校 3年 藤尾 一郎

友情も日焼けの跡も濃くなつた

東京都海城中学校 3年 浅野 智也

問題集海を思って解き進む

東京都杉並区立西宮中学校 3年 中野 壮真

雷鳴や母の形見のサンガラス

東京都海城中学校 3年 大塚 佑基

不器用にちぎった夜空稲光

東京都海城中学校 3年 岩崎 慎平

梅雨の傘したたるしずくに自分いる

東京都杉並区立西宮中学校 3年 山澤 秀士

夏の空シロップまぜた空の色

東京都葛飾区立金町中学校 3年 田中 菜瑚実

誰よりも個性全開かたつむり

新潟県佐渡市立南佐渡中学校 3年 金子 彩奈

会うたびにじいちゃん元気ナスの花

岐阜県多治見市立南姫中学校 3年 長谷川 はな

「早く帰れ」空蟬まみれの弟よ

愛知県豊橋市立南陽中学校 3年 御厨 琴晴

たんぼぼと一緒に飛ばうその先へ

愛知県豊橋市立南陽中学校 3年 越知 夢稀

水槽の角に集まる金魚かな

愛知県幸田町立南部中学校 3年 齋藤 叶華

夏休み二度ともどらぬ砂時計

兵庫県雲雀丘学園中学校 3年 大和 星牙

何もかも散らかしたまま夏休み

兵庫県兵庫県立神戸聴覚特別支援学校 3年 大西 悠

てんとうむし羽出したのに飛ばないの

広島県三原市立宮浦中学校 3年 陰迫 美羽

入選 北海道

木耳 きくらげ をながめっていると暗い空	1年	浅井 誠基
腹出して愛犬寝入る夏の朝	1年	戸塚 星璃
精神をやさしく満たす滝の音よ	2年	佐藤 匠
暑い夏遊び疲れて背もたれに	2年	吉澤 莉緒
夕立のにおいがのこる夕日みる	3年	青柳 匠洋
梅雨の雲空と心にフタをする	3年	安達 元太
入道雲一人孤独にながめてる	3年	阿部汰一朗
おもいきり入道雲へとびこんだ	3年	石田 空
ひまわりや涙をこらえ上を向く	3年	岩佐 遥
絶えきれず積乱雲から逃走中	3年	岩田 萌
空港や入道雲と旅立つ日	3年	小笠原冬羽
ポツポツと悲しいような夕立が	3年	鎌田 涼
立ち上がれトマトの威厳背のびして	3年	木村 駿太
これから胡瓜をもつ手たくましく	3年	佐々木琉生
あと二秒横顔照らせ花火かな	3年	笹森 小夏
咳こぼす肺で聞こえる風の音	3年	詫間 汐莉
入道雲太陽目指し踊ってる	3年	千坂 志保
天を向く向日葵をまた育てたい	3年	千葉 裕斗
あの雲はどんなトマトになるのかな	3年	中川 みゆ
積乱雲不安と大きな比例する	3年	西川 来奈
ひまはりや明日へ向かひて咲きほこる	3年	林 菜摘
夜の底泳ぐ金魚は乱反射	3年	藤田 妹花
ひまわりが海のむこうへさつていく	3年	藤原 大地

熱帯夜覚えた単語が消えてゆく	3年	布施俊一郎
はにかんだ真っ赤なトマト水の音	3年	本庄 愛佳
ひまわりや僕の心を包みこむ	3年	宮田 綺羅
ラフティング落ちた友達また落ちる	3年	森川 文翔
入道雲じわりとッボクッをのみこんだ	3年	八畝 綾奈
ひまわりがあつちを向いて笑ってる	3年	山崎 優奈
四肢を出す午前一時の熱帯夜	3年	横田優汰郎

青森県

ずるすぎる進路決まってる台風は	3年	小野 楓華
十五歳夏のバイブル参考書	3年	田中雄一郎
雲海や僕を飲み込みぐんに行け	3年	鶴谷 幸大
たんぽぽがだんちのうえでおどってる	3年	外崎 文寧
夏疾風全てを制す九つの魂	3年	松橋 修斗

岩手県

暑さには白旗あげる大人たち	1年	落安 陸斗
この暑さ水道水があったかい	1年	田村 颯汰
夏終わり無口になった僕の友	2年	瀬川 流星
振り向けば吹く風甘く苺かな	3年	佐々木瑞浦
ふくろうや闇にまぎれて見守って	3年	下國 力貴
心太すする瞬間海の中	3年	高屋敷美咲
春の雲ゆっくり動く時計針	3年	槻ノ木澤ちひろ
薫風に町の願いと笛の音	3年	留畑 瑞穂

汗光る空 いっぱいの友の背中 3年 日野 捺希

宮城県

雷にいつも負けてるうちの犬 1年 大竹紘士郎

外へ行くちらつく雪は「まほう」のよう 1年 横山 結花

庭に水あげるつもりが水遊び 2年 花海 明里

人間と間違えていたかかしかな 3年 伊藤 亜衣

流れ星ちよっと待ってと声が出る 3年 小山亜沙美

つららをねとろうとろうと子供達 3年 狩野 陽太

花火咲き静かな夜を照らしけり 3年 佐藤 海斗

夏の川 流れの川の鮎光る 3年 佐藤 萌花

宮城県 春一番多くの命芽吹く時 3年 庄司夏小梨

秋田県

朝露のシャワーで輝く通学路 1年 杉田 妃菜

夏の海笑顔をさらに輝かせ 1年 中村 胡音

おどろいてからだひねらす金魚かな 3年 小林 さや

福島県

春風でうかぶ吹奏楽の夢 2年 大高 来望

春の日に新たな始まり告げる風 2年 小室 裕太

剣道やパンと足音冬が来た 3年 青津 茅宙

うつうつとゆれるわが身に花も笑む 3年 安齋 美南

しゃきしゃきと我は林檎をかじりけり 3年 遠藤 帆華

南風や木々がくすくす笑いけり 3年 渡辺 杏奈

忍び寄る入道雲と新学期 3年 太田 功晟

ラムネビンビー玉ごしに海の青 3年 荻谷 拓磨

ビルの間に咲くタンポポの背比べ 3年 小野菜々美

向日葵は私を待たずに伸びていく 3年 小野塚聖実

藍色の夏空 走る流れ星 3年 菅野 百音

蟬時雨がなばれ残りの一週間 3年 草野 華音

萬緑の山を眺める帰り道 3年 倉兼 桃花

春風は私をおいていつてしまふ 3年 後藤 七海

露のとう光とともに開きけり 3年 榊枝 花

遠くから聞こえてくるは雷鳴か 3年 佐藤 巧視

参考書積んでるだけの夏休み 3年 佐藤 李音

トロフィーを掲げて笑顔汗光る 3年 佐藤 蓮

部屋中にコロロンと響く麦茶の音 3年 末永 あい

夏の雲暑さがみせた空の声 3年 菅原 駿

梅雨明けの瞳の奥に花開く 3年 杉山玲緒菜

葉桜や気づいてみれば時が過ぎ 3年 鈴木 千鶴

学び舎のガラスごしには流れ星 3年 武田 怜生

金魚さえ二匹で泳ぐ僕は一人 3年 樽川 史弥

初空に描ける限りの夢抱く 3年 富樫龍ノ介

遠くても夏の夜同じ花を見る 3年 戸田 綾音

ほおなでる風にもあわい春のにおい 3年 中澤 心斗

水着きてくつ下はいてるおんなの子 3年 長澤 瑞姫

あじさいを外灯代わりに雨の道 3年 長瀬凜々子

寒い部屋今日もかすかな蟬の声 3年 西田真侑子
夕日色体にうつる赤蜻蛉 3年 橋本 武英
雪あられ白のたましい降り下りる 3年 保住 芽衣
短夜で星が恋しい帰り道 3年 堀本 莉那
蛩みて一瞬の命知る私 3年 宮本麻依子
夏休み一日一日消えていく 3年 村上 千聖
蚊がとまり一瞬合った二人の目 3年 森 彩葉
コスモスとさらさらなびく友の髪 3年 吉田千沙都
真つすぐな砂利道駆け抜け夏来る 3年 若松 那佳
氷柱踏み今日一日の始まりだ 3年 渡辺 虹

茨城県

二条城壁の白さに目がくらむ 2年 金子 華凜
流れ来るそうめん食うは前の人 2年 早津 敦生
セミ鳴く日奈良の大仏東大寺 2年 丸山 由珠
首重く金の波たつ稲穂かな 3年 伊藤陽和里
新たな場我が心にも菜種梅雨 3年 伊藤 若葉
笑う君線香花火落ちてから 3年 宇野 瑞葵
昼下がり猫は逃げるよ日射しから 3年 大久保 優
声援と共に聞こえる蟬の音よ 3年 大和田ころ
野辺山の池のまわりの赤とんぼ 3年 恩田 源太
更衣あの子の夏服百合のよう 3年 角田峻太郎
あの日より優しく見えた春の空 3年 菊地 史哉
ひまわりと共に輝く友の額 3年 郡司 理沙

花火見る特等席は父の肩 3年 佐久間光優
遠くから春の香りに身を任せ 3年 佐藤 伸輝
原子炉と溽暑に眠る町静か 3年 佐藤 龍真
秋風にゆらゆらゆれる稲の海 3年 蒨 洋輝
何事も暑さのせいにしてしまえ 3年 菅野 絢寧
雨音が毎日変わる梅雨の時期 3年 鈴木 穂和
立ちこぎで俺の制服汗まみれ 3年 鈴木 瑞人
ふと思う麦藁帽と虫かごと 3年 鈴木 渉
虹かかる部活終わりの夕の空 3年 寺門 飛翔
しずかな夜線香花火がおちにけり 3年 永井 緑子
夏の花みんなの手をよせ線香花火 3年 根本 結衣
やんわりと我が身をてらす臘月 3年 萩野谷瑠伽
ふと気付く蟬が静かだ九月一日 3年 廣瀬奈々子
風薫る木々の上から差す光 3年 福澤 春菜
白線も濁りて消える梅雨日かな 3年 福田 美穂
弟の瞳を揺らす蛩かな 3年 前田 悠真
おぼろ月水に降り立つかぐや姫 3年 眞崎 花乃
春風が目覚めるように吹いている 3年 光永 聖
木々がはげ日焼けの肌もはげてゆく 3年 山田 隆翔
炎天下仲間とともに声を出す 3年 米倉ひまり

群馬県

目に残る君と紫陽花僕と雨 3年 深澤 陽太
一時の私の恋も更衣 3年 松井 涼羽

埼玉県

ひまわりが光り大きく咲いていた	1年	岩間 陽香
セミの声夢と希望の始まりだ	1年	大久保裕太
暑中見舞い会えない人と繋がれる	1年	佐藤 陽菜
蝉の音に耳を傾け目を閉じる	1年	福島 美空
すこやかな雷雨の後の青い空	1年	堀越 裕貴
夏の夜に輝く花火は大スター	1年	渡邊 蓮和
日焼けする僕のあだ名はかりんとう	2年	青木 遥夢
夏の風先生の声流してる	2年	新井 海渡
夏休みあせかく顔の乱反射	2年	大口 舞喜
窓ごしにやわらかな風ねこの恋	2年	落合 美波
なぞり書きはみだしている海月かな	2年	富岡 桜
夏の風しめきりせまる生徒会	2年	長嶋 淳
夏風やソの音ふいて優秀賞	2年	中山友里奈
扇風機一定の位置水曜日	2年	前島 夏乃
席替えの薔薇の香りやペン回し	2年	水谷 汐音
宿題や足を出してる夏の海	2年	宮下 陽菜
Tシャツに流した汗のしおがふく	2年	矢部 大地
海の中バラバラになる貯金箱	2年	吉澤奈南佳
春風や未来の自分へ手紙書く	2年	渡辺クリスティ
体育祭僕らのステージ夏の空	3年	岩見 渚央
十五歳迷いも残る残暑かな	3年	阿部 航也
初浴衣きつけができずあきらめる	3年	今井ほの美
夏祭り君との距離は六センチ	3年	小林 由愛

千葉県

竹馬に止まる二匹のトンぼかな	3年	鈴木 翌花
青空に汗も降りたるグラウンド	3年	鈴木 絢子
解きかけの問題の横のかき氷	3年	須田 侑希
おばあちゃんみなぎるパワーの夏野菜	3年	関口 萌菜
焼きいもをまだかまだかと待つ子かな	3年	高橋 優斗
そわそわと梅雨の終わりを待っている	3年	高橋 理愛
旅立ちと共に散りゆく桜かな	3年	田中 啓太
輝いた紅葉のような母の顔	3年	胸元 彩那
更衣着れない服が増えていく	3年	屋宜 由梨
去年より夏が早く過ぎて行く	1年	坂野小太郎
クマンバチ強風の中ねむってる	3年	磯野 裕一
寝転がり土の香ふくむ春の風	3年	佐久間向日葵
春風が縮めてくれた二人の距離	3年	長野 多希
自己主張強いんだよねパンジーは	3年	正木 美法
金閣に夏鳴親子池静か	3年	宮内亜花李

東京都

木かげからも色のぞく百日紅	1年	飯塚 彩
かわぎしのほたるがつくるあまのがわ	1年	井上 陽菜
風鈴はあせる僕らの応援歌	1年	大津 人生
紅葉が赤いマントにかわる秋	1年	金 亨政
夏の山アクセル全開峠越え	1年	坂本 陸翔

山笑ふ自然も絆も深緑	1年	佐藤 雅哉	部活後にカランと鳴った氷の音 ^ね	2年	河東 花音
ローカル線車窓にうつる雲の峰	1年	佐藤 未来	円陣で気持ちが入る夏の朝	2年	菊池 周平
夏の日に流した涙すぐかわく	1年	鮫島 輝月	蒲公英の白い綿毛はパラシュート	2年	北川 巧
キラキラと輝くプール宝石だ	1年	寫根 茉那	飛び回る米つき飛蝗と会社員	2年	久住 和輝
雨の中あじさいたちが笑ってる	1年	新貝 真由	秋風にひとりぼっちの扇風機	2年	小北 遙希
鳴く蟬が私と自転車追いかける	1年	鈴木 杏実	ひまわりは僕の心を満たす花	2年	小久保龍馬
夏がきてふと思ひ出すおじのこと	1年	千葉柚都花	花火より瞳の奥に残る君	2年	小寺正太郎
夏休み体感速度は約十日	1年	中村 海哉	空見上げ浮かぶ私は青い海	2年	駒井 粹珠
ねていたい私VSせみの声	1年	馬場咲良沙	砂浜に色とりどりの夏の花	2年	小松原 悠
部活中ボールがとびかう夏の空	1年	古田千咲子	かいた汗リレーで一層しみていく	2年	佐久間 要
素ぶりの音負けじと競うセミの声	1年	八所 真皇	目力で消えちゃわかないかな線香花火	2年	佐藤 颯人
砂が舞い肌張りつく炎天下	1年	山本 怜於	夏休みサッカークリケットで黒光	2年	須崎 亮介
闇の中光る蛍の悲しげに	1年	吉田 綾花	蚊のおかげ日に日についてく瞬発力	2年	鈴木 里菜
夏祭りみんなとはぐれ帰って	1年	吉田龍之介	椅子の足運動会をふきとって	2年	立神 碧人
見渡せば指呼の山々夏の霧	1年	李 諒祐	行進曲暑い校庭疾走中	2年	田中 唯菜
夏まつり友と浴衣で照れ笑い	2年	芥川 愛梨	イカ食べて最後の乳歯ぬけた夏	2年	辻岡あるす
宿題がじゃまする僕の夏休み	2年	阿部 伊吹	ひぐらしの声聞きたくないさびしいな	2年	土屋 彩華
祖母偲び見上げる空に花火咲く	2年	今村 友美	浴衣着る頬に吹く風緑の香	2年	富松 星
くつずれも思ひ出の内お祭りの	2年	岩佐 彩未	くもの巣に夕立ちかかり星空に	2年	中村 千晶
梅雨空を見上げて走る明日テスト	2年	碓井 聡太	風ふいて木々が奏でる第九かな	2年	菱田 麻由
網かつぐ少年見守る入道雲	2年	内野 空哉	カーテンのあらゆるすき間に朝焼けが	2年	日高 徳大
夏嵐声を背中に風をきる	2年	梅田凜太郎	夏の夜ペルセウス座が月のよう	2年	藤井 朔弥
かたつむり虹と一緒に顔を出す	2年	勝田 悠吾	滝の音心にひびく水の声	2年	藤本 真央
「暑いね」で途切れる会話下校道	2年	加覧 悠	暑すぎる暑い暑いと言うだけだ	2年	星名 美咲

U F O だ線香花火目に残り	2年	眞崎 心葉	緑日の赤い宝石りんごあめ	3年	小林 珠久
冬の空やわらかな雪がつつみこむ	2年	松澤 太一	ラムネ玉カランと鳴って夏が来る	3年	下蘭 千遥
温暖化人も地球も熱中症	2年	松田 翼	さそり座の体流れるヘリコプター	3年	高瀬 晶
夢の中の僕を追い出す日雷	2年	三宅 恭平	浴衣着たあの子のほったりんごあめ	3年	玉岡 大和
夏祭り両手がふさがる食いしんぼう	2年	宮田 菜央	稲の葉や朝露滑る夏の朝	3年	中島 海優
木の下で夏からにげた人の影	2年	向畑 和樹	働いてみんなで食べたかき氷	3年	鍋島 彩那
透明な飛行機雲追う君の影	2年	矢口真結子	かき氷心に一滴つけ加え	3年	蓮本 颯人
はかまいり心の中で頼みごと	2年	柳沢 悠生	炎帝の青に飛びこむイルカなり	3年	林 佑晟
背中追い夏の走者に託すバトン	2年	横堀 玲音	遠雷やスター引退記者会見	3年	平林 雄輝
妹が「母の日何日」母に聞く	2年	力丸 想実	涼しげな風と子の声渚まで	3年	福田 優輝
流星が子どものように遊んでる	2年	渡邊 夏帆	せみの声いいわけにする受験生	3年	星 幸太郎
寝ころんだ向日葵畑が笑ってる	3年	秋田 太陽	八月の一番甘い果肉食う	3年	千川 裕輝
祭太鼓遠く水筒まだ重し	3年	安部 拓寛	波の音夢で終わった受験生	3年	正富 理子
蟻達も荷物かかえて帰省かな	3年	伊藤 史哉	のど通る冷えた直線麦茶かな	3年	松尾 学
空蟬をやんちゃな風が連れてった	3年	井上 真翔	梅雨あけの空に響く鳥の声	3年	萬田 桃子
楽しさは花火とともに舞い上がる	3年	大竹紗絵果	カミナリや本屋のすみで雨やどり	3年	村田 夏穂
炎天に祈る剣先光る技	3年	大谷 胡春	空蟬や遊んでくれるまでを待つ	3年	室田 大道
一枚にかためる決意受験絵馬	3年	大野凜太郎	ふと思う夏の雲たち羨ましい	3年	柳井 風花
山々の緑濃くなる田植えかな	3年	大橋 愛花	汗ふいて行きかふ雲に名をつけて	3年	山下 楓華
夏休みつかれた時は海にいく	3年	沖山 瑳亮	五月雨や光り輝く金色堂	3年	山下 真凜
花火咲く伝統と未来引き継いで	3年	小野 結菜	すずめより人が怖がるかかしかな	3年	山根 柊聖
フルートに願ひも吹き込む受験生	3年	北川 望加	五月雨やあたり静まる中尊寺	3年	山本 歩夢
年明けに皆で寄りそう家の居間	3年	倉橋 直希	春休みサヨナラの意味考える	3年	和田 愛海
そうめんと試験勉強もう飽きた	3年	小嶋 咲	農家ではトマトも愛も味が濃い	3年	渡邊爽与香

入選 神奈川県

ラムネ瓶すかして見えるは夏の空	1年	秋元 美希
たのしみはサザエを採って食べるこ	1年	田代 直輝
うずまきと線香の香りねむりさそう	1年	中坪 美友
夏休みきれいな海を見にいこう	1年	藤尾 京叶
夏休み祖母を見下ろすせいくらべ	1年	益子菜乃香
塩鮭を食べながらみる冬景色	2年	阿部 翔一
帰り道夕焼け色の蟬時雨	2年	大平 光太
涼もうか網戸に居付いたアブラゼミ	2年	小沼 佑生
黙々と祖父母としやがみ草むしり	2年	佐藤 航
風鈴の音で感じる古都の風	3年	原 勇真
暇閉じ祈る八月夢の中	3年	内田 彩巴
ハルゼミの鳴き声響く有珠山や	3年	刈屋 茉緒
広い空植田の鏡光りだす	3年	川部 萌笑
流れ星夏の三角通りぬけ	3年	木谷 翔斗
入道雲青いパレット染めていく	3年	熊澤 杏
南禅寺涼しげな声水の声	3年	佐々木千夏
万緑にどんと佇む天龍寺	3年	佐藤 伴哉
金閣寺ゆらゆら揺れる春の池	3年	佐藤 未悠
夏の夜へ打ちあげられた花よ舞え	3年	鈴木 一花
なまはげに親戚全員大集合	3年	鈴木 佑佳
夏空に目を細め見し金閣寺	3年	早乙女瑛一朗
少しだけ涼しく感じる波の音	3年	高城 志乃
夕焼けが町全体をつつみこむ	3年	田邊 凜

涼風が千本鳥居かけぬける	3年	中村 紗衣
風鈴が風の気持ち伝えてる	3年	縫田 優人
あめんぼがすべる水面の金閣寺	3年	萩澤ありさ
漆黒の空に輝く天の川	3年	馬場 悠月
金閣の鳳凰うつる泉かな	3年	日置萩央里
夏の雨ぬれて輝く金閣寺	3年	樋本 泉
あと一歩近くて遠い甲虫	3年	平田 詩歩
そうめんを食べてしみじみ夏が来た	3年	福留 賢二
熱帯夜かまわず風切る列車かな	3年	百瀬 達啓
動かずに線香花火を見つめてる	3年	吉田 未咲

新潟県

夏休みお盆を過ぎるととんで行く	1年	坂井 天迦
自由研究必死に探した流れ星	1年	眞水 伶菜
玄関で盆の祖母の家のおいした	2年	鷲尾 瑛星
川の音静かな闇に蛍飛ぶ	2年	天野 星華
明日は晴れ空高く舞う燕かな	2年	新井龍之介
海釣りのびんびん元気なキス二匹	2年	遠藤 凜
祖母からの宅急便はしそジュース	2年	鈴木 晴
ホームラン炎天の雲突き破る	2年	高野 隼輔
空高く燕が季節知らせてる	2年	村上 浩樹
遠雷や虚ろな空に吸い込まれる	3年	岩本 萌花
新緑に黄金放つ金閣寺	3年	遠藤 華
蒲公英のわたげが飛んで新世界	3年	加藤 大和

水害を悼むキャンドル夕涼や
 夕やけが海にうつってほっこりと
 枕元ゆふべの蛩むくろなり
 テスト後に扇風機の正面から叫ぶ
 勝利した後は爽やか球技会
 熊になり顔入れてさがす冷蔵庫
 桜舞いいろんな道へ人も舞う
 ただ泳ぎ幸せ感じる夏の海
 走るたび輝く芝に汗の玉
 星さゆや僕の迷いを見抜いてる
 青空を直線飛行燕たち

3年 草間 未悠
 3年 笹川 佳乃
 3年 鈴木くるみ
 3年 諏訪 陽大
 3年 中川 瑠夏
 3年 波形 真輝
 3年 林 大幹
 3年 廣井 琴子
 3年 眞水 翔太
 3年 宮原 羽菜
 3年 八尋 測瑠乃

富山県

寝ころがる次の波音待ちながら
 部活して疲れし耳にせみの声
 帰り道ラムネの瓶に音残る
 揚羽蝶ひとり虚空を飛びにけり
 炎暑来る体に鉛仕込まれり
 山椒魚真昼の闇にのまれけり

1年 高畠 龍世
 2年 平 梨生
 3年 伊東 愛佳
 3年 喜田 彩花
 3年 立浪 紘佑
 3年 山崎 勇空

石川県

春風に吹かれ飛ばされ歩きけり
 春時雨人で溢れる浅草寺
 デイズニーで日永く感じ楽しんだ

3年 岡村 芽依
 3年 上村 優羽
 3年 川上 孝弥

自主プラン桜がさくとき東京だ
 東京の街をめぐりし菜種梅雨
 響き合う春の終わりの足の音
 卒業式あらたな一歩のはじまりだ
 見上げれば赤いタワーと散り桜

3年 中野健太郎
 3年 橋本 悠羽
 3年 林 悠生
 3年 平岡 葵弓
 3年 山口 暖翔

福井県

きみおもうなつのよぞらにはたるとぶ
 花柄の浴衣着ている君が好き
 太陽で照らし出されるプールの水
 はなびみてひごろのつかれとんでいく
 信号機待つてる時がとても暑い
 ひまわりや私の夏の幕開けだ
 舌出して夏バテ気味のレッサーパンダ
 夏休み部活で金賞とってやる
 熱帯夜僕の体がとけていく

3年 朝倉 沙織
 3年 伊藤 航
 3年 岩野 佑飛
 3年 櫻川 莉子
 3年 島津 貢輝
 3年 嶋野 明璃
 3年 月田 花凜
 3年 吉田 日菜
 3年 吉村 瞬

山梨県

この道もあと何度だろう木の葉散る
 鍵忘れ家に入れず蚊の餌食
 墓参り見知らぬ顔に手を合わす
 いつの日か聞こえなくなる蟬の声

3年 飯島 遼
 3年 水村 連
 3年 吉見 海洋
 3年 渡辺ひより

選 入
長野県

手にのせた一瞬だけの雪結晶 3年 野中くるみ

岐阜県

めざしたいひまわりぐらいまつすぐと 3年 岡田 健汰

初夏やぐうぜんよそおう帰り道 3年 川島 成美

氷菓のようあつというまにとけた夏 3年 鈴木 悠生

紫陽花や雫にうつる朝の空 3年 長瀬 寧久

静岡県

サックスと共に奏でる蟬の声 1年 平山 暖

向日葵が高く飛びはね夢を見る 2年 秋山向日葵

水着跡はつきり残る思い出だ 2年 市川 聖也

暑すぎて集中できなくペン回し 2年 稲葉 奈々

秋の夕運動場未だ熱残る 2年 内野 知哉

ボール投げ四十五度の先に虹 2年 岡 一芽

夕立ちの景色現すアスファルト 2年 片井 優空

秋霖の風を感じて読書かな 2年 小泉 恵太

忘れない悲鳴の雨降る原爆忌 2年 才茂 美咲

お祭でゆるんだ浴衣直す母 2年 佐藤 萌香

満月にはしごがかかる夜の海 2年 佐藤優輝帆

我が部屋も少し正してカーネーション 2年 繁田 美希

母の日は私がママでママ子供 2年 杉本 心

十六夜のスポットライト森が照る 2年 土屋 雅

愛知県

水鉄砲定規ではかれぬ人生か 2年 馬淵 楓梨

じりじりと大地をこがす熱帯夜 2年 吉田 大希

盆踊り天と地つなく輝く夜 2年 吉本 心美

涼しげな竹林の道別世界 3年 磯部 省伍

紫陽花が雨で輝く清水寺 3年 軒山 桜

夏の朝八方にらむ龍のかお 3年 望月 悠那

さくさくと落ち葉を踏む音ついてくる 1年 江坂 優歩

初日の出つめたい心もあったまる 1年 岡村 萌映

ぶかぶかの制服はずかし入学式 1年 河合なつき

入道雲後ろに太陽かくしてよ 1年 畔柳 茉由

塾帰り後ろに気配月の光 1年 清水 彩名

新学期大きく見えるとなりの男子 1年 洲崎 奈己

ゆかたきてはなさくよるのそらを見る 1年 鈴木 涼珠

一匹のセミが静かに地におちる 1年 高須 琴子

春すぎてぐんじよう色の夜空かな 1年 中島 蘭

セミたちのおうえんをせにボールける 1年 中野 亮太

入道雲まるで私を包んでる 1年 西浦 凜

梅雨明けて僕の心はすきとおる 1年 飛田 峻汰

蚊をつぶし命が何かを考える 1年 牧野 圭太

夕焼けに背中押されて帰る道 1年 間宮 涼太

雪降れば広い野原がさわぎ出す 1年 吉本 有佑

土手で寝る私の指へと赤蜻蛉 2年 石田 翔大

入 選

遺影の下で昼寝する終戦日	2年	大谷 一貴
入道雲のびろ私ものびしろ十分	2年	徳永小万里
卓球場すべるラケット握る夏	2年	内藤 翔太
狼の遠ぼえ聞こえ寒さ増す	2年	秦 彩歌
夕焼の君の横顔物思い	2年	松原 智徳
あいさつで夏のやる気をひきおこす	2年	森 穂理
ほほなでる初夏のはじまりもう来たか	3年	浅野 桃和
海水浴水平線に夢を見る	3年	天野 開斗
風鈴の風に揺られたハーモニー	3年	天野 未萌
あじさいに弾む雨粒四分音符	3年	伊藤 珠希
なつぞらがサーフ打つとき見えるんだ	3年	大森 萌加
だらしない私の後ろ鳴る雷	3年	大矢 真菜
カランコロン麦茶のグラスうつる僕	3年	岡田 彩香
炎天に飛ばした靴はどこへ行き	3年	奥村 凌多
真つ直ぐな向日葵見上げ沸く熱意	3年	加藤 瑞葵
空せみや子供の笑顔かごの中	3年	金田 大樹
アスファルト汗が一滴染みこんだ	3年	上河内廉太郎
教科書にぼつりとにじむ汗の色	3年	小島 颯太
被爆地もいつか必ず虹かかる	3年	兄玉 俊平
ぼたぼたと髪の新から君の汗	3年	兄玉 鈴音
今年こそ寝ずに年越しあと五分	3年	佐々木景子
ふと見れば春風がふく僕のよこ	3年	佐藤 良祐
菜種梅雨の家族の声消す雨の音	3年	下村 勇斗
春雷や胸の高鳴り君思う	3年	杉 美咲

三重県

広島 炎天 仰ぐ鶴千羽	3年	杉浦 弘昌
雪とけて道にぼっかりできた空	3年	立原 華音
キツツキの働く音にうとうと	3年	所 遥香
台風 足あと残り涙出る	3年	鳥谷尾亜美
背のびして窓から見上げた春の空	3年	中西 唄
雪の中 楽しむ君をながめてる	3年	夏目 彩美
夕焼けや海面に映る大鳥居	3年	西尾 壮生
炎天や原爆ドーム目が暗む	3年	西村 大翔
夕焼けや友と食べあうエビフライ	3年	服部 展朗
花菖蒲どっちがきれいかいぞ勝負	3年	馬場 皐誓
広島や夏の空 飛ぶ白い鳩	3年	林 幸希
薄水を割るたのしみもあと何度	3年	平塚 謙良
おばあちゃんひまわりみつめ会話中	3年	福岡 実生
びんの中キラリと光るラムネ玉	3年	藤田 菜緒
風鈴がりと揺れば口ゆるむ	3年	松岡 悠実
一吹きで世界をうつす石鹼玉	3年	村田 怜雅
風を切り夏走り抜け陸上部	3年	李野 明香
雪兔自由に駆ける夢を見る	3年	安江 孝太
だらだらと自宅見守るかかしかな	3年	安永 圭
部活動暑さふきとぶ友の声	3年	山敷 尚人
霜柱思わず足を踏み入れる	3年	山本 帆風
風りんが鳴り響く下赤子いる	3年	高田 果歩

入選
ランドセル桜の中で踊ってる
蝉の声響きわたるや森の中
3年 橋本 健人
原 一貴

大阪府

春雨の中で新たな出会いあり
蟬たちの合唱大会幕下りる
立夏かなみんなの笑顔走ってる
地球もね暑くて避暑地探してる
夏鶯鳴きまねをする友の声
夏の夜ほたるを見ると気持ち楽
晴れ舞台心中ゆさぶる巢立鳥
海風に向かい船こぐ立夏かな
風光るきのうとちがう第一歩
真夏の日部活にはげむいつもの日
夏祭り耳に届いたげたの音
君の前セミよりうるさい鼓動かな
海行かず夏を感じる水族館
桜散るその木の下に未来かな
潮あびの戻って夕餉賑かに
夏の月日付とともに欠けていき
雨の日に壁にはりつく蝸牛
早朝に怒りわき出すせみのこえ
夕焼けの空の補色が胸を打つ
滝の音が体にしみてゆく
1年 石井 瑠夏
1年 久米このあ
1年 倉内 大和
1年 斉藤菜々美
1年 坂元 颯真
1年 下瀧さくら
1年 中川 空雅
1年 福光 凜
1年 間定 晃汰
1年 宮内 成美
2年 内山 駿
2年 大濱 風
2年 川上 ゆい
2年 九河 里緒
2年 小池 崇文
2年 小島 大知
2年 中村 悠吾
2年 西村 雷
2年 野口 涼斗
2年 平野 真雄

兵庫県

夏祭りなれないゲタで足ぐねる
春暁やぬれる校庭楕円球
声援ではちまきなびく初夏の空
戦争の悲しさ語る夏の海
蒼穹や炎天が焼く赤瓦
この暑さばくの靴底溶けそうだ
宿題よ台風と共に飛んでいけ
川の中鮎のウロコが光りだす
夏の海平和を映す水鏡
声援を仲間に届けと団扇振り
運動場白靴踊らせ個性舞う
銀輪で島から島へ風光る
お年玉ばあちゃんいつも太っ腹
夕焼がみな心の心を照らしだす
稲の穂や遠くに見える赤い雲
ラフティング夏空ゆらす吉野川
春の星見上げる空に願いこめ
炎天下雲押し上げる皆の声
炎天下風に思いをのせてゆく
絵団扇の風がおおいだ闘争心
2年 榎谷 咲良
2年 山本 莉久
2年 吉川 優里
3年 荒駒 朱宥
3年 岡本 愛莉
3年 岡本 翼
3年 小野 悠
3年 岸本 伊織
3年 桐井 叶多
3年 黒岩木乃香
3年 小酒井智捺
3年 篠崎 彩花
3年 巽 仁志
3年 戸川 優育
3年 富田 悠雅
3年 仲里 未来
3年 野津 裕樹
3年 野村 春花
3年 野村 芽衣
3年 長谷川凌大
3年 泉 悠允
3年 牛尾 優花

夏空にみんなの願い飛んでゆく 3年 中川 珠綺
夏休みふとん蹴飛ばし起きる朝 3年 山本 采世

奈良県

水着をね着るためにダイエット 3年 飯田 有咲
熱帯夜エアコン切れず朝が来る 3年 市橋ひなた
カナブンが窓の光に吸われてく 3年 薄井 忠之
扇風機時計の針がすすむだけ 3年 右馬那々実
夏の星想像だけの家の中 3年 辻上 蒼
「明日やる。」四十言うと夏終わる 3年 前田 樹希
風鈴に響く因数分解と古典 3年 米田 豊満

島根県

夏の海キラキラ光るうろこかな 1年 永島 悠仁
いつもより笑顔にしたい母の日に 3年 植田 咲桜
ご先祖さんとおぼにのつて会いに来た 3年 植田 寧音
低く飛ぶ蝙蝠恐れ帰路急ぐ 3年 金築 我風
花火より君との距離の3センチ 3年 大門 ひな
別れ道君の手離れた木下闇 3年 土江 風紗
簾かけ入り込む光の柔らかさ 3年 藤原ゆりか
炎天下強く強くと稲生きる 3年 満田 太陽

岡山県

入選 あと五分チャイムが鳴ると夏休み 3年 伊東 留菜

目が合って少しにやけるソーダ水 3年 吉井ひなた

広島県

炎天のスポーツドリンク星3つ 2年 神原 菜緒
夏の空先のほどけた葉ひも 3年 阿部友紀乃
学ランを着たおとうとや風光る 3年 小川 璃子
暑い夏スケボーに乗り風をきる 3年 川品 佑真
涼風がふきぬけていく朝の道 3年 葛間由姫保
夏祭り一緒に歩く人おらず 3年 小林京太郎
この想いレモンと一緒に実らせて 3年 重森 美玖
梅雨はじめ朝の静けさ儚さと 3年 重森 裕葵
星月夜君おもふたび色づく葉 3年 下河内千尋
きりたんぽぽぽぽぽぽぽぽぽ 3年 永久 優磨
パラパラと本めくる音桃の花 3年 藤田 琉音
浴衣着てあの子といっしょに胸苦し 3年 堀江 華音
白組の最後の夏を駆け抜ける 3年 松浦 真浩
思い出が花火とともに打ち上がる 3年 森岡 恭平
暑き日や最後の一步次の手へ 3年 安森 由加
銀世界頬くつつけて待つ日の出 3年 山根 花菜
テストよりきんちよう走るクラス替え 3年 脇田 理名

山口県

夏の星自分の夢を探そうか 1年 網本 璃乃
受話器から祖父の声してお盆来る 1年 岸田 理歩

夏の日に空向きながら水を飲む 1年 松本 哲也
 シヤボン玉私と一緒に新世界 1年 村川 未羽
 夏風にのせてとどける校歌かな 2年 河村 諒大
 夏の空君との恋は水平線 2年 齋藤 楓
 災害の復旧はばむ暑い夏 2年 杉本 貴美
 夏の朝私をうつす空模様 2年 友利 理乃
 南風もう一息と背中押す 2年 福光 彩葉
 ひまわりと勝負にならぬ背比べ 3年 氏木 真
 縁側でならんで食べるかき氷 3年 藤廣 和香
 夏の空くやしい涙はおつたう 3年 宮本 紗希

愛媛県

気がつけば風鈴の音が響いてる 1年 井上 世梨
 海水浴たつのおとしご大発見 1年 井上 和奏
 赤とんぼ青き稲穂の海をゆく 1年 加納 幸村
 流星群神南山を飾りだす 1年 亀本 星
 春風やちいさな歌声耳元に 1年 松川みいな
 一回でも姿を見せて流れ星 1年 山口愛稀実
 春の授業校舎にしみ入る雨の音 2年 宇高 寧音
 森が言う世の生き物へ夏だよと 2年 花岡 咲希
 夏の風練習服をすり抜ける 2年 守野 恵
 ひまわりをブロック塀よりのぞき見る 3年 河上凜太郎
 玄関で母と手合わす原爆忌 3年 田丸 真楓
 レシーブをあげた背中を追う真夏 3年 東 星梨

高知県

みあげればプールみたいに青空だ 2年 伊東 愛奈
 踏切のすきから見える雲の峯 2年 今田 美柚
 打ち水の良き音響く田舎道 2年 氏原 聡志
 蟬の声あたりにひびく雨のあと 2年 川並 優仁
 宿題が終わらないのに遊ぶ夏 2年 北村 勇磨
 拭うけど止まりはしない汗の滝 2年 黒田ももこ
 永遠に二学期くるな夏休み 2年 瀧本幸一郎
 水鉄砲びつしよりぬれて大笑い 2年 味元 香凜
 いつもより張りきっているなつのうみ 2年 山下 礼

福岡県

夏河原水面に映る子の笑顔 1年 宇野 綾花
 すいかわり真っ赤な池に黒い魚 1年 小山日菜乃
 セミとまる昨日干したTEEシャツに 1年 木戸 茉優
 グラウンド球児の声と蝉時雨 1年 深江 将平
 空と海どちらの青を泳ごうか 1年 松田 真実
 風鈴の音鳴り響く祖父の家 2年 小山 悠仁
 消しゴムが小さくならない夏休み 2年 大淵 奏愛
 万緑の中を歩いて滝みえる 2年 岡垣内楓花
 浴衣着て二人で歩くげたの音 2年 小川 愛結
 部活中吹いてくる風夏の匂い 2年 尾倉 妃南
 暑い夏今年地球が破裂しそう 2年 下 楓花
 空みれば僕らを照らす一等星 2年 永末 渉

佐賀県

暑い暑い毎日服が洗濯機	2年	松枝 夏
なつまつりひとごみのなきみをまつ	2年	村上 桜
青色の鏡の世界の水面花	2年	芳川 琴音
和太鼓の音色が響く夏の祇園	2年	吉田紗友里
二人だけ違いが分かる桜の木	3年	伊藤 史温
難しき濃霧の道を行く勇氣	3年	上田 桃
雪の日のさざんかの赤咲きほこる	3年	大内田知聖
熱風が届けてくれた土の匂い	3年	大塚 千嘉
飛んでいく麦わら帽子追いかける	3年	岡本 悠良
雪の朝口笛だけが響きけり	3年	越智凜太郎
夏期講習文字のられたうに迷い込む	3年	加茂 悠
涼しげな絵がらのついたうちわかな	3年	岸川 遥香
風鈴のささやきに負け寝てしまう	3年	堺 美祐
胸の傷火花とともに消えてゆく	3年	徳田 和咲
ひらすらにペンを動かす受験生	3年	徳永 也々
なみなみとなつかしの味ミルクセーキ	3年	中村帆乃加
浴衣着て鏡の前でひとまわり	3年	松延 希歩
夏の夜火薬の匂いが空を舞う	3年	安河内鈴之介
夏の昼鉄板の上を歩いてく	3年	彌田 一晟
梅雨の時期くもの巣につく真珠かな	3年	吉田 彩音
なつのよるだいさんかくが祖父のよう	1年	大山 航生
先生を見送りに行く春の雨	3年	江口 大介

長崎県

五月雨まるで誰かが泣いている	3年	大野結莉乃
ちゃんこ鍋はおぼる自分強くなる	3年	内藤 聡
縁側で友と語らう夏の夜	3年	峰下 晃史
楽器の音蟬の声には負けたくない	3年	山崎 遙加

熊本県

黄昏に身体をつつむ夏の風	1年	入江 晴紀
夏の朝川のせせらぎせみのこえ	1年	大内田美桜
夏の海スカイブルーに胸躍る	2年	田口 皓基
夏の海どこまでつづく青の世界	2年	松田 美樹
夕暮れに松茸香る我が家かな	3年	辻郷 伶
クリスマス男どうしの映画館	3年	古里 力斗

鹿児島県

風が吹く夜に一人で月を見る	3年	今田 雄大
年賀状書いてるときだけ友達嫌い	3年	田中 舞琳
雪ふる日ねているときにすずの音	3年	土屋 大翔
カタツムリいやーな時期にいやなやつ	3年	南 海也
水中を華やかに舞う金魚たち	1年	大西ひなの
夏休み空白うまるカレンダー	1年	木山 友陽
あと少し少しが長いかたつむり	1年	小湊 優輝
成長期われらとともに蝌蚪に足	1年	中野 寛士

水風船うず巻く水に差す光	1年	西田梨琉瑠	風鈴がわたしの体溶かしてく	3年	上温湯菜々
あじさいのダイヤモンドだ水光る	1年	栢 夏輝	夏空にシャトルが浮かぶ午後の時	3年	小倉 愛海
梅雨が明け部活に水筒2リットル	1年	原 有紀	砂浜にスイカが一つ涼しげに	3年	川畑 陽菜
かげろうがゆらめくそこはべつせかい	1年	平野 隆一	すぐに来てすぐに去り行くこの夏も	3年	下村 祐以
海開き皆が入って波が立つ	1年	福添 相人	向日葵と重なる友の黄色い笑顔	3年	平 ひより
祭りにてすくった金魚が居間泳ぐ	1年	道添 叶望	脳内を超能力で読む親友	3年	高田 朱夏
夏期講習ずっと聞こえるペンの音	1年	宮地 翼	手の横が黒くなる夏受験生	3年	野島 大海
扇風機どうしてなのかあーと言う	1年	山元 咲和	右耳の2ミリ右からせみの声	3年	野田祥太郎
夏の海静かにゆれる子どもたち	2年	肥田 俊輔	宿題も部屋に入るのも急ぐ夏	3年	野間美優姫
海を背にパンと一発スイカわり	2年	大迫 春希	ひまわりが空に向かってほえんだ	3年	濱田 太陽
甲子園涙がにじむ汗が散る	2年	小川 純聖	春の海波穏やかに揺れる水	3年	藤井 心雪
おはようとかたつむり顔のぞかせる	2年	木田 夢果	行きづまる計算解く手汗ぬぐう	3年	藤崎 琴子
妹のかわいい笑顔しゃぼん玉	2年	小屋 真咲	水面の青き飛行士飛魚氏	3年	宮原 世弥
花火みる皆で見ると笑顔の輪	2年	寄川あいか	アクリルに描かれたような夏の空	3年	和田 悠輝
鼻をつく霜のにおいが私は好きだ	2年	新名主葵子			
赤とんぼ夕日と重なり一体感	2年	平 慈源	沖縄県		
暗闇に白い紫陽花まがりかど	2年	竹井 瑠香			
汗なみだにじんできましたプリントが	2年	徳永健太郎			
母さんと目線が同じになった夏	2年	西川内理沙			
栗ごはんさんまも食いたい松たけも	2年	野村 一花			
夏休み声をひびかす応援団	2年	浜口 敬太	線香花火記憶もろともぱっと爆ぜ	3年	幸地 綾音
陽炎の命のように美しくあれ	2年	松元 美海	夏のくも無心になれる釣りの時	3年	平良 琉海
目がまわる私のまわりに赤とんぼ	2年	山口 夏花	歩みゆく輝くかばんに春一番	3年	竹島 樹
稲の波かさわけ進むトラクター	3年	井之上穂佳	桜散るその時僕の夢叶う	3年	玉城 智誠

● 選考について ●

今年度のNHK全国短歌・俳句大会ジュニアの部には、多くの作品のご応募がありました。

短歌大会には、一八、〇二九首（幼児・小学生三、六四九首、中学生一四、三八〇首）。俳句大会には、三九、三六一句（幼児二九九句、小学生二一、〇八五句、中学生二七、九七七句）もの投稿をいただきました。第一次審査を、九月十八日、十九日それぞれにNHK学園にて行いました。その結果の入選作品を本選に送りました。

短歌では、小島なお先生、松村正直先生、俳句では、神野紗希先生、木暮陶句郎先生が、選考にあたりました。

学校全体で取り組み、応募率及び、入選率が高い学校・団体へ学校大賞、学校優秀賞を、また、小規模校等で独自の取り組みが見られた学校・団体へ特別賞をお贈りいたしました。

短歌、俳句ともに、選者特選、秀作入賞作品には賞状をお贈りいたします。

平成三十一年一月吉日

NHK全国短歌・俳句大会ジュニアの部事務局

一次審査会選者名（五十音順）

短歌

五十嵐順子（歌と観照）	大沢 優子（中部短歌）
大西 淳子（コスモス）	岡崎由美子（未来）
佐佐木定綱（心の花）	関谷 啓子（短歌人）
中島 裕介（未来）	花山 周子（塔）
嶺野 恵（未来）	山内 頌子（塔）

俳句

石嵩 岳（嘉祥・樵・雪解）	川田由美子（海程・俳句十代）
田口 茉於（若竹）	高勢 祥子（街）
津高里永子（小熊座）	鴫田 智哉（オルガン）
野口 る理	橋本 直（豈・鬼）
宮崎 斗士（海程）	森下 秋露（澤）

受賞作品が決まるまで

①作品募集



②一次審査



③本選



入選決定

④最終選考会



特別賞決定

⑤発表（大会当日）

●学校の取組み●

応募時に記載いただいた「学校の取組み」から抜粋させていただきます。

☆毎週木曜日の朝は全校で短歌を作っています。季節のこと
行事友達との交流などを短歌にしています。子ども達の視
点にこちらが感心することもしばしばあります。

(郡上市立大和西小学校 青木淑子)

☆全学年の国語科に詩歌の時間を設定し、低学年のうちから
俳句や短歌に親しむことができるようにしています。また、
クラス毎に歌会や句会を行ったり全校朝会で歌づくり、俳
句づくりゲームを行ったりしています。

(麻生学園小学校 福丸美紀)

☆歌人中村憲吉生誕の地にある本校では、小学校から短歌に
親しみ、毎月一人一首の創作に取り組んでいます。年一回
開催する、地域の方や小学生との短歌交流会は楽しみな行
事です。

(三次市立布野中学校 大前美保子)

☆国語の授業の中で「短歌」の基礎について学習した後、各々
が好きな季節のエピソードを書き出し、その中から言葉を
精選しながら、五七五七七の調べに乗せていくという活動
を毎年行っています。

(兵庫県立神戸聴覚特別支援学校 高浜由美)

☆月に1〜2回程度、朝の時間等を利用して韻文の創作活動
に取り組んでいます。

(南砺市立井口中学校 細川祐二)

☆地元の俳句の会の方に教えていただきながら、全校で取り
組んでいる。月3〜4回の俳句集会でランダムに並べた俳句
をグループで味わい優秀句を選んでいる。また、廊下に投
句箱を設け、季語を掲示して自由に投句してもらっている。

(池田町立池田小学校 山田美恵)

☆「和俳句(なごみはいく)」という、季節の俳句を詠む取り
組みを定期的に行っています。特に優れた俳句を「和賞、
和大賞」として、全校朝会で表彰しています。また、児童
が詠んだ作品を校内で掲示し、友達の作品の良さを感じた
り、自分の作品を振り返ることができるようにしています。

(東広島市立三ツ城小学校 中森可葉)

☆今年度より月1回程度の俳句コンクールを始めました。自
然や周囲の人を意識することで感性を育もうと取り組んで
います。

(我孫子市立新木小学校 須賀 毅)

☆学校行事や季節をテーマに随時時間を取り、全校で俳句作
りに取り組んでいる。俳句コーナーを設け、学年ごとに掲
示している。

(東広島市立寺西小学校 中田美保子)

☆毎週金曜日の朝活動で「牧水タイム」を設定し、全校で短
歌・俳句作りを行っている。夏休みの宿題で俳句を一人10
句作成する。

(日向市立坪谷小学校 萬福まどか)

☆「五感を使って日本の文化を伝えよう」という学習の中で
取り組んでみました。
(巻サミト教室 村木詩枝)

☆行事ごとに俳句を考え作成し、全校で取り組んでいます。
選句会を行い、教員が表彰を行っています。

(東大阪市立石切中学校 山本篤志)
☆全年の生徒が授業や長期休みを利用して俳句を作成して
います。
(長島町立長島中学校 中西佳奈子)

☆郡上市大和町にある本校では、古今伝授の里のふるさと学
習として短歌学習に取り組んでいます。今年度からは、町
内の学校とTV会議システムを使った短歌の交流にも取り
組んでいます。
(郡上市立大和北小学校 澤谷真一)

☆毎月、児童全員が俳句や短歌をつくり、朝会で代表者が発
表する。(各学年3〜4名程度)発表作品は校長室前の掲
示板に貼り、児童が鑑賞できるようにしている。

(八王子市立鹿島小学校 源田佐知子)
☆校内に文学の作品コーナーが設置され、子どもたちの作品
を自由にいつでも鑑賞できるようにしています。

(宮崎大学教育学部附属小学校 高野睦美)
☆全校の子どもたちが一人一冊和歌ノートを持ち、和歌づく
りをしています。校内には、全員の和歌を掲示しています。

(浜松市立県居小学校 岡本綾子)
☆5、6年生は毎年夏休み前に短歌のルール等を勉強します。

そして、夏休みの経験や思い出を詠んだ作品で交流してい
ます。百人一首をみんなで覚え、カルタをするなど、短歌
に親しむ機会を設けています。(カリタス小学校 市原 翠)

☆本校では毎月「今月の俳句」を発行しています。その中か
ら校長賞を選定するなどし、子どもたちが意欲的に取り組
んでいます。俳句づくりを通して語彙力や言語感覚を磨く
ことを目指しています。(安田学園 安田小学校 石田晶子)

☆1年生から俳句づくりに取り組み、全校で四季ごとの俳句
会を行っている。校長、国語科主任による選考をした後、選
ばれた俳句を表彰、掲示し、児童の意欲を喚起している。

(鶴学園 なぎさ公園小学校 佐々木彩)
☆宮崎県は若山牧水の故郷であることから、短歌作りや朗詠、
かるたに親しんでいる。市町村の主催する短歌コンクール
には、いつも全校生徒で参加している。

(大淀学園 鵬翔中学校 毛利寿美子)
☆短歌の単元で短歌作りに取り組んだ。常陸太田は自然豊か
な土地。時間をとって生徒が思い思いに散策しながら作品
づくりを行った。(常陸太田市立峰山中学校 粕谷みのり)

☆国語の授業の一環として、長期休業明けや修学旅行の思い
出等をテーマに、年3回ほど機会を設けて取り組み、短冊
に清書した作品を掲示している。

(蓮田市立平野中学校 田村智美)

第20回NHK全国短歌・俳句大会 ジュニアの部参加校名・団体一覧 (都道府県内順不同)

北海道

陸別町立陸別小学校 (俳句)
遠別町立遠別小学校 (俳句)
富良野市立支部小学校 (俳句)
小樽市立潮見台小学校 (俳句)
短歌森の会森の若葉 (短歌)
洞爺湖町立虻田中学校 (短歌 俳句)
網走市立第三中学校 (俳句)
厚真町立厚南中学校 (短歌 俳句)
札幌市立朋園中学校 (俳句)
札幌光星中学校 (短歌 俳句)
士別市立士別中学校 (短歌 俳句)
札幌市立明園中学校 (短歌)
短歌森の会森の若葉 (短歌)
中頓別町立中頓別中学校 (短歌)

青森県

十和田市立高清水小学校 (俳句)
平川市立平賀東小学校 (短歌 俳句)
野辺地町立野辺地小学校 (俳句)
六戸町立六戸小学校 (俳句)
三沢市立木崎野小学校 (短歌)
弘前市立第二中学校 (短歌 俳句)
つがる市立車力中学校 (俳句)
五所川原市立五所川原第一中学校 (短歌 俳句)
弘前市立新和中学校 (短歌)
三沢市立堀口中学校 (短歌)

岩手県

滝沢市立滝沢第二小学校 (俳句)

一関市立老松小学校

西和賀町立沢内中学校 (短歌 俳句)
奥州市立江刺南中学校 (短歌 俳句)
宮古市立重茂中学校 (短歌 俳句)
釜石市立唐丹中学校 (短歌 俳句)
盛岡市立仙北中学校 (短歌 俳句)
盛岡市立渋民中学校 (短歌 俳句)
久慈市立山形中学校 (短歌 俳句)
岩手町立川口中学校 (短歌 俳句)
洋野町立宿戸中学校 (短歌 俳句)
岩手大学教育学部附属中学校 (短歌 俳句)
岩手町立一方井中学校 (短歌 俳句)
北上市立江釣子中学校 (短歌)
一関市立大原中学校 (短歌)

宮城県

利府町立利府第三小学校 (俳句)
聖ドミニコ学院小学校 (短歌 俳句)
仙台白百合学園小学校 (俳句)
仙台市立高森中学校 (短歌 俳句)
栗原市立栗原西中学校 (俳句)
仙台市立六郷中学校 (短歌 俳句)

秋田県

八峰町立峰浜小学校 (俳句)
三種町立八竜中学校 (俳句)
北秋田市立合川中学校 (俳句)
湯沢市立湯沢南中学校 (短歌 俳句)
井川町立井川義務教育学校 (短歌)
潟上市立天王中学校 (短歌)

山形県

白鷹会 よつばこども園 (俳句)
白鷹会 愛真こども園 (俳句)
米沢市立六郷小学校 (短歌 俳句)

福島県

会津若松市立河東学園小学校 (短歌 俳句)
いわき市中央台東小学校 (短歌 俳句)
富岡町立富岡第一小学校 三春校 (俳句)
富岡町立富岡第二小学校 三春校 (俳句)
須賀川市立阿武隈小学校 (俳句)
会津若松市立一箕小学校 (俳句)
郡山市立穂積小学校 (短歌 俳句)
桜の聖母学院小学校 (短歌 俳句)
郡山市立薫小学校 (俳句)
天栄村立天栄中学校 (俳句)
いわき市立玉川中学校 (短歌 俳句)
二本松市立二本松第二中学校 (俳句)
須賀川市立第三中学校 (俳句)
福島市立立子山中学校 (短歌 俳句)
いわき市立小名浜第二中学校 (俳句)
いわき市立江名中学校 (短歌 俳句)
平田村立ひらた清風中学校 (短歌)
白河市立五箇中学校 (短歌)
三春町立三春中学校 (短歌)
いわき市立中央台南中学校 (短歌)
郡山市立喜久田中学校 (短歌)
いわき市立好間中学校 (短歌)

茨城県

真壁保育園

(俳句)

下妻市立高道祖小学校

(短歌俳句)

潮来市立牛堀小学校

(短歌俳句)

リリーホール小学校

(短歌俳句)

龍ヶ崎市立大宮小学校

(俳句)

稲敷市立古渡小学校

(俳句)

常陸太田市立峰山中学校

(短歌俳句)

那珂市立瓜連中学校

(短歌俳句)

常総学院中学校

(短歌俳句)

水戸市立第四中学校

(短歌俳句)

江戸川学園取手中学校

(俳句)

栃木県

宇都宮短期大学附属中学校

(短歌俳句)

佐野市立北中学校

(短歌)

群馬県

東吾妻町立岩島小学校

(俳句)

神流町立万場小学校

(短歌俳句)

前橋市立月田小学校

(短歌俳句)

前橋市立東小学校

(短歌俳句)

伊勢崎市立あずま北小学校

(短歌俳句)

藤岡市立美土里小学校

(短歌俳句)

吉岡町立吉岡中学校

(短歌俳句)

桐生市立川内中学校

(短歌俳句)

埼玉県

加須市立花崎北小学校

(俳句)

宮代町立笠原小学校

(俳句)

上尾市立鴨川小学校

(短歌俳句)

春日部市立藤塚小学校

(俳句)

草加市立八幡小学校

(俳句)

さいたま市立田島小学校

(短歌俳句)

羽生市立羽生南小学校

(俳句)

春日部市立中野小学校

(短歌俳句)

加須市立鴻基小学校

(短歌俳句)

本庄市立藤田小学校

(俳句)

久喜市立江面第一小学校

(俳句)

加須市立高柳小学校

(俳句)

所沢市立北秋津小学校

(俳句)

行田市立荒木小学校

(短歌俳句)

春日部市立小淵小学校

(俳句)

西武学園文理小学校

(短歌俳句)

宮代町立百間小学校

(俳句)

所沢市立安松小学校

(俳句)

川越市立福原中学校

(俳句)

春日部市立中野中学校

(俳句)

所沢市立柳瀬中学校

(短歌俳句)

入間市立東金子中学校

(短歌俳句)

鶴ヶ島市立藤中学校

(短歌俳句)

桶川市立桶川東中学校

(短歌俳句)

上里町立上里北中学校

(短歌俳句)

狭山市立中央中学校

(短歌俳句)

川越市立寺尾中学校

(俳句)

春日部市立大沼中学校

(短歌俳句)

朝霞市立朝霞第二中学校

(短歌俳句)

北本市立東中学校

(俳句)

さいたま市立宮原中学校

(短歌俳句)

蓮田市立平野中学校

(短歌)

春日部市立江戸川中学校

(短歌)

幸手市立西中学校

(短歌)

千葉県

花見川さくら学園

(俳句)

船橋市立法典西小学校

(短歌俳句)

千葉市立幕張小学校

(俳句)

鎌ヶ谷市立中部小学校

(短歌俳句)

成田市立本城小学校

(短歌俳句)

船橋市立法典東小学校

(短歌俳句)

千葉市立扇田小学校

(短歌俳句)

千葉市立源小学校

(短歌俳句)

我孫子市立新木小学校

(俳句)

柏市立柏第五小学校

(短歌俳句)

東庄町立神代小学校

(俳句)

八街市立八街北小学校

(短歌俳句)

八千代市立勝田台小学校

(短歌俳句)

松戸市立松飛台小学校

(短歌俳句)

市川市立大和田小学校

(短歌俳句)

市川市立東国分中学校

(俳句)

勝浦市立勝浦中学校

(俳句)

茂原市立富士見中学校

(短歌俳句)

松戸市立旭町中学校

(短歌俳句)

市原市立ちはら台南中学校

(短歌俳句)

専修大学松戸中学校

(俳句)

東京都

みのり幼稚園

(俳句)

豊島区立巢鴨小学校

(俳句)

江戸川区立西一之江小学校

(俳句)

武蔵村山市立大南学園第七小学校

(俳句)

東京朝鮮第二初級学校

(俳句)

町田市立三輪小学校

(俳句)

檜原村立檜原学園檜原小学校

(俳句)

調布市立若葉小学校

(俳句)

足立区立中川東小学校

(俳句)

東京朝鮮第五初中級学校

(俳句)

渋谷区立神宮前小学校

(俳句)

荒川区立第四峡田小学校

(俳句)

八王子市立鹿島小学校

(短歌俳句)

中央区立月島第一小学校

(俳句)

文京区立明化小学校

(短歌俳句)

葛飾区立新宿小学校

(短歌俳句)

葛飾区立こすげ小学校

(俳句)

新宿区立戸塚第一小学校

(俳句)

トキワ松学園小学校

(俳句)

町田市立町田第四小学校

(俳句)

小平市立小平第七小学校

(俳句)

品川区立京陽小学校

(俳句)

江東区立豊洲北小学校

(俳句)

にしまたか学園三鷹市立井口小学校

(短歌俳句)

葛飾区立亀有中学校

(短歌俳句)

多摩市立諏訪中学校

(俳句)

練馬区立豊浜中学校

(短歌俳句)

大田区立大森第六中学校

(短歌俳句)

荒川区立第四中学校

(短歌俳句)

八王子市立第四中学校

(短歌俳句)

共立女子中学校

(短歌俳句)

台東区立駒形中学校

(短歌俳句)

国立市立国立第一中学校

(短歌俳句)

文教大学付属中学校 (短歌 俳句)	三浦市立三崎中学校 (短歌 俳句)	高岡市立国吉中学校 (短歌 俳句)	塩尻市立塩尻中学校 (短歌)
板橋区立志村第五中学校 (短歌 俳句)	公文国際学園中等部 (短歌 俳句)	南砺市立井口中学校 (短歌 俳句)	
富士見丘中学校 (短歌 俳句)	横浜翠陵中学校 (短歌 俳句)		
目黒区立第七中学校 (短歌 俳句)	関東学院中学校 (短歌 俳句)	石川県 (俳句)	岐阜県 (俳句)
江東区立東陽中学校 (短歌 俳句)	横浜市立豊田中学校 (短歌 俳句)	中能登町立鹿島小学校 (俳句)	揖斐川町立谷汲小学校 (俳句)
墨田区立両国中学校 (短歌 俳句)	横浜市立深谷中学校 (俳句)	中能登町立鳥屋小学校 (短歌 俳句)	関市立倉知小学校 (俳句)
武蔵村山市立天南学園第四中学校 (短歌 俳句)	伊勢原市立山王中学校 (短歌 俳句)	北陸学院中学校 (俳句)	郡上市立大和西小学校 (短歌 俳句)
東京朝鮮第五初中級学校 (短歌 俳句)	川崎市立野川中学校 (短歌 俳句)	七尾市立七尾中学校 (俳句)	恵那市立串原小学校 (俳句・短歌)
文京区立音羽中学校 (俳句)	藤沢市立善行中学校 (短歌 俳句)	七尾市立能登香島中学校 (短歌)	恵那市立三郷小学校 (俳句)
共立女子中学校 (短歌 俳句)	平塚市立神田中学校 (短歌 俳句)		岐阜市立三輪北小学校 (俳句)
東京朝鮮第一初中級学校 (短歌 俳句)	横浜市立日野南中学校 (短歌 俳句)	福井県 (俳句)	郡上市立那留小学校 (短歌 俳句)
江東区立深川第五中学校 (短歌 俳句)		池田町立池田小学校 (俳句)	郡上市立大和第一北小学校 (短歌)
海城中学校 (短歌 俳句)	新潟県 (俳句)	坂井市立三国西小学校 (短歌 俳句)	多治見市立南姫中学校 (俳句)
葛飾区立金町中学校 (短歌 俳句)	燕市立小中川小学校 (俳句)	福井市東藤島小学校 (短歌 俳句)	下呂市立小坂中学校 (短歌 俳句)
杉並区立西宮中学校 (短歌 俳句)	長岡市立中之島中央小学校 (俳句)	永平寺町立上志比小学校児童クラブ (俳句)	下呂市立竹原中学校 (短歌 俳句)
八丈町立富士中学校 (短歌 俳句)	出雲崎町立出雲崎小学校 (俳句)	永平寺町立吉野小学校吉野児童クラブ (俳句)	郡上市立大和中学校 (短歌)
三鷹市立第一中学校 (短歌 俳句)	弥彦村立弥彦小学校 (俳句)	永平寺町立御陵小学校 (俳句)	
八王子市立元八王子中学校 (短歌)	巻サミト教室 (短歌 俳句)	福井市森田小学校 (俳句)	静岡県 (短歌 俳句)
足立区立入谷南中学校 (短歌)	長岡市立栖吉中学校 (短歌 俳句)	鯖江市中央中学校 (短歌 俳句)	静岡大学教育学部附属浜松小学校 (短歌 俳句)
東京学芸大学附属国際中等教育学校 (短歌)	新潟市立小新中学校 (短歌 俳句)		浜松市立県居小学校 (俳句)
東久留米市立南中学校 (短歌)	佐渡市立南佐渡中学校 (短歌 俳句)	山梨県 (俳句)	静岡市立清水興津中学校 (短歌 俳句)
	長岡市立中之島中学校 (俳句)	笛吹市立境川小学校 (俳句)	静岡市立由比中学校 (短歌 俳句)
	新潟市立白南中学校 (短歌 俳句)	駿台甲府中学校 (短歌 俳句)	静岡市立賤機中学校 (俳句)
神奈川県 (短歌 俳句)		長野県 (短歌 俳句)	静岡市立清水第八中学校 (短歌)
洗足学園小学校 (俳句)	富山県 (短歌 俳句)	長野市立南部小学校 (短歌 俳句)	静岡市立豊田中学校 (短歌)
横浜市立鶴ヶ峰小学校 (俳句)	富山市立東部小学校 (俳句)	喬木村立喬木第二小学校 (短歌 俳句)	
カリタス小学校 (短歌 俳句)	高岡市立伏木小学校 (俳句)	長野日本大学中学校 (俳句)	愛知県 (短歌 俳句)
横須賀学院小学校 (俳句)	高岡市立東五位小学校 (俳句)	長野市立中条中学校 (短歌 俳句)	新城市立新城小学校 (俳句)
桐光学園小学校 (短歌)	富山市立奥田中学校 (短歌 俳句)	塩尻市立広陵中学校 (短歌)	西尾市立西野町小学校 (俳句)
横浜市立文庫小学校 (短歌 俳句)			東海市教育委員会社会教育課 (短歌)
横浜市立上郷中学校 (短歌 俳句)			

名古屋市立桜丘中学校 (俳句)

西尾市立西尾中学校 (短歌・俳句)

幸田町立南部中学校 (俳句)

豊橋市立青陵中学校 (短歌・俳句)

小牧市立北里中学校 (短歌・俳句)

名古屋市立萩山中学校 (短歌・俳句)

豊橋市立南陽中学校 (俳句)

刈谷市立刈谷東中学校 (短歌・俳句)

東海学園東海中学校 (短歌・俳句)

名古屋市立鳴海中学校 (短歌・俳句)

安城市立東山中学校 (短歌・俳句)

長久手市立北中学校 (短歌・俳句)

名古屋市立駒方中学校 (短歌・俳句)

三重県

亀山市立中部中学校 (短歌・俳句)

滋賀県

草津市立老上小学校 (短歌・俳句)

草津市立矢倉小学校 (俳句)

草津市立笠縫東小学校 (俳句)

京都府

ノートルダム学院小学校 (短歌・俳句)

大阪府

大阪市立森之宮小学校 (俳句)

賢明学院小学校 (短歌・俳句)

大阪市立大東小学校 (俳句)

東大阪市立石切中学校 (俳句)

茨木市立太田中学校 (俳句)

大阪市立長吉六反中学校 (短歌・俳句)

大阪市立大正中央中学校 (短歌・俳句)

兵庫県

小林聖心女子学院小学校 (短歌・俳句)

明石市立明石小学校 (短歌・俳句)

雲雀丘学園中学校 (俳句)

兵庫県立神戸聴覚特別支援学校 (短歌・俳句)

奈良県

帝塚山小学校 (短歌・俳句)

智辯学園奈良カレッジ小学部 (短歌・俳句)

奈良市立春日中学校夜間学級 (俳句)

宇陀市立室生中学校 (俳句)

上牧町立上牧中学校 (短歌・俳句)

香芝市立香芝東中学校 (短歌・俳句)

五條市立五條東中学校 (俳句)

和歌山県

鳥取県

鳥取市立神戸小学校 (短歌・俳句)

日野町立日野中学校 (俳句)

島根県

飯南町立頓原小学校 (俳句)

奥出雲町立仁多中学校 (俳句)

松江市立鹿島中学校 (俳句)

飯南町立頓原中学校 (短歌・俳句)

出雲市立浜山中学校 (俳句)

出雲市立湖陵中学校 (短歌・俳句)

岡山県

倉敷市立乙島小学校 (短歌・俳句)

倉敷市立老松小学校 (短歌)

倉敷市立連島南小学校 (短歌)

玉野市立日比中学校 (短歌・俳句)

岡山市立高島中学校 (短歌)

広島県

東京学習社 (短歌・俳句)

福山市立野々浜小学校 (俳句)

府中市立栗生小学校 (俳句)

東広島市立三ツ城小学校 (俳句)

安田学園 安田小学校 (短歌・俳句)

鶴学園 なぎさ公園小学校 (短歌・俳句)

三原市立沼田西小学校 (俳句)

東広島市立寺西小学校 (俳句)

広島三育学院小学校 (俳句)

東広島市立乃美尾小学校 (短歌・俳句)

庄原市立比和小学校 (短歌・俳句)

ぎんがの郷小学校 (短歌・俳句)

福山市立広瀬小学校 (俳句)

庄原市立栗田小学校 (短歌・俳句)

福山市立御幸小学校 (俳句)

尾道市立吉和小学校 (短歌・俳句)

広島市立大州中学校 (短歌・俳句)

呉市立郷原中学校 (短歌・俳句)

呉市立蒲刈中学校 (短歌・俳句)

福山曉の星女子中学校 (俳句)

北広島町立豊平中学校 (俳句)

広島市立亀山中学校 (俳句)

呉市立豊浜中学校 (短歌・俳句)

三原市立宮浦中学校 (短歌・俳句)

福山市立松永中学校 (短歌・俳句)

広島市立阿戸中学校 (短歌・俳句)

広島市立観音中学校 (俳句)

三次市立布野中学校 (短歌)

広島市立観音中学校 (短歌)

安芸太田町立安芸太田中学校 (短歌)

山口県

周南市立和田小学校 (短歌・俳句)

岩国市立米川小学校 (俳句)

山口市立小郡南小学校 (短歌・俳句)

美祿市立豊田前中学校 (短歌・俳句)

岩国市立川下中学校 (短歌・俳句)

山口県立岩国総合支援学校(中学部) (短歌・俳句)

山口県立高森みどり中学校 (短歌・俳句)

柳井市立柳井西中学校 (俳句)

周南市立和田中学校 (俳句)

岩国市立玖珂中学校 (短歌)

徳島県

牟岐町立牟岐小学校 (俳句)

吉野川市立山川中学校 (短歌)

愛媛県

今治市立立花小学校 (短歌 俳句)
今治市立桜井小学校 (俳句)
西予市立多田小学校 (俳句)
鬼北町立泉小学校 (俳句)
四国中央市立新宮中学校 (俳句)
大洲市立新谷中学校 (短歌 俳句)
今治市立北郷中学校 (短歌 俳句)
伊方町立伊方中学校 (短歌 俳句)
砥部町立砥部中学校 (俳句)
松山市立垣生中学校 (俳句)
愛媛県立松山西中等教育学校 (短歌)

高知県

南国市立久礼田小学校 (俳句)
土佐市立高岡第一小学校 (短歌 俳句)
高知市立横内小学校 (俳句)
南国市立大篠小学校 (短歌 俳句)
いの町立本川中学校 (短歌 俳句)
土佐塾中学校 (俳句)
高知市立大津中学校 (短歌)
高知大学教育学部附属中学校 (短歌)
福岡県
筑紫野市立原田小学校 (短歌 俳句)
太宰府市立太宰府南小学校 (俳句)
筑紫野市立筑紫東小学校 (短歌 俳句)
苅田町立馬場小学校 (俳句)
麻生学園小学校 (短歌 俳句)
福津市立勝浦小学校 (俳句)

福岡市立香椎東小学校 (俳句)

築上町立西角田小学校 (俳句)

福岡県立久米聴覚特別支援学校中部 (短歌 俳句)

行橋市立長峽中学校 (短歌 俳句)

福岡県立嘉穂高等学校附属中学校 (短歌 俳句)

北九州市立大谷中学校 (俳句)

大野城市立大野東中学校 (短歌 俳句)

大牟田市立松原中学校 (短歌 俳句)

福岡市立老司中学校 (短歌 俳句)

筑紫野市立筑紫野南中学校 (短歌 俳句)

北九州市立曾根中学校 (短歌 俳句)

春日市立春日北中学校 (短歌 俳句)

直方市立直方第三中学校 (俳句)

福岡教育大学附属小倉中学校 (短歌 俳句)

大木町立大木中学校 (短歌)

佐賀県

白石町立北明小学校 (短歌 俳句)
鹿島市立古枝小学校 (短歌 俳句)
鳥栖市立弥生が丘小学校 (短歌 俳句)
鹿島市立鹿島小学校 (短歌 俳句)
佐賀県立武雄青陵中学校 (短歌 俳句)
太良町立多良中学校 (短歌 俳句)
玄海みらい学園 (俳句)

長崎県

中村グループ (俳句)
精道三川台小学校 (短歌 俳句)
西海市立雪浦小学校 (俳句)
五島市立久賀小学校 (俳句)

長崎市立西北小学校 (俳句)

南島原市立南有馬小学校 (俳句)

諫早市立真城中学校 (短歌 俳句)

長崎南山中学校 (短歌 俳句)

平戸市立生月中学校 (短歌)

熊本県

山鹿市立八幡小学校 (俳句)
熊本市立川尻小学校 (俳句)
熊本市立大津南小学校 (俳句)
大津町立美咲野小学校 (俳句)
人吉市立第一中学校 (俳句)

大分県

津久見市立青江小学校 (短歌 俳句)

宮崎県

宮崎大学教育学部附属小学校 (短歌 俳句)
都城市立乙房小学校 (短歌 俳句)
日向市立坪谷小学校 (短歌 俳句)
大淀学園 鵬翔中学校 (短歌 俳句)
西米良村立西米良中学校 (短歌 俳句)

鹿児島県

宇検村立田検小学校 (短歌 俳句)
始良市立永原小学校 (短歌 俳句)
南九州市立九玉小学校 (俳句)
長島町立鷹巣中学校 (短歌 俳句)
鹿児島県立楠隼中学校 (短歌 俳句)
鹿児島市立谷山中学校 (短歌 俳句)

鹿児島市立喜入中学校 (短歌 俳句)

長島町立長島中学校 (短歌 俳句)

西之表市立種子島中学校 (短歌 俳句)

鹿児島市立坂元中学校 (短歌 俳句)

始良市立重富中学校 (短歌 俳句)

鹿児島市立鴨池中学校 (短歌 俳句)

肝付町立岸良中学校 (短歌 俳句)

鹿児島市立吉田北中学校 (短歌 俳句)

沖縄県

那覇市立城南小学校 (俳句)
伊江村立伊江小学校 (俳句)
うるま市立宮森小学校 (短歌 俳句)
宮古島市立砂川中学校 (俳句)
北谷町立北谷中学校 (短歌 俳句)
名護市立羽地中学校 (短歌 俳句)
名護市立名護中学校 (俳句)

海外

ワシントン日本語学校 (短歌 俳句)

第20回

●NHK全国短歌・俳句大会—ジュニアの部—

入選作品集

平成31年1月19日 発行

編集／発行 NHK全国短歌・俳句大会事務局

〒186-8001 東京都国立市富士見台2-36-2 NHK学園内

電話 042-572-3151(代) ホームページ <http://www.n-gaku.jp>

印刷／藤原印刷株式会社

© 2019 NHK・NHK学園

作品集の作成にあたっては、あきらかな誤字・脱字以外は、原作のまま掲載いたしました。

誤植など不備な点がございましたらお許してください。

また落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

表紙デザイン／菊地信義

表紙写真／池田良二『空飛ぶ烏賊』

(第28回NHK学園生涯学習写真展「入選」)

N H K 番組情報

主演—中村勘九郎 阿部サダヲ
作—宮藤官九郎 音楽—大友良英 題字—横尾忠則 嘶—ビートたけし
総合 日曜午後8時／BSプレミアム 日曜午後6時／BS4K 日曜午前9時



東京オリンピック
嘶



大河ドラマ



TADASHI YOKO



Eテレ

日曜日 午前6:00～6:25
火曜日 午後3:00～3:25 (再)

短歌選者



東 直子



真中 朋久



松村 由利子



星野 真里



司会

有森 也実



Eテレ

日曜日 午前6:35～7:00
水曜日 午後3:00～3:25 (再)

司会

俳句選者



宇多 喜代子



岸本 尚毅



星野 高士



小林 聡美



岸本 葉子



戸田 菜穂

毎月第4日曜は初心者向け短歌・俳句番組をお送りしています。



Eテレ

第4日曜 午前6:00～6:25
翌週火曜 午後3:00～3:25 (再)

選者：栗木 京子 出演：スピードワゴン ほか



Eテレ

第4日曜 午前6:35～7:00
翌週水曜 午後3:00～3:25 (再)

選者：榎 未知子 出演：武井 壮、加藤 諒、酒井 敏也 ほか





N学で

マイスタイル OK!!

N学の
ここが魅力!

NHK学園は「新しい学び」を提供する、伝統ある広域通信制高等学校です。
創立56周年! 卒業生は、74,000人余りとなりました。

- ① インターネットを利用した、最先端の双方向学習で
‘わかる・できる’を実感。
- ② テレビ・ラジオの「NHK高校講座」が授業。インターネットの利用で
何度でもくり返し学習できるから、自分のペースで学べます。
- ③ 不登校生徒のための「ネット学習Do itコース」は文部科学省指定。
N学でしかできない独自のカリキュラムで3年間で卒業できます。
- ④ 面接指導会場は、全国に40か所。日本全国から入学できます。
入学のための筆記試験はありません。
- ⑤ 海外在住のまま高校を卒業できる「ネット学習海外コース」が
あり、世界中から入学できます。
- ⑥ 前籍校の修得単位をいかして転入学・編入学ができます。
高い進学実績も特長です。
- ⑦ 東京校は週3日登校して、キャンパスライフを
充実させる「登校コース」があります。
- ⑧ 学費も安心! 保護者の経済的負担も少なくできます。



まずはお電話を!

広域通信制・単位制
普通科

 **0120-451-424**

NHK学園高等学校

〒186-8001 東京都国立市富士見台2-36-2 (東京本校)

●資料請求・入学相談・説明会のお問い合わせ先

☎ 0120-451-424 FAX: 042-572-3332

ホームページ www.n-gaku.jp/sch

※入学案内と願書はホームページからダウンロードもできます。

●出願期間

2019年度

新入学(推薦)	1/15 ~ 1/24
新入学(一般)	1/25 ~ 4/30
編入学	1/25 ~ 4/30
転入学	3/1 ~ 随時

※詳しくはお問い合わせ下さい。

※登校コースは募集要項をご請求下さい。

●学校説明会・個別相談会

全国各地で開催予定。詳しくは
ホームページまたは、お電話にて
ご確認下さい。

(ネット学習Do itコース、
ベーシックコース、
ネット学習コース)

はじめての短歌講座

●受講期間／6か月 ●添削／5回

短歌が作れる工夫満載のテキストと問題集！

短歌の基本を5回に分けてわかりやすく解説したテキストで段階的に学びます。

ノート形式のレポートで5回分の添削記録が一冊に！

添削講師は、前回までの作品やのアドバイスをふまえて、わかりやすく添削しますので、進度が一目でわかります。

※より力をつける **入門コース** **実作コース**、「かなづかい」や「文法」を学ぶ **短歌 文法のツボ**、作品づくりに役立つ表現テクニックを学ぶ **短歌 表現のコツ** もあります。



はじめての俳句講座

●受講期間／6か月 ●添削／5回

わかりやすいドリル式テキスト

テキスト『俳句必携』で五七五のリズムや季語、歳時記のことなど、俳句の基本が章ごとにわかりやすく整理されています。

間違いやすいポイントを重点的に指導！

音数の数え方や季語の分類など、間違いやすい点をレポート課題を通じてアドバイスします。

※より力をつける **入門コース** **実作コース**、「かなづかい」や「文法」を学ぶ **俳句 文法のツボ**、作品づくりに役立つ表現テクニックを学ぶ **俳句 表現のコツ** もあります。



基本から学ぶ。わかりやすいテキストと練習問題で無理なくマスター。

学校の授業に役立てる 自分の趣味を増やすなどNHK学園がお手伝いします。

詳しい案内書を無料でお送りします。

☎0120-06-8881

NHK学園

〒186-8001 東京都国立市富士見台2-36-2 6B18係

ホームページ <http://www.n-gaku.jp/life> FAX.042-574-1006 TEL.042-572-3151(代)

希望講座名
郵便番号
住所氏名
電話番号

☑郵便はがき
〒186-8001
国立市富士見台
NHK学園
6B18係



ヤマザキ

www.yamazakipan.co.jp

おいしいパンと 暮らしていますか。

窓にそそぐ柔らかな日差しと爽やかな風。

お気に入りの曲をかけながら作るサラダ。

トーストの焼ける芳ばしい香り。

そんな何でもない時間の

かけがえのないやさしさ。

おいしいパンと暮らしていますか。

パンにはきっと、

毎日をやさしく豊かにする力がある。

私たちはそう信じています。



お〜お茶
とともに
30年。

第三十回 伊藤園 お〜お茶 新俳句大賞 作品募集中



イラスト:佐々木 一澄

第二十九回 文部科学大臣賞
受賞作品
獅子舞の回へ
太平洋の風

入賞作品2,000句は

お〜お茶
パッケージに
掲載されます。



心の風景を、書きとめよう。

お〜お茶
新俳句大賞
審査員の方々

※敬称略 五十音順

日本語
俳句の部



浅井 肇平 (写真家)



安西 篤 (俳人)



いとうせいこう (作家/ライター)



金田一秀穂 (日本語学者)



黒田 杏子 (俳人)



宮部 みゆき (作家)



村治佳織 (ギタリスト)



吉行 和子 (女優)

英語
俳句の部



アーサー・ビナード (詩人)



星野 恒彦 (俳人)

テーマ テーマは自由。自分で感じたこと、思ったことを季語や定型にこだわることなく、五・七・五のリズムにのせて、のびのびと表現してください。

応募方法 ハガキ、FAX (A4サイズ)、インターネットのいずれかの方法で、ご応募いただけます。
「応募部門と作品」「郵便番号」「住所」「氏名」「年齢」「電話番号」「Eメールアドレス」所属されている場合のみ「句会、学校名、サークル名」を明記してください。

応募締切 2019年2月28日(木) 当日消印/送信有効 ※団体応募締切: 2019年2月12日(火) 必着有効

※個人情報の取り扱いについて...ご応募いただいた方の個人情報は、応募者ご本人、または応募者ご本人が中学生以下の場合はその保護者の許可なく業務委託先以外の第三者に個人情報を開示することはありません。入賞・入選作品につきましては、発表のために、作者名・年齢・都道府県・市区町村名を公表させていただきます。

応募宛先 「伊藤園 お〜お茶 新俳句大賞」係まで

●ハガキ 〒102-8553 東京都千代田区紀尾井町3-23

●FAX 03-3263-5668

●インターネット <https://itoen-shinhaiku.jp>

※審査の過程で、直接お電話にて、ご連絡させていただく場合がございます。

※ご応募に際しての郵便料金ならびにインターネットの接続料、通信料などはお客様のご負担となります。



お問い合わせ先: 伊藤園 新俳句大賞事務局 TEL 03-3264-4050 10時~18時(土日祝日・年末年始を除く)

詳しくは伊藤園ホームページまたは上記お問い合わせ先にご確認ください。

第20回 **NHK** *Junior* ジュニアの部
全国短歌俳句大会
NHK Zenkoku Tanka Haiku taikai
入選作品集

第20回 **NHK全国短歌俳句大会** ジュニアの部

日時：2019年1月19・20日 午後1時～4時

会場：NHKホール

主催：NHK・NHK学園

後援：文化庁・東京都

〈短歌〉現代歌人協会・日本歌人クラブ

〈俳句〉公益社団法人俳人協会・現代俳句協会・

公益社団法人日本伝統俳句協会・国際俳句交流協会

協力：NHKエデュケーショナル・NHK出版

協賛：〈短歌〉山崎製パン株式会社 〈俳句〉伊藤園